B6FJ-5321-01

LIFEBOOK

LIFEBOOK T900/B

製品ガイド

本書をお読みになる前に
1 各部名称
2 取り扱い
3 周辺機器
4 セキュリティ
5 ソフトウェア
6 BIOS
7 お手入れ
8 トラブル シューティング
9 仕様

目次

本書をお読みになる前に 8

安全にお使いいただくために 8
本書の表記 8
Windowsの操作 10
商標および著作権について 11

第1章　各部名称

1.1 パソコン本体前面 13
1.2 パソコン本体右側面 15
1.3 パソコン本体左側面 16
1.4 パソコン本体背面 17
1.5 パソコン本体下面 18
1.6 キーボード 19
1.7 状態表示LED 21
1.8 セキュリティボタン／タブレットボタン 22
1.9 ポートリプリケータ 23

第2章　取り扱い

2.1 フラットポイント 25
2.1.1 注意事項 25
2.1.2 基本操作 26
2.1.3 高度な操作 27
2.1.4 フラットポイントの設定を変更する 28
2.1.5 マウスとフラットポイントを同時に使用する 30
2.1.6 フラットポイントの有効／無効を切り替える 30
2.2 マウス 31
2.2.1 注意事項 31
2.2.2 マウスの基本設定を変更する 32
2.3 タッチパネル 33
2.3.1 注意事項 33
2.3.2 キャリブレーション 34
2.3.3 基本操作 35
2.3.4 ペンの機能を設定する 36
2.3.5 Tablet PC入力パネル 36
2.3.6 ペン先を交換する 36
2.4 ディスプレイ 37
2.4.1 注意事項 37
2.4.2 キーボードで明るさを変更する 37
2.4.3 「電源オプション」で明るさを変更する 37
2.4.4 解像度を変更する 38
2.4.5 拡大表示設定を変更する 38

2.5 マルチディスプレイ機能 40
2.5.1 マルチディスプレイ機能とは 40
2.5.2 注意事項 40
2.5.3 拡張デスクトップ表示に設定する 41
2.5.4 クローン表示に設定する 42
2.5.5 シングル表示に設定する 42
2.5.6 表示方法を切り替える 43
2.6 タブレットモード 45
2.6.1 ノートパソコンモードとタブレットモード 45
2.6.2 注意事項 45
2.6.3 タブレットモードにする 46
2.6.4 手動で画面表示の向きを変える 47
2.6.5 状態が変わったときの動作を設定する 48
2.7 サウンド 49
2.7.1 全体の再生音量を調節する 49
2.7.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する 49
2.7.3 機器や項目ごとの音量を調節する 50
2.7.4 音声入出力端子の機能を切り替える 51
2.7.5 再生する機器を選択する 51
2.8 省電力機能 52
2.8.1 省電力の状態について 52
2.8.2 注意事項 52
2.8.3 省電力状態にする 52
2.8.4 省電力状態からレジュームする 53
2.8.5 電源を切る 54
2.8.6 省電力の設定を変更する 55
2.8.7 省電力モード 57
2.9 バッテリ 58
2.9.1 注意事項 58
2.9.2 バッテリを充電する 59
2.9.3 バッテリの残量を確認する 60
2.9.4 バッテリを交換する 61
2.9.5 バッテリの充電モードを変更する 62
2.9.6 バッテリの状態を確認する 63
2.10 CD/DVDドライブ 64
2.10.1 注意事項 64
2.10.2 使用できるディスク 65
2.10.3 ディスクをセットする 67
2.10.4 ディスクを取り出す 68
2.10.5 ディスクに書き込む 69
2.10.6 DVD-Videoを再生する 70
2.11 モバイルマルチベイ 72
2.11.1 注意事項 72
2.11.2 モバイルマルチベイユニットを交換する 73
2.12 通信 75
2.12.1 有線LAN 75
2.12.2 無線LAN 76
2.12.3 モデム 76

2.13 ExpressCardスロット 77
2.13.1 注意事項 77
2.13.2 ExpressCardをセットする 78
2.13.3 ExpressCardを取り出す 79
2.14 メモリーカードスロット 80
2.14.1 注意事項 80
2.14.2 使用できるメモリーカード 81
2.14.3 メモリーカードをセットする 82
2.14.4 メモリーカードを取り出す 83
2.15 セキュリティボタン 84
2.15.1 セキュリティボタンとは 84
2.15.2 インストールとアンインストール 85
2.15.3 パスワードを設定する 86
2.15.4 セキュリティを解除する 87
2.15.5 パスワードを変更する／削除する 88
2.16 タブレットボタン 89
2.16.1 タブレットボタンを使う 89
2.16.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する 90
2.16.3「Fujitsu Menu」の設定を変更する 91
2.17 HDDプロテクション 92
2.17.1 HDDプロテクションの動作 92
2.17.2 HDDプロテクションの感度を選択する 93
2.17.3 HDDプロテクションの設定を変更する 93

第3章　周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に 95
3.1.1 注意事項 95
3.2 メモリ 96
3.2.1 注意事項 96
3.2.2 取り付けられるメモリ 96
3.2.3 メモリを取り付ける 97
3.2.4 メモリを取り外す 99
3.3 ポートリプリケータ 100
3.3.1 注意事項 100
3.3.2 ポートリプリケータを取り付ける 100
3.3.3 ポートリプリケータを取り外す 101
3.4 コネクタの接続／取り外し 102
3.4.1 注意事項 102
3.4.2 ディスプレイコネクタ 102
3.4.3 USBコネクタ 104
3.4.4 IEEE1394コネクタ 104
3.4.5 音声入出力端子 105
3.4.6 LANコネクタ 106
3.4.7 モデムコネクタ 106

第4章　セキュリティ

4.1 コンピューターウイルス 108
4.1.1 コンピューターウイルス対策 108
4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする 109
4.2.1 Windows Update 109
4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置） 109
4.3 不正使用からのセキュリティ 110
4.3.1 BIOSのパスワード 110
4.3.2 セキュリティボタン 110
4.3.3 指紋センサー 110
4.3.4 FeliCaポート 111
4.3.5 スマートカード 111
4.3.6 セキュリティチップ 111
4.3.7 Portshutter 111
4.3.8 暗号化機能付HDD、暗号化機能付フラッシュメモリディスク 112
4.3.9 CLEARSURE 112
4.3.10 エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能 112
4.4 パソコンの盗難防止 113
4.4.1 パソコン本体の施錠方法 113
4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意 114
4.5.1 パソコンの廃棄・譲渡時の
ハードディスク上のデータ消去に関する注意 114
4.5.2 ハードディスクデータ消去 115
4.6 データのバックアップ（Easy Backup） 117

第5章　ソフトウェア

5.1 ソフトウェアの紹介 119
5.1.1 一覧表の見かた 119
5.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア 120
5.1.3 サポート関連のソフトウェア 121
5.1.4 ユーティリティ 122
5.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア 126
5.1.6 メールソフト 126
5.1.7 Office製品 127
5.2 インストール 128
5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール 128
5.2.2 「ノートン アンチウイルス 2011」のインストール 129
5.2.3 「i-フィルター」のインストール 130
5.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール 130
5.2.5 「Quality Gaaiho PDF Suite」のインストール 130
5.2.6 Office製品のインストール 130
5.3 アンインストール 131
5.3.1 注意事項 131
5.3.2 アンインストール方法 131

第6章　BIOS

6.1 BIOSセットアップ 133
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた 134
6.2.1 BIOSセットアップを起動する 134
6.2.2 BIOSセットアップ画面 134
6.2.3 BIOSセットアップを終了する 135
6.2.4 起動メニューを使用する 136
6.3 メニュー詳細 137
6.3.1 情報メニュー 138
6.3.2 システムメニュー 138
6.3.3 詳細メニュー 139
6.3.4 セキュリティメニュー 141
6.3.5 起動メニュー 143
6.3.6 終了メニュー 143
6.4 設定事例集 144
6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う 144
6.4.2 起動デバイスを変更する 147
6.4.3 セキュリティチップの設定を変更する 147
6.4.4 パスワードの代わりに指紋認証を使う 149
6.4.5 Wakeup on LANを有効にする 149
6.4.6 イベントログを確認する 149
6.4.7 ご購入時の設定に戻す 150
6.5 ME BIOS Extension 151
6.5.1 初期パスワードを変更する 151
6.5.2 MEセットアップを起動する 154
6.5.3 MEセットアップを終了する 154
6.5.4 メニュー詳細 155

第7章　お手入れ

7.1 日常のお手入れ 158
7.1.1 パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ 158
7.1.2 液晶ディスプレイ 158
7.2 定期的なお手入れ 159
7.2.1 注意事項 159
7.2.2 空冷用通風路 160
7.2.3 お手入れナビ 162

第8章　トラブルシューティング

8.1 トラブル発生時の基本操作 164
8.1.1 状況を確認する 164
8.1.2 以前の状態に戻す 164
8.1.3 セーフモードで起動する 165
8.1.4 トラブルシューティングで調べる 165
8.1.5 Windowsのヘルプで調べる 165
8.1.6 インターネットで調べる 166
8.1.7 診断プログラムを使用する 166
8.1.8 サポートの窓口に相談する 168
8.2 よくあるトラブルと解決方法 169
8.2.1 トラブル一覧 169
8.2.2 起動・終了時のトラブル 172
8.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル 175
8.2.4 ハードウェア関連のトラブル 177
8.2.5 エラーメッセージ一覧 188
8.3 それでも解決できないときは 194
8.3.1 お問い合わせ先 194

第9章　仕様

9.1 本体仕様 197
9.1.1 T900/B 197
9.2 CPU 201
9.3 ディスプレイ 202
9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度 202
9.3.2 クローン表示の解像度 204
9.4 CD/DVDドライブ 205

廃棄・リサイクル 206

索引 208

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2010年10月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：

↓

「コンピューター」ウィンドウ

↓

「システム」ウィンドウ

（画面はWindows 7の例です）

■ 本文中の表記と画面表示内容の相違

お使いのOSによって本文中の表記と画面表示内容が異なる場合があります。

本書ではWindows 7の画面表示内容で表記しています。

例：「コンピューター」（Windows 7の場合）、「コンピュータ」（Windows Vistaの場合）

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ご購入時の構成によっては、次のディスクは添付されていません。

- リカバリデータディスク
- トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク［リカバリ起動ディスク］
- InterVideo WinDVD® for FUJITSU

添付されていない場合は、ハードディスクに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
LIFEBOOK T900/B	T900/B	本パソコン／パソコン本体	
Windows® 7 Enterprise	Windows 7 Enterprise	Windows 7	Windows
Windows® 7 Professional	Windows 7 Professional		
Windows Vista® Business with Service Pack 2	Windows Vista Business	Windows Vista	
Windows® Internet Explorer® 8	Internet Explorer		
Microsoft® Office Professional 2010	Office Professional 2010		Office 2010
Microsoft® Office Home and Business 2010	Office Home and Business 2010		
Microsoft® Office Personal 2010	Office Personal 2010		
Microsoft® Office Professional 2007	Office Professional 2007		
Microsoft® Office Personal 2007 with Microsoft® Office PowerPoint® 2007	Office Personal 2007 with PowerPoint 2007		
Microsoft® Office Personal 2007	Office Personal 2007		
Windows Media® Player 12	Windows Media Player		
Windows Media® Player 11			
Windows Live™ メール Version 2009	Windows Liveメール		
3G Watcher™	3G Watcher		
Adobe® Reader®	Adobe Reader		
ExpressCard™/34モジュール	ExpressCard/34モジュール	ExpressCard	
ExpressCard™/54モジュール	ExpressCard/54モジュール		
InterVideo WinDVD® for FUJITSU	WinDVD		
i-フィルター® 5.0	i-フィルター		
Roxio Creator LJ	Roxio Creator		
ノートン™ アンチウイルス 2011	ノートン アンチウイルス 2011		

Windowsの操作

■ Windowsのヘルプ

本書で説明されていないWindowsの機能については、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」をクリックして表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。
また、多くのソフトウェアでは「ヘルプ」をクリックしたり【F1】キーを押したりすることでヘルプが表示されます。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の （Windows 7の場合）、 （Windows Vistaの場合）をクリックします。

■ Windowsモビリティセンター

本パソコンのいくつかの機能は、「Windowsモビリティセンター」で操作できます。
「Windowsモビリティセンター」を起動するには、画面右下の通知領域にある「電源」アイコン （Windows 7の場合）、 （Windows Vistaの場合）を右クリックし、「Windowsモビリティセンター」をクリックするか、【Win】＋【X】キーを押します。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Live、Windows Vista、Internet Explorer、Windows Media、Access、Excel、OneNote、Outlook、PowerPoint、DirectXは、米国Microsoft Corporationおよび/またはその関連会社の商標です。
インテル、Intel、インテルCoreおよびIntel SpeedStepは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
Phoenixは、米国Phoenix Technologies社の登録商標です。
3G Watcherは、Sierra Wireless の商標です。
Adobe、Readerは、合衆国およびその他の国におけるAdobe Systems Incorporatedの商標または登録商標です。
Corel、Corelのロゴ、WinDVDはCorel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。
ExpressCard™、ExpressCard™ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association（PCMCIA）の商標で、富士通へライセンスされています。
FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

SDXCロゴは SD-3C, LLC. の商標です。

「メモリースティック」、「メモリースティック デュオ」、「メモリースティック PRO」、「メモリースティック PRO デュオ」、「メモリースティック PRO-HG デュオ」、「メモリースティック マイクロ」、「マジックゲート」および

は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2010

1

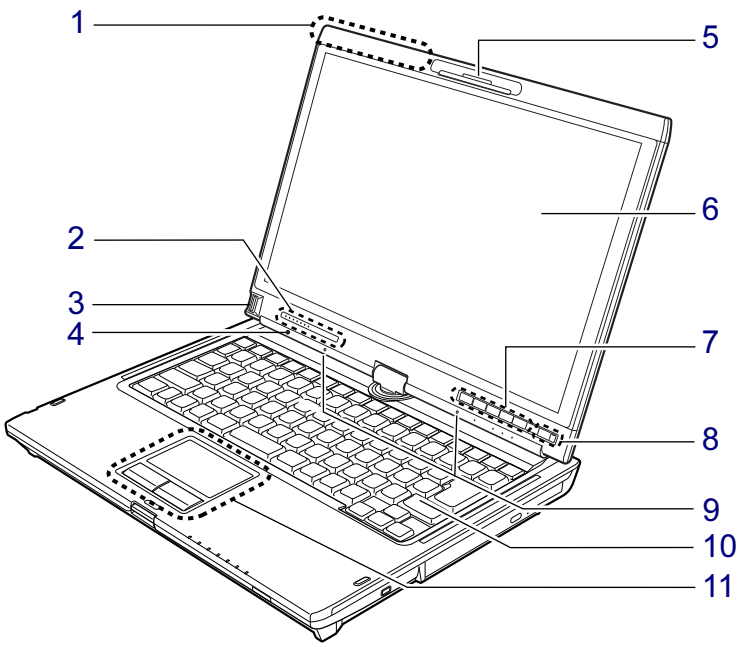
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1 パソコン本体前面 13
1.2 パソコン本体右側面 15
1.3 パソコン本体左側面 16
1.4 パソコン本体背面 17
1.5 パソコン本体下面 18
1.6 キーボード 19
1.7 状態表示LED 21
1.8 セキュリティボタン／タブレットボタン 22
1.9 ポートリプリケータ 23

1.1　パソコン本体前面



（イラストは機種や状況により異なります）

1 ワイヤレスアンテナ

2 スクロールセンサー
（→P.27）

3 指紋センサー
（→P.110）

4 照度センサー
ご使用のOSがWindows 7の場合に使用できる機能で、周囲の明るさを感知して、液晶ディスプレイを最適な輝度に自動で調整します。
ご購入時の設定ではこの機能は無効に設定されています。有効にするには、コントロールパネルの「Light Sensor」から設定します。
「ハードウェアとサウンド」→「位置センサーとその他のセンサー」→「Light Sencer」

5 ラッチ
液晶ディスプレイが開かないようにロックします。

6 液晶ディスプレイ
（→P.37）

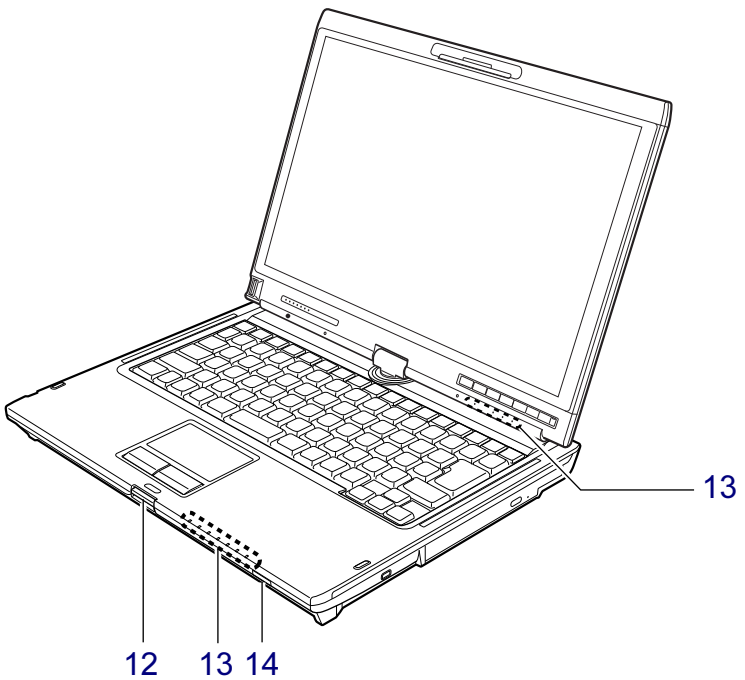
7 セキュリティボタン／タブレットボタン
（→P.84）／（→P.89）

8 ⏻ 電源スイッチ
パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.52）にしたりします。

9 内蔵マイク
音声を録音できます。

10 キーボード
（→P.19）

11 フラットポイント
（→P.25）

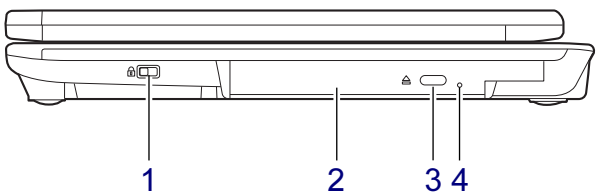


12 リリースボタン
液晶ディスプレイのロックを外します。

13 状態表示LED
（→P.21）

14 ワイヤレススイッチ
無線LAN（→P.76）通信機能のオン／オフを切り替えます。

1.2 パソコン本体右側面



（イラストは機種や状況により異なります）

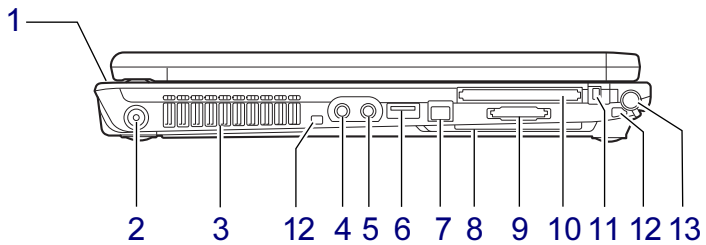
1 盗難防止用ロック取り付け穴
（→P.113）

2 CD/DVD ドライブ
（CD/DVD ドライブ搭載機種）（→P.64）
スーパーマルチドライブが搭載されています。
ユニットは交換することができます。（→P.73）

3 CD/DVD取り出しボタン
（CD/DVD ドライブ搭載機種）

4 強制取り出し穴
CD/DVD ドライブのトレーが開かなくなったとき、強制的にトレーを開きます。（→P.68）

1.3 パソコン本体左側面



（イラストは機種や状況により異なります）

1 スピーカー
（→P.49）

2 DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

3 排気孔
パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

4 マイク・ラインイン兼用端子
（→P.105）

5 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子
（→P.105）

6 USBコネクタ
（→P.104）

7 1394 IEEE1394（DV）端子
（→P.104）

8 スマートカードスロット
（→P.111）

9 SDメモリーカード／メモリースティックスロット
（→P.80）

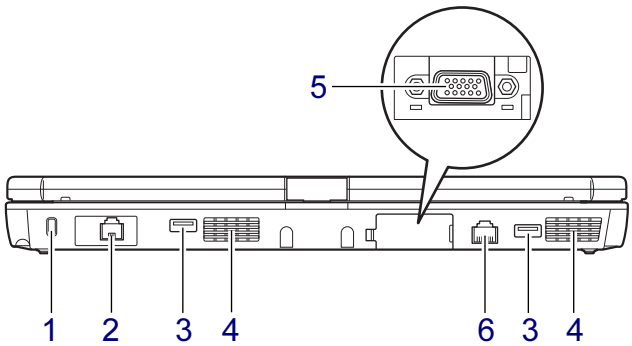
10 ExpressCardスロット
（→P.77）

11 ExpressCard取り出しボタン

12 ペンひも取り付け用穴

13 ペン（ペンホルダー）
タッチパネルを操作するペンが収納されています。
（→P.33）

1.4 パソコン本体背面



（イラストは機種や状況により異なります）

1 盗難防止用ロック取り付け穴
（→P.113）

2 モデムコネクタ
（→P.106）

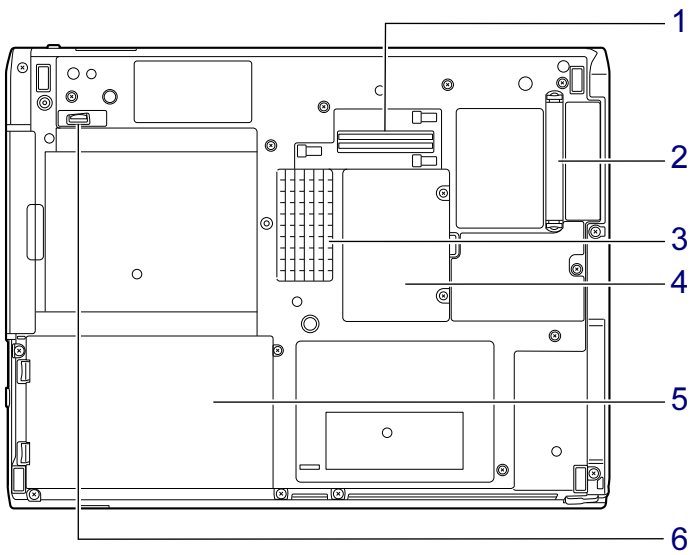
3 USBコネクタ
（→P.104）

4 吸気孔
冷却用の空気を取り込むための穴です。

5 アナログディスプレイコネクタ
（→P.102）

6 LANコネクタ
（→P.106）

1.5 パソコン本体下面



1 ポートリプリケータ接続コネクタ
（→P.100）

2 ダストキャッチャー
（→P.160）

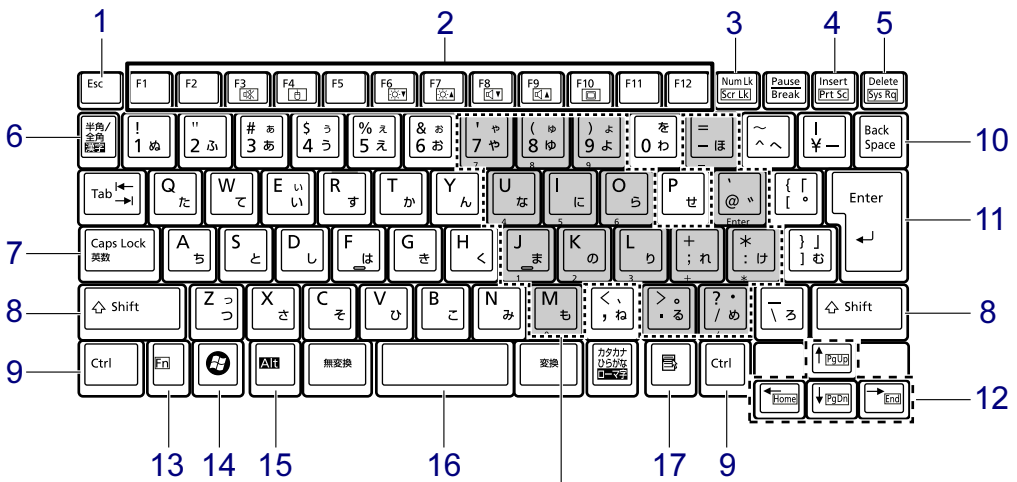
3 吸気孔
冷却用の空気を取り込むための穴です。

4 メモリスロットカバー
（→P.96）

5 内蔵バッテリパック
（→P.58）

6 モバイルマルチベイロック
モバイルマルチベイの取り付け、取り外しをする場合にスライドさせます。（→P.73）

1.6 キーボード



1 【Esc】キー

2 ファンクションキー（【F1】～【F12】）

3 【Num Lk】キー／【Scr Lk】キー

【Num Lk】キー	テンキーモード（→P.20）のオン／オフを切り替える
【Scr Lk】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う

4 【Insert】キー／【Prt Sc】キー

【Insert】キー	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
【Prt Sc】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う

5 【Delete】キー

6 【半角／全角】キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。

7 【Caps Lock】キー
【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

8 【Shift】キー

9 【Ctrl】キー

10 【Back Space】キー

11 【Enter】キー

12 カーソルキー

13 【Fn】キー
【Fn】キーを押しながら、枠で囲われている刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

【Fn】＋【F3/ 🔇】	スピーカーやヘッドホンのオン／オフを切り替える（→P.49）
【Fn】＋【F4/ 🖱】	フラットポイントの有効と無効を切り替える（→P.30）
【Fn】＋【F6/ ☼▼】	液晶ディスプレイを暗くする（→P.37）
【Fn】＋【F7/ ☼▲】	液晶ディスプレイを明るくする（→P.37）
【Fn】＋【F8/ 🔉▼】	音量を小さくする（→P.49）
【Fn】＋【F9/ 🔊▲】	音量を大きくする（→P.49）
【Fn】＋【F10/ ▣】	外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替える（→P.43）
【Fn】＋【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する

【Fn】＋【Ctrl】＋【←/Home】	文章の最初に移動する
【Fn】＋【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える
【Fn】＋【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える
【Fn】＋【→/End】	カーソルを行の最後に移動する
【Fn】＋【Ctrl】＋【→/End】	文章の最後に移動する
【Fn】＋【Scr Lk】	スクロールのロックを切り替える
【Fn】＋【Prt Sc】	画面のコピーをクリップボードに取り込む
【Fn】＋【Alt】＋【Prt Sc】	アクティブになっているウィンドウのコピーをクリップボードに取り込む

14【 】（Windows）キー
「スタート」メニューを表示します。

15【Alt】キー

16【Space】キー

17【 】（アプリケーション）キー
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

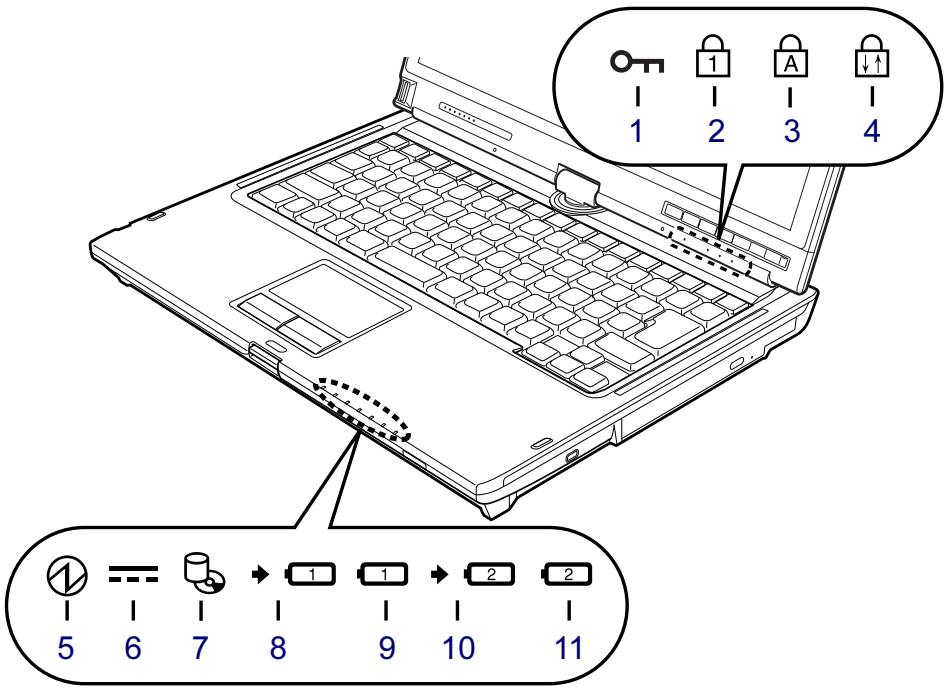
■ テンキーモード

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことを「テンキーモード」といいます。【Num Lk】キーを押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LEDのNum Lockランプが点灯します。
テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

POINT

- 別売のテンキーボードをパソコン本体に接続して【Num Lk】キーを押すと、テンキーボードのテンキーが有効になり、パソコン本体のテンキーは無効になります。
- BIOSセットアップの「キーボード／マウス設定」で、「起動時のNumlock設定」を「オン（Fnキー）」に設定すると、【Fn】キーを押しながらパソコン本体のテンキーが使用できるようになります。

1.7 状態表示LED



1 セキュリティランプ
パスワードの入力が要求されているときに点灯します。

2 Num Lockランプ
キーボードがテンキーモード（→P.20）のときに点灯します。

3 Caps Lockランプ
アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

4 Scroll Lockランプ
【Fn】＋【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。
点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

5 電源ランプ
本パソコンの状態を表示します。

LEDランプ	本パソコンの状態
青色点灯	動作状態
青色点滅	スリープ状態
消灯	電源オフまたは休止状態

6 ACアダプタランプ
ACアダプタを接続しているときに点灯します。

7 ディスクアクセスランプ
内蔵ハードディスクやCD、DVDにアクセスしているときに点灯します。

8 バッテリ充電ランプ
（→P.59）

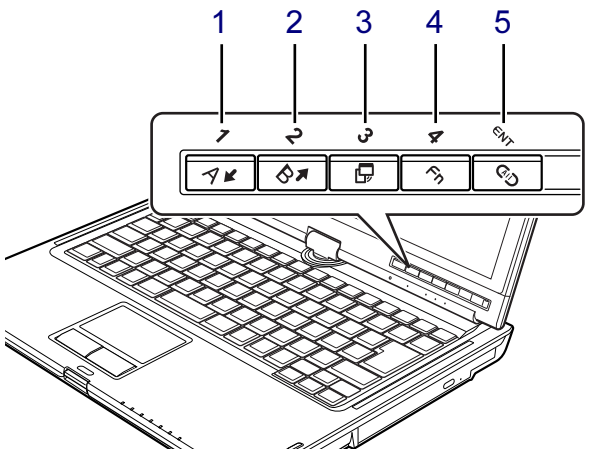
9 バッテリ残量ランプ
（→P.60）

10 増設用内蔵バッテリ充電ランプ
（→P.59）

11 増設用内蔵バッテリ残量ランプ
（→P.60）

1.8 セキュリティボタン／タブレットボタン

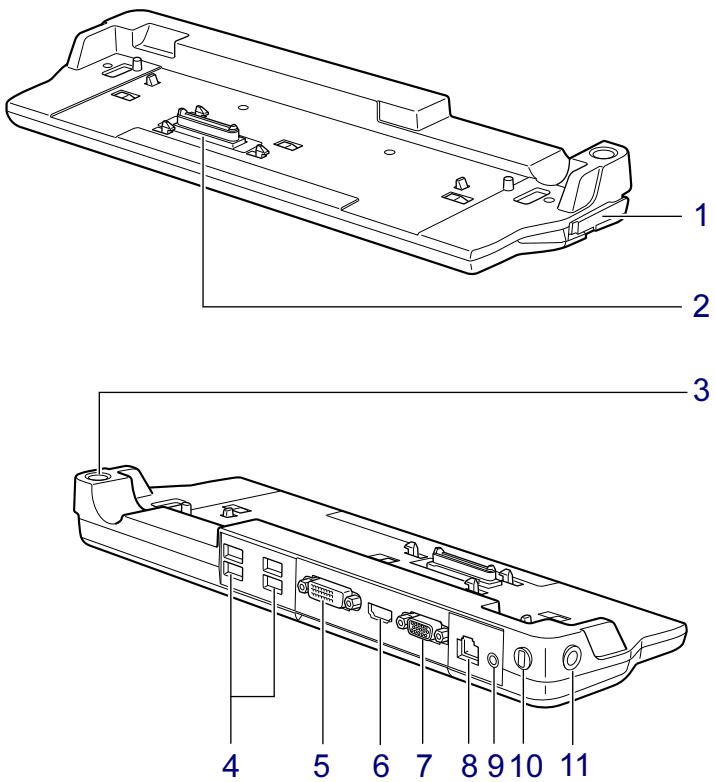
セキュリティボタンとしての使用方法については、「2.15 セキュリティボタン」（→P.84）をご覧ください。
タブレットボタンとしての使用方法については、「2.16 タブレットボタン」（→P.89）をご覧ください。



1 数字ボタン1／Aボタン
2 数字ボタン2／Bボタン
3 数字ボタン3／ローテーションボタン
4 数字ボタン4／Fnボタン
5 Enterボタン／Ctrl＋Alt＋Deleteボタン

1.9 ポートリプリケータ

対 象　ポートリプリケータ（別売）使用時



1 ポートリプリケータ取り外しレバー
（→P.101）
ポートリプリケータをパソコン本体から取り外す場合にレバーを起こします。

2 本体接続コネクタ
パソコン本体下面にあるポートリプリケータ接続コネクタを接続します。（→P.100）

3 電源ボタン
パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.52）にしたりします。

4 USBコネクタ
（→P.104）

5 デジタルディスプレイコネクタ
（→P.102）

6 デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）
（→P.102）

7 アナログディスプレイコネクタ
（→P.102）

8 LANコネクタ
（→P.106）

9 ヘッドホン端子
（→P.105）

10 盗難防止用ロック取り付け穴
（→P.113）

11 DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

2

第2章

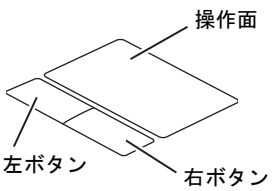
取り扱い

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1 フラットポイント 25
2.2 マウス 31
2.3 タッチパネル 33
2.4 ディスプレイ 37
2.5 マルチディスプレイ機能 40
2.6 タブレットモード 45
2.7 サウンド 49
2.8 省電力機能 52
2.9 バッテリ 58
2.10 CD/DVD ドライブ 64
2.11 モバイルマルチベイ 72
2.12 通信 75
2.13 ExpressCard スロット 77
2.14 メモリーカードスロット 80
2.15 セキュリティボタン 84
2.16 タブレットボタン 89

2.1 フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。
ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



（イラストは機種や状況により異なります）

2.1.1 注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、ぬれた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- ご購入時は、パソコン本体にマウスを接続すると、フラットポイントが無効になるように設定されています。フラットポイントとマウスを同時に使用する場合は、「2.1.5 マウスとフラットポイントを同時に使用する」（→P.30）をご覧ください。

2.1.2 基本操作

フラットポイントの操作面でタップ（マウスのクリックと同様の操作）などを行う場合は、指先で軽く、素早く触れてください。力を入れて行う必要はありません。
操作面を指先でなぞることで、画面上のマウスポインターを移動させることができます。
マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT

- 指の先が操作面に接触するように操作してください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

■ フラットポイントの基本設定を変更する

ご購入時は、フラットポイントのボタンの機能は、右利き用に設定されています。左右のボタンの機能は、「マウスのプロパティ」で変更できます。
また、「マウスのプロパティ」では、マウスポインターやダブルクリック、スクロール速度なども変更できます。

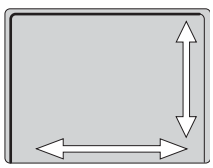
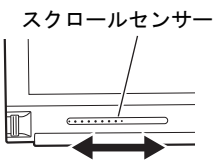
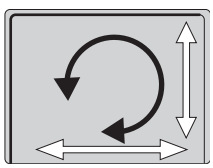
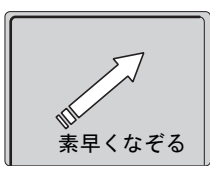
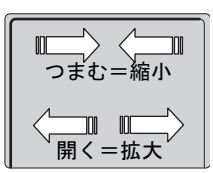
1 **コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。**
Windows 7 :「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」
Windows Vista :「ハードウェアとサウンド」の「マウス」

2 **それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。**

2.1.3 高度な操作

フラットポイントの設定を変更することで、スクロールやズームといった機能を使用することができます。機能によっては、ご購入時は無効に設定されている場合があります。
設定方法については、「2.1.4 フラットポイントの設定を変更する」（→P.28）をご覧ください。

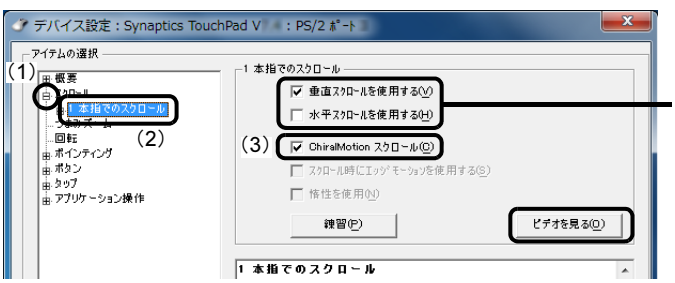
■ 主な機能

機能	フラットポイントの操作	
上下または左右のスクロール		右端や下端をなぞると、ウィンドウの表示がスクロールします。
左右のスクロール		スクロールセンサー（→P.13）を指でなぞると、ウィンドウの表示がスクロールします。
カイラルモーション		右端や下端をなぞってウィンドウの表示をスクロールさせた後、指を離さずに円状になぞると、スクロールの動作が続きます。 ・時計回り　：下／左にスクロール ・反時計回り：上／右にスクロール
モーメンタム		素早くなぞると、マウスポインターがスライドさせた方向にしばらく動きます。
つまみズーム		2本の指でつまんだり開いたりする操作をすると、ウィンドウの表示が拡大、縮小します。 ・開く　：拡大 ・つまむ：縮小

2.1.4　フラットポイントの設定を変更する

□カイラルモーションの設定

1. コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
   Windows 7：「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」
   Windows Vista：「ハードウェアとサウンド」の「マウス」
2. 「デバイス設定」タブをクリックします。
3. 「デバイス」から「Synaptics TouchPad」を選択し、「設定」をクリックします。
4. 「スクロール」の左にある「＋」をクリックします。
5. 「1本指でのスクロール」をクリックします。
6. 「ChiralMotionスクロール」にチェックを付け、「OK」をクリックします。
   「垂直スクロールを使用する」または「水平スクロールを使用する」にチェックが付いていないと、「ChiralMotionスクロール」にチェックを付けることはできません。



どちらか一方または両方にチェックを付けます。

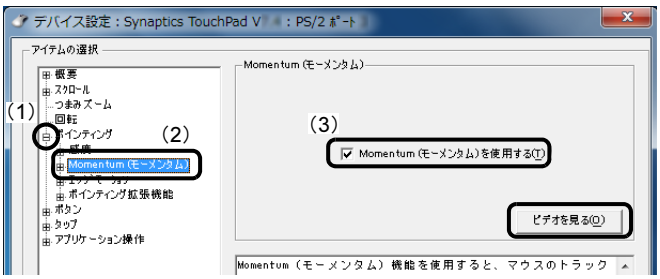
POINT

- 「ビデオを見る」をクリックすると、操作を動画で確認することができます。

□モーメンタムの設定

1. コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
   Windows 7：「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」
   Windows Vista：「ハードウェアとサウンド」の「マウス」
2. 「デバイス設定」タブをクリックします。
3. 「デバイス」から「Synaptics TouchPad」を選択し、「設定」をクリックします。
4. 「ポインティング」の左にある「＋」をクリックします。
5. 「Momentum（モーメンタム）」をクリックします。

6 「Momentum（モーメンタム）を使用する」にチェックを付け、「OK」をクリックします。



POINT

- 「ビデオを見る」をクリックすると、操作を動画で確認することができます。

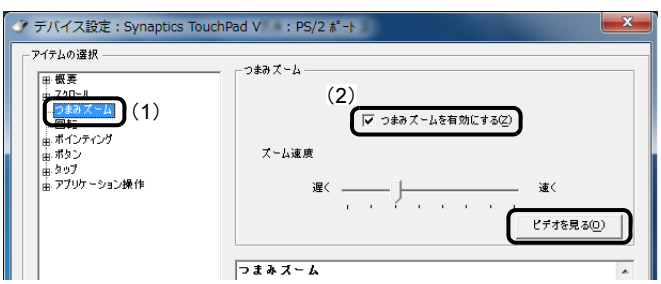
□つまみズームの設定

1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
Windows 7：「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」
Windows Vista：「ハードウェアとサウンド」の「マウス」

2 「デバイス設定」タブをクリックします。

3 「デバイス」から「Synaptics TouchPad」を選択し、「設定」をクリックします。

4 「つまみズーム」をクリックし、「つまみズームを有効にする」にチェックを付け、「OK」をクリックします。



POINT

- 「ビデオを見る」をクリックすると、操作を動画で確認することができます。

2.1.5　マウスとフラットポイントを同時に使用する

対 象　マウス選択時

ご購入時は、パソコン本体にマウスを接続すると、フラットポイントが無効になるように設定されています。フラットポイントとマウスを同時に使用する場合は、「マウスのプロパティ」で次のように設定してください。

1 **コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。**
Windows 7 :「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」
Windows Vista :「ハードウェアとサウンド」の「マウス」

2 **「デバイス設定」タブの「USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。」のチェックを外し、「OK」をクリックします。**

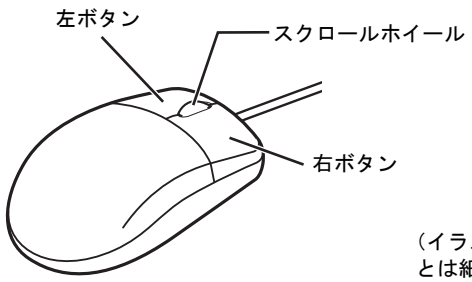
2.1.6　フラットポイントの有効／無効を切り替える

【Fn】＋【F4】キーを押してフラットポイントの有効と無効を切り替えることができます。
【Fn】＋【F4】キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
「IndicatorUtility」（→P.122）がインストールされていると、現在の状況を示すインジケーターがしばらく表示されます。

2.2 マウス

対 象　マウス選択時

ここでは、マウスについて説明しています。
マウスを接続する方法については、「3.4.3 USBコネクタ」（→P.104）をご覧ください。



（イラストは一般的なマウスを表しており、お使いのマウスとは細部が異なる場合があります）

2.2.1 注意事項

- ご購入時は、パソコン本体にマウスを接続すると、フラットポイントが無効になるように設定されています。フラットポイントとマウスを同時に使用する場合は、「2.1.5 マウスとフラットポイントを同時に使用する」（→P.30）をご覧ください。
- USBマウス（光学式）は、マウス底面から赤い光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- USB小型マウス（レーザー式）は、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- USBマウス（光学式）およびUSB小型マウス（レーザー式）のセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- USBマウス（光学式）およびUSB小型マウス（レーザー式）は、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- USBマウス（光学式）およびUSB小型マウス（レーザー式）は、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.2.2 マウスの基本設定を変更する

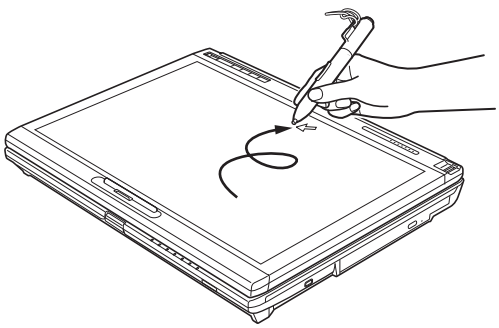
ご購入時は、マウスのボタンの機能は、右利き用に設定されています。左右のボタンの機能は、「マウスのプロパティ」で変更できます。
また、「マウスのプロパティ」では、マウスポインターやダブルクリック、スクロール速度なども変更できます。

1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
Windows 7 :「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」
Windows Vista :「ハードウェアとサウンド」の「マウス」

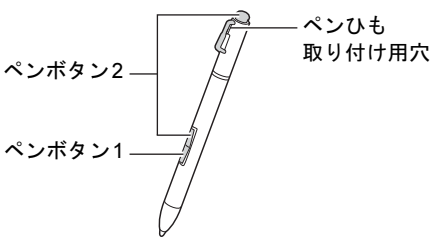
2 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.3 タッチパネル

本パソコンのタッチパネルは電磁誘導方式です。ペンで画面を触れず近づけるだけで、マウスポインターを操作することができます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。



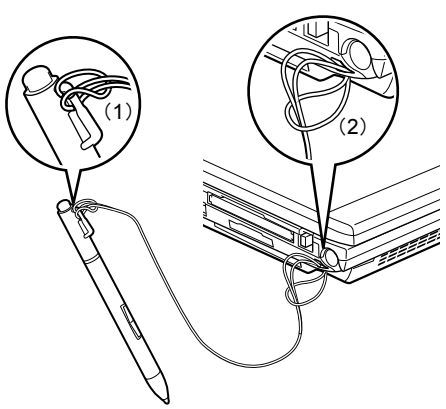
画面上にペンを近づけて移動させると、
マウスポインターが移動します。



（イラストは機種や状況により異なります）

2.3.1　注意事項

- 力を入れて画面をなぞる必要はありません。画面に近づけて移動させるだけでマウスポインターを操作できます。
- 必ず添付のペンで操作してください。
- ペンの紛失を防ぐために、必ず添付のペンひもでペンとパソコン本体をつないでください。ペンひもは、必ず（1）ペン側（2）パソコン本体側の順に取り付けてください。



- ペンを破損したり紛失したりしたときは、本パソコンに対応しているペンをご購入ください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- ペンを使用しないときは、元の位置に戻してください。

2.3.2　キャリブレーション

キャリブレーションとは、画面上で実際にタップした位置とパソコンが「タップされた」と認識する位置とを一致させるための作業です。タッチパネルを使い始める前や、入力位置がずれてきた場合にはキャリブレーションを行ってください。

POINT

- キャリブレーションを行うときに、調整ポイントが言語バーの下に隠れる場合があります。言語バーを最小化しておくことをお勧めします。

□Windows 7の場合

POINT

- 初めてキャリブレーションを行うときは、あらかじめ画面表示の向きを0°にしておいてください（→P.47）。

1 コントロールパネルの「Tablet PC設定」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「Tablet PC設定」

2 「画面」タブの「調整」をクリックします。

3 画面の「＋」マークの交点を正確にペンでタップします。
「＋」マークが次の調整ポイントに移動します。

4 同様に「＋」マークを順番にタップします。
合計16ヶ所をタップします。2回目以降は4ヶ所をタップします。

5 「はい」をタップします。

□Windows Vistaの場合

1 コントロールパネルの「Tablet PC設定」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「Tablet PC設定」

2 「全般」タブの「調整」をクリックします。

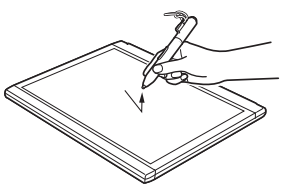
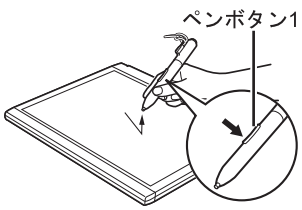
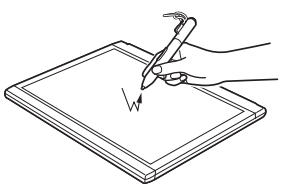
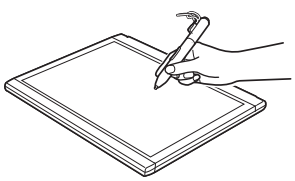
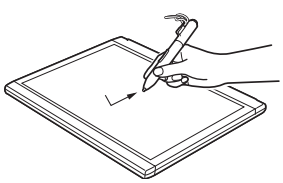
3 画面の「＋」マークの交点を正確にペンでタップします。
「＋」マークが次の調整ポイントに移動します。

4 同様に「＋」マークを順番にタップします。
合計4ヶ所をタップします。

5 「OK」をタップします。

2.3.3 基本操作

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）する場合は、ペン先で操作します。
マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

機能	ペンの操作	
タップ		画面を1回押して離します。
右タップ		ペンボタン1を押しながら画面を押し、離します。 画面を長押しして、ペンを離しても、右タップになります。
ダブルタップ		画面を素早く2回連続で押して離します。
ポイント		画面に近づけるか軽く触れます。
ドラッグ		画面に軽く押しつけながらなぞります。

2.3.4　ペンの機能を設定する

ペンボタンの機能については、「ペンタブレットのプロパティ」をご覧ください。

1　コントロールパネルの「ペンタブレットのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「ペンタブレットのプロパティ」

2　「ペン」タブをクリックします。

なお、ペンの側面にあるペンボタン2とペンボタン1は、押さえながらペン先で画面を操作することにより使用できます。
また、ペンボタン2の上部は、上部を画面に押し当てて操作することにより使用できます。このとき、上部が少し引っ込む程度の強さで押し当ててください。

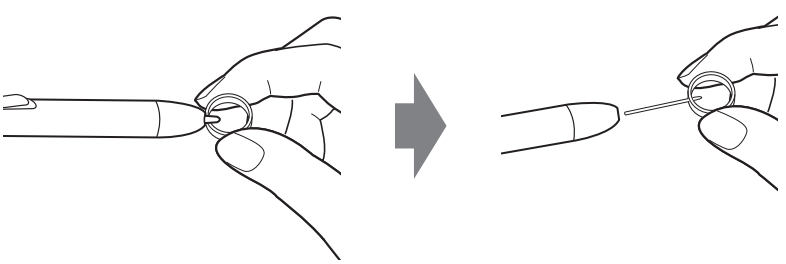
2.3.5　Tablet PC入力パネル

タブレットモードで文字入力をする場合、画面上にTablet PC入力パネルを表示させてお使いください。Tablet PC入力パネルでは、スクリーンキーボードが使えたり、手書き入力ができたりします。詳しくは、Tablet PC入力パネルのヘルプをご覧ください。
Tablet PC入力パネルを表示するには、画面左端に表示された「Tablet PC入力パネル」をタップしてください。

2.3.6　ペン先を交換する

ペン先が破損したり、すべりが悪くなったりしたときは、次の手順に従って、添付の新しいペン先と交換してください。

1　添付のクリップでペン先をはさみ、本体から外れるまでペン先をまっすぐ引き抜きます。



2　新しいペン先をペン本体に差し込みます。
ペン先の向きを確かめて、ペン本体の穴にまっすぐ差し込みます。

2.4 ディスプレイ

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。
2つのディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.40）をご覧ください。

2.4.1 注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.4.2 キーボードで明るさを変更する

本パソコンの液晶ディスプレイの明るさはキーボード操作で変更できます。

明るくする	【Fn】＋【F7】キーを押す
暗くする	【Fn】＋【F6】キーを押す

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「2.4.3 「電源オプション」で明るさを変更する」（→P.37）をご覧ください。
「IndicatorUtility」（→P.122）がインストールされていると明るさを示すインジケーターがしばらく表示されます。

POINT

- Windows Vistaの場合、本パソコンを再起動したり、省電力状態からレジュームしたり、ACアダプタの取り付けや取り外しを行ったりすると、変更前の明るさに戻ります。変更を記憶させたい場合は、「2.4.3 「電源オプション」で明るさを変更する」（→P.37）をご覧ください。
- 「Windowsモビリティセンター」（→P.11）で変更することもできます。

2.4.3 「電源オプション」で明るさを変更する

現在選択されていない電源プランや、現在と異なる電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）の明るさの設定は、「電源オプション」で変更できます。

1. コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
   Windows 7：「システムとセキュリティ」→「電源オプション」
   Windows Vista：「システムとメンテナンス」→「電源オプション」
2. 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
3. 明るさを変更し、「変更の保存」をクリックします。

2.4.4　解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

1. **デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。**
   「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。

2. **ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。**

3. **「解像度」、「色深度」（色数）、「リフレッシュレート」を設定します。**
   設定可能な値は、「9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.202）をご覧ください。

4. **「適用」をクリックします。**
   確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- **画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。**

2.4.5　拡大表示設定を変更する

ディスプレイのサイズより小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

1. **デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。**
   「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。

2. **ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。**

3. **「スケーリング」を設定します。**
   - **画像を中央揃えする**
     画面は拡大されずに中央に表示されます。この設定は、パソコン本体の液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。
   - **全画面のスケール**
     画面がディスプレイ全体に拡大されます。
   - **縦横比を保持**
     画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
   - **ディスプレイスケーリングを保持**
     ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

POINT

- **ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。**

4 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.5 マルチディスプレイ機能

本パソコンに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。
ここでは2つのディスプレイを使ったマルチディスプレイ機能について説明しています。
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.4.2 ディスプレイコネクタ」（→P.102）をご覧ください。

2.5.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、2つのディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示	パソコン本体の液晶ディスプレイの画面を外部ディスプレイに拡張し、1つの画面として表示します。Windowsのタスクバーは1つのディスプレイにのみ表示され、このディスプレイをプライマリディスプレイと呼び、もう1つのディスプレイをセカンダリディスプレイと呼びます。それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示	2つのディスプレイに同一の画面を表示します。両方のディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示	2つのディスプレイのどちらか一方に画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

表示方法を切り替えるには、「2.5.6 表示方法を切り替える」（→P.43）をご覧ください。

2.5.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- クローン表示では、著作権保護されたDVD-Videoは再生できません。
- 拡張デスクトップ表示の場合、「WinDVD」の画面を2つのディスプレイの間で移動すると、一時的に再生が止まることがあります。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、DVD-Videoなどの動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。Windowsが起動するまでの間は、BIOSセットアップの設定が有効になります（→P.139）。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.5.3　拡張デスクトップ表示に設定する

1 デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「マルチディスプレイ」をクリックします。

3 「動作モード」から「拡張デスクトップ」を選択します。
このとき、「主ディスプレイ」には「内蔵ディスプレイ」を設定してください。

4 「位置調整」に表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。
「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。

5 必要に応じてウィンドウ左の「一般設定」をクリックし、それぞれのディスプレイの「解像度」、「色深度」（色数）、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.202）をご覧ください。

重要

- 色数は両方のディスプレイで同じ値を設定してください。

6 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

POINT

- 変更した設定を「富士通タブレットコントロール」のプロファイルに保存する場合は、「2.6.5 状態が変わったときの動作を設定する」（→P.48）をご覧ください。
- 変更した設定を「Fujitsu Display Manager」のプロファイルに保存する場合は、「■ 画面表示の設定を登録する」（→P.43）をご覧ください。

2.5.4　クローン表示に設定する

1. デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
   「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。
2. ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「マルチディスプレイ」をクリックします。
3. 「動作モード」から「クローンディスプレイ」を選択します。
4. 必要に応じてウィンドウ左の「一般設定」をクリックし、それぞれのディスプレイの「解像度」、「色深度」（色数）、「リフレッシュレート」を設定します。
   設定可能な値は、「9.3.2 クローン表示の解像度」（→P.204）をご覧ください。

重要

- 解像度と色数は両方のディスプレイで同じ値を設定してください。

5. 「適用」をクリックします。
   確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

POINT

- 変更した設定を「富士通タブレットコントロール」のプロファイルに保存する場合は、「2.6.5 状態が変わったときの動作を設定する」（→P.48）をご覧ください。
- 変更した設定を「Fujitsu Display Manager」のプロファイルに保存する場合は、「■ 画面表示の設定を登録する」（→P.43）をご覧ください。

2.5.5　シングル表示に設定する

1. デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
   「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。
2. ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「マルチディスプレイ」をクリックします。
3. 「動作モード」から「シングルディスプレイ」を選択します。
   このとき、「主ディスプレイ」で画面を表示するディスプレイを選択してください。

4 必要に応じてウィンドウ左の「一般設定」をクリックし、「解像度」、「色深度」（色数）、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.202）をご覧ください。

5 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

POINT

- 変更した設定を「富士通タブレットコントロール」のプロファイルに保存する場合は、「2.6.5 状態が変わったときの動作を設定する」（→P.48）をご覧ください。
- 変更した設定を「Fujitsu Display Manager」のプロファイルに保存する場合は、「■ 画面表示の設定を登録する」（→P.43）をご覧ください。

2.5.6　表示方法を切り替える

「Fujitsu Display Manager」に画面表示の設定をプロファイルとして登録しておくと、必要なときに登録した画面表示の設定を呼び出すことができます。
「Fujitsu Display Manager」の詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「ヘルプ」の順にクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

POINT

- クローン表示とシングル表示は、【Fn】＋【F10】キーを押すことによっても切り替えることができます。キーを押すたびに表示方法が順次切り替わります。
- Windows 7では、【Win】＋【P】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。

■ 画面表示の設定を登録する

画面表示の設定を「Fujitsu Display Manager」に登録するには、次の操作を行います。

□Windows 7の場合

1 あらかじめ登録したい画面表示を設定しておきます。
・拡張デスクトップ表示の場合：「2.5.3 拡張デスクトップ表示に設定する」（→P.41）
・クローン表示の場合：「2.5.4 クローン表示に設定する」（→P.42）
・シングル表示の場合：「2.5.5 シングル表示に設定する」（→P.42）
・1台のディスプレイの場合：「2.4.4 解像度を変更する」（→P.38）

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「Fujitsu Display Manager」の順にクリックします。

3 「現在の画面表示設定をプロファイルに追加」をクリックします。

4 プロファイル名を入力し、「OK」をクリックします。
プロファイルが登録されます。

□Windows Vistaの場合

1 あらかじめ登録したい画面表示を設定しておきます。
・拡張デスクトップ表示の場合：「2.5.3 拡張デスクトップ表示に設定する」（→P.41）
・クローン表示の場合：「2.5.4 クローン表示に設定する」（→P.42）
・シングル表示の場合：「2.5.5 シングル表示に設定する」（→P.42）
・1台のディスプレイの場合：「2.4.4 解像度を変更する」（→P.38）

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「Fujitsu Display Manager」の順にクリックします。

3 「現在の画面表示設定をプリセットに追加」をクリックします。

4 プロファイル名を入力し、「OK」をクリックします。
プロファイルが登録されます。

■ 登録した画面表示の設定を呼び出す

「Fujitsu Display Manager」に登録した画面表示の設定は、次の手順で呼び出します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「Fujitsu Display Manager」の順にクリックします。

2 呼び出すプロファイルを選択し、「OK」をクリックします。

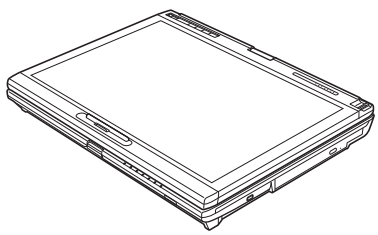
2.6 タブレットモード

本パソコンは、ノートパソコンモードとタブレットモードを切り替えてお使いになれます。ここでは、タブレットモードの使い方について説明しています。

2.6.1　ノートパソコンモードとタブレットモード

ノートパソコンモードでは、通常のノートパソコンのようにキーボードとフラットポイントで操作します。タブレットモードでは、液晶ディスプレイを180°回転させて折りたたみ、付属のペンで操作します。

ノートパソコンモード



タブレットモード

（イラストは機種や状況により異なります）

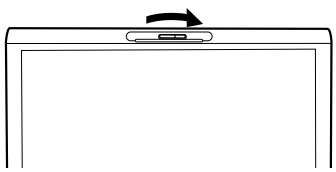
2.6.2　注意事項

- タブレットモードでは、CD/DVDドライブやディスクへの悪影響を防ぐため、CD/DVDドライブは使用できなくなります。通常はこのままの設定でお使いください。
  タブレットモードでもCD/DVDドライブを使用するには、「2.6.5 状態が変わったときの動作を設定する」（→P.48）をご覧ください。
- 画面表示の向きの設定は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。

2.6.3　タブレットモードにする

ここでは、ノートパソコンモードからタブレットモードに変更する手順を説明します。タブレットモードからノートパソコンモードに変更するには、手順3、4で逆方向に回転させてください。

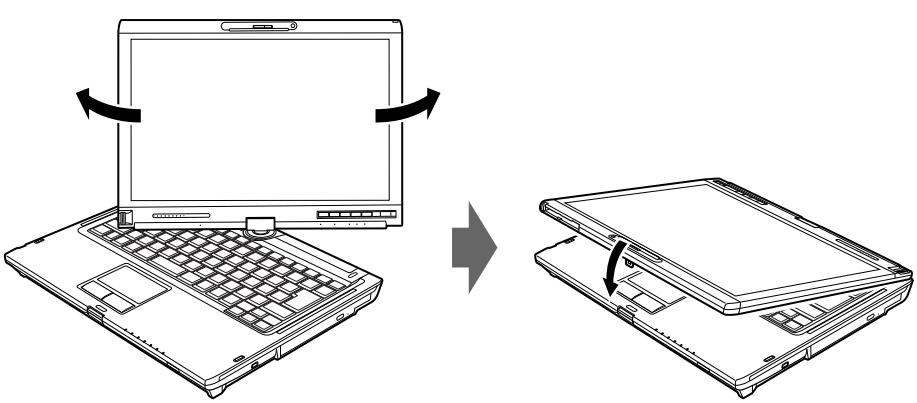
1. パソコン本体を机などの安定した平らな場所に置きます。
2. 液晶ディスプレイを開きます。
3. ラッチを90°回転させます。



4. 液晶ディスプレイの両側を持ち、左右どちらかの方向に180°回転させ、液晶ディスプレイを「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。

重要

- 液晶ディスプレイを180°以上回転させないでください。パソコン本体が破損するおそれがあります。
- 液晶ディスプレイを回転させるときは、ペンひもやケーブルなどが絡まないようにしてください。また、周辺機器が液晶ディスプレイの回転の妨げになる場合は、周辺機器を取り外してから回転させてください。



「富士通タブレットコントロール」の機能により、自動的に画面表示の設定などが切り替わります。このときの動作を設定するには、「2.6.5 状態が変わったときの動作を設定する」（→P.48）をご覧ください。

2.6.4 手動で画面表示の向きを変える

ノートパソコンモードでもタブレットモードでも、手動で画面表示の向きを変更できます。

画面表示の向き	0°	90°	180°	270°

■ ローテーションボタンで画面表示の向きを変更する

ローテーションボタン（→P.22）を押すたびに、あらかじめ設定した順番で画面表示の向きが切り替わります。タブレットモードのときにお使いになると便利です。

□ ローテーションボタンの設定を変更する

ローテーションボタンの設定を変更するには、次の操作を行います。

1 **コントロールパネルの「Tablet PC設定」を開きます。**

「ハードウェアとサウンド」→「Tablet PC設定」

2 **次の操作を行います。**

・Windows 7 :「画面」タブで「設定画面を表示」をクリックします。
・Windows Vista :「画面」タブで「変更」をクリックします。

3 **「1」～「4」に、それぞれの順番での画面表示の向きを設定し、「OK」をクリックします。**

選択できる項目と画面表示の向きは次のとおりです。設定したくない順番には「(なし)」を設定します。

項目	横（プライマリ）	縦（セカンダリ）	横（セカンダリ）	縦（プライマリ）
画面表示の向き	0°	90°	180°	270°

4 **「OK」をクリックします。**

■ ホットキーで画面表示の向きを変更する

ホットキーを押すと、画面表示の向きを直接変更できます。ノートパソコンモードのときにお使いになると便利です。
ご購入時の設定では、カーソルキーの向きが画面表示の上の向きになります。

ホットキー	【Ctrl】＋【Alt】＋【↑】	【Ctrl】＋【Alt】＋【←】	【Ctrl】＋【Alt】＋【↓】	【Ctrl】＋【Alt】＋【→】
画面表示の向き	0°	90°	180°	270°

□ホットキーの設定を変更する

ホットキーの設定を変更するには、次の操作を行います。

1. デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
   「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。
2. ウィンドウ左の「オプションとサポート」をクリックし、「ホットキーマネージャー」をクリックします。
3. ホットキーの設定を変更し、「OK」をクリックします。

2.6.5 状態が変わったときの動作を設定する

本パソコンの状態（ノートパソコンモードやタブレットモード、ポートリプリケータの有無）が変わったときの動作は、「富士通タブレットコントロール」で設定します。

POINT

- 「富士通タブレットコントロール」の詳しい使い方は、使いたい機能のタブで「ヘルプ」をクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

1. 本パソコンを登録する状態に変更します。
   ・ノートパソコンモードまたはタブレットモードにします。
   「2.6.3 タブレットモードにする」（→P.46）
   ・必要に応じてポートリプリケータを取り付けるか取り外します。
   「3.3 ポートリプリケータ」（→P.100）
2. 画面表示を登録する設定に変更します。
   ・「2.6.4 手動で画面表示の向きを変える」（→P.47）
   ・「2.4 ディスプレイ」（→P.37）または「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.40）
3. Fnボタン（→P.22）を2回押して表示される「Fujitsu Menu」ウィンドウで、「富士通タブレットコントロール」をクリックします。

POINT

- 「Fujitsu Menu」が起動しない場合は、コントロールパネルの「富士通タブレットコントロール」を開きます。
  「ハードウェアとサウンド」→「富士通タブレットコントロール」

4. 「ディスプレー表示」タブで「現在のプロファイルを保存する」をクリックし、メッセージが表示されたら「OK」をクリックします。

2.7 サウンド

ここでは、音量の調節方法や音声入出力端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子やマイク・ラインイン兼用端子に機器を接続する方法については、「3.4.5 音声入出力端子」（→P.105）をご覧ください。

2.7.1 全体の再生音量を調節する

パソコン本体のスピーカーや、本パソコンに接続されたヘッドホンの再生音量は次の操作で調節します。

上げる	【Fn】＋【F9】キーを押す
下げる	【Fn】＋【F8】キーを押す
ミュートする ミュートを解除する	【Fn】＋【F3】キーを押す

「IndicatorUtility」（→P.122）がインストールされていると音量を示すインジケーターがしばらく表示されます。

POINT

- 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン をクリックして表示される「ミキサー」で調節することもできます。

2.7.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

1. 音量を調節するソフトウェアを起動します。
2. 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。
3. 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

2.7.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。
調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.50）、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.50）をご覧ください。

1. 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
   「3.4.5 音声入出力端子」（→P.105）
2. 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン を右クリックし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。
3. 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
4. 「レベル」タブをクリックします。
5. 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Realtek HD Audio output	パソコン本体のスピーカーや、本パソコンに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
	PC Beep（Windows Vistaのみ）	ビープ音の再生音量
	マイク	マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の再生音量（マイク入力設定時）
	ライン入力	マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の再生音量（ライン入力設定時）
	Line Out	ヘッドホン・ラインアウト兼用端子から出力される音の再生音量（ライン出力設定時）
HDMIデバイス注	インテル(R) ディスプレイ用オーディオ HDMI 1	デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）に接続されたディスプレイから出力される音の再生音量

注 「HDMIデバイス」には、デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）に接続されたディスプレイの名称が表示されます。

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	マイク	マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の録音音量（マイク入力設定時）
	マイクブースト	内蔵マイクのマイクブーストのレベル

機器	項目	説明
ライン入力	ライン入力	マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の録音音量（ライン入力設定時）

2.7.4　音声入出力端子の機能を切り替える

ヘッドホン・ラインアウト兼用端子（→P.16）、マイク・ラインイン兼用端子（→P.16）の機能は、次の手順で切り替えます。

1. **機能を切り替えたい端子に機器を接続します（→P.105）。**
2. **画面右下の通知領域にある「Realtek HDオーディオマネージャ」アイコン をダブルクリックします。**
   「Realtek HDオーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。
3. **ウィンドウ右にある切り替えたい端子のアイコンをダブルクリックします。**
   機能を選択するウィンドウが表示されます。
4. **機能を選択し、「OK」をクリックします。**

POINT

- 「オーディオ機器を接続したときに、自動的にこのウィンドウを表示します。」にチェックを付けると、機器を接続したときに機能を選択するウィンドウを表示させることができます。

2.7.5　再生する機器を選択する

デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）にディスプレイを接続しているときなど、音声を再生する機器が複数ある場合、音声を再生する既定の機器を選択できます。

1. **画面右下の通知領域にある「音量」アイコン を右クリックし、「再生デバイス」をクリックします。**
   「サウンド」ウィンドウが表示されます。
2. **「再生」タブで既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。**
3. **「OK」をクリックします。**

2.8 省電力機能

ここでは、本パソコンの省電力機能について説明しています。
本パソコンの消費電力については、「9.1 本体仕様」（→P.197）をご覧ください。

2.8.1 省電力の状態について

本パソコンの省電力の状態は次のとおりです。

■ スリープ状態

Windowsの省電力状態の1つで、Windowsの状態をメモリに保存し、Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。
この状態では、メモリに保存したWindowsの状態などを維持するために、少しずつ電力を消費します。

■ 休止状態

Windowsの省電力状態の1つで、Windowsの状態をハードディスクに保存し、Windowsの動作を一時的に中断させて電源を切った状態です。

■ 省電力モード

本パソコンに搭載されている「省電力ユーティリティ」の機能により、本パソコンを使用できる状態にしたまま一部の機能を制限し、電力の消費を抑えた状態です。詳しくは、「2.8.7 省電力モード」（→P.57）をご覧ください。

2.8.2 注意事項

- Wakeup on LAN機能によるレジュームを有効にしているときは、省電力状態で液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイを閉じたときに何もしないように設定した場合は、本パソコンの動作中には液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。

2.8.3 省電力状態にする

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。

■ 省電力状態にする

省電力状態にするには次の方法があります。動作はご購入時の設定です。

操作／条件	動作
電源スイッチをスライドさせる[注1]	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.55）
液晶ディスプレイを閉じる[注2]	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.55）
「スタート」メニューから選択する	選択した動作になります。
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.55）
バッテリ残量が少なくなる	休止状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.55）

注1：電源スイッチは4秒以上スライドさせないでください。電源スイッチを4秒以上スライドさせると、Windowsが正常終了せずに本パソコンの電源が切れてしまいます。
注2：液晶ディスプレイを閉じた後は、電源ランプ（→P.21）を確認して省電力状態になったことを確認してください。省電力状態にならないと放熱が妨げられ、故障の原因となります。

2.8.4　省電力状態からレジュームする

■ 注意事項

- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源スイッチをスライドさせる以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
  その場合は、キーボードやフラットポイントなどから入力を行うと画面が表示されます。
  画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、本パソコンは再度スリープ状態になります。

■ レジュームする

省電力状態からレジュームするには次の方法があります。動作はご購入時の設定です。

操作／条件	動作
電源スイッチをスライドさせる	レジュームします。
液晶ディスプレイを開く	レジュームします。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.55）
USBキーボードや USBマウスを操作する[注]	無効に設定されています。 「■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する」（→P.56）
Wakeup on LAN（WoL）機能	無効に設定されています。 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.55）

注 ：休止状態からはレジュームしません。

2.8.5　電源を切る

ここでは、Windowsを終了させて本パソコンの電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切る前に、あらかじめディスクを取り出してください（→P.68）。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次の方法で、Windowsを終了させて本パソコンの電源を切ります。

- Windows 7の場合
  1. 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
  2. しばらくするとWindowsが終了し、パソコンの電源が自動的に切れます。

POINT

- 「スタート」ボタン→ シャットダウン の ▶ →「再起動」の順にクリックすると、本パソコンを再起動できます。

- Windows Vistaの場合
  1. 「スタート」ボタン→ ⏻ 🔒 ▶ の ▶ →「シャットダウン」の順にクリックします。
  2. しばらくするとWindowsが終了し、パソコンの電源が自動的に切れます。

POINT

- 「スタート」ボタン→ ⏻ 🔒 ▶ の ▶ →「再起動」の順にクリックすると、本パソコンを再起動できます。

2.8.6　省電力の設定を変更する

■ 電源プランを切り替える

電源設定は電源プランごとに設定されています。お使いになる状況に応じて電源プランを切り替えることができます。

1. コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
   Windows 7 :「システムとセキュリティ」→「電源オプション」
   Windows Vista :「システムとメンテナンス」→「電源オプション」
2. お使いになる電源プランをクリックします。

POINT

- 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をクリックし、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

1. コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
   Windows 7 :「システムとセキュリティ」→「電源オプション」
   Windows Vista :「システムとメンテナンス」→「電源オプション」
2. 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
3. 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
4. リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

5. 「OK」をクリックします。

■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

他のコンピューターから有線LAN経由で本パソコンにアクセスすることで、WoL機能により本パソコンを省電力状態からレジュームさせるようにするには、次の手順で設定します。
電源オフ状態からWoL機能により本パソコンの電源を入れる方法については、「6.4.5 Wakeup on LANを有効にする」（→P.149）をご覧ください。

1. 管理者権限をもったユーザーアカウントでログオンします。
2. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
   Windows 7 :「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
   Windows Vista :「システムとメンテナンス」→「デバイスマネージャ」
3. 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。

4 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) 82577LM Gigabit Network Connection

5 「電源の管理」タブをクリックします。

6 WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする

POINT

- マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」（Windows 7の場合）、「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」（Windows Vistaの場合）にもチェックを付けます。

7 「OK」をクリックします。

■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する

USBキーボードやUSBマウスなどのUSBデバイスを操作してスリープ状態からレジュームする設定は、次の手順で変更します。

1 「Windowsモビリティセンター」（→P.11）を起動します。

2 「スリープ状態からの復帰」に表示されている現在の設定を確認し、必要に応じて「切り替える」をクリックします。

2.8.7　省電力モード

省電力モードとは、本パソコンに搭載されている「省電力ユーティリティ」の機能により、本パソコンを使用できる状態にしたまま一部の機能を制限し、電力の消費を抑えた状態のことです。

■ 省電力モードと通常モードを切り替える

重要

- 通常モードから省電力モードへの切り替えは、省電力モードで制限される機能の使用を中止してから行ってください。
  現在のモードは、画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコン／をポイントすると表示されます。

省電力モードと通常モードは、「省電力ユーティリティ」で切り替えます。

1. 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコン／を右クリックし、「モードの切り替え」をクリックします。

POINT

- 「Windowsモビリティセンター」（→P.11）で切り替えることもできます。

■ 省電力モードの設定を変更する

1. 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコン／を右クリックし、「省電力モードの設定」をクリックします。
2. それぞれの項目で、「省電力モード時の動作」を選択し、「OK」をクリックします。

POINT

- 省電力ユーティリティの詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「省電力ユーティリティ」→「ヘルプ」の順にクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

2.9 バッテリ

ここでは、バッテリを使用して本パソコンを使用する方法や注意事項について説明しています。
バッテリの充電時間や駆動時間など、バッテリの仕様については「9.1 本体仕様」（→P.197）をご覧ください。

2.9.1 注意事項

■ バッテリの取り扱い

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- バッテリを落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。また、落としたり強い衝撃を与えたりしたバッテリは使用しないでください。
- バッテリやパソコン本体のバッテリコネクタには触れないでください。
- バッテリは分解しないでください。
- 長期間（約1ヶ月以上）本パソコンを使用しない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。
- 高温環境に放置しないでください。バッテリが劣化します。

■ バッテリで運用するとき

- 本パソコンの使用中にバッテリの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリの残量に注意してお使いください。バッテリの残量を確認するには、「2.9.3 バッテリの残量を確認する」（→P.60）をご覧ください。
- 本パソコンの機能を多用したり負荷の大きいソフトウェアを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリの駆動時間は短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本パソコンを省電力モードにすることにより、バッテリ駆動時間を長くすることができます。詳しくは、「2.8.7 省電力モード」（→P.57）をご覧ください。
- バッテリは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリ駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力が低下します。
- 内蔵バッテリパックと増設用内蔵バッテリユニットの両方が取り付けられている場合は、両方のバッテリが同時に使用されます。

■ 寿命について

- バッテリは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下し、バッテリ駆動時間が短くなります。バッテリの駆動時間が極端に短くなったり、満充電にならなくなったりしたらバッテリの寿命です。「2.9.4 バッテリを交換する」（→P.61）をご覧になり、新しいバッテリと交換してください。
- 寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。感電や火災の原因となります。
- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは劣化します。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「2.9.5 バッテリの充電モードを変更する」（→P.62）をご覧ください。

2.9.2 バッテリを充電する

1 パソコン本体にACアダプタを接続します。

充電が始まります。バッテリの充電状態は、バッテリ充電ランプ（→P.21）、増設用内蔵バッテリ充電 ランプ（→P.21）で確認できます。

POINT

- バッテリを保護するため、次の場合は充電は始まりません。
  ・充電モードが「フル充電モード」で、バッテリの残量が90%以上の場合
  ・充電モードが「80%充電モード」で、バッテリの残量が70%以上の場合
  バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。
- 内蔵バッテリパックと増設用内蔵バッテリユニットの両方が取り付けられている場合は、内蔵バッテリパック→増設用内蔵バッテリユニットの順に充電されます。

バッテリ充電ランプ	バッテリの充電状態
青色[注]	充電中
消灯	・充電完了 ・ACアダプタが接続されていない ・内蔵バッテリパックが取り付けられていない

注：点滅している場合は、バッテリの温度が高すぎる、または低すぎるなどの理由でバッテリの保護機能が働き充電が停止している状態です。バッテリの温度が正常に戻れば点灯し、充電を再開します。

2.9.3 バッテリの残量を確認する

バッテリの残量は、バッテリ残量ランプ（→P.21）、増設用内蔵バッテリ残量ランプ（→P.21）で確認できます。
なお、表示されるバッテリの残量は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により実際のバッテリの残量とは異なる場合があります。

バッテリ残量ランプ	バッテリの残量
青色[注]	100%～51%
オレンジ色[注]	50%～13%
赤色[注]	12%以下
消灯	バッテリが接続されていない

注：本パソコンの電源の状態により次のようになります。なお、「充電中」とは、バッテリ充電ランプが青色に点灯している状態です。
・電源オン：点灯
・スリープ状態：点灯（充電中）またはゆっくり点滅（非充電中）
・電源オフ／休止状態：点灯（充電中）または消灯（非充電中）

重要

- 短い間隔で赤色点滅している場合は、バッテリが正しく充電されていません。パソコン本体の電源を切ってからバッテリを取り付け直してください。それでも状態が変わらない場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。

POINT

- より詳しいバッテリの状態は「バッテリーユーティリティ」で確認できます。詳しくは、「2.9.6 バッテリの状態を確認する」（→P.63）をご覧ください。

■ バッテリ残量ランプが赤色に点灯したら

バッテリの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

- ACアダプタを接続する
- 充電済みのバッテリに交換する
  「2.9.4 バッテリを交換する」（→P.61）
- 本パソコンを休止状態にする
  「2.8.3 省電力状態にする」（→P.52）
- 作業を終了して本パソコンの電源を切る

ご購入時は、バッテリの残量が約10%になると自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.55）をご覧ください。

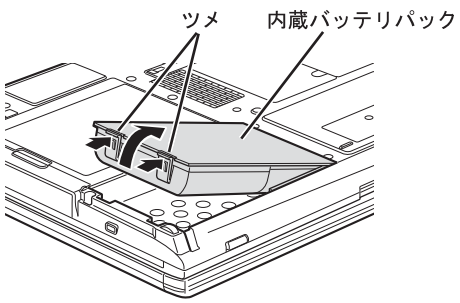
2.9.4　バッテリを交換する

ここでは内蔵バッテリパックの交換方法について説明します。増設用内蔵バッテリユニットの交換方法については、「2.11 モバイルマルチベイ」（→P.72）をご覧ください。
交換したバッテリの処分については、「廃棄・リサイクル」（→P.206）をご覧ください。

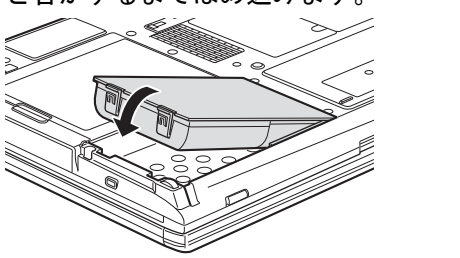
1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を静かに裏返します。

3 バッテリのツメ（2ヶ所）を押しながら、内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げて取り外します。



4 新しい内蔵バッテリパックのふちとパソコン本体のふちを合わせ、「カチッ」と音がするまではめ込みます。



2.9.5　バッテリの充電モードを変更する

バッテリの充電モードを「80%充電モード」に変更しバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。

重要

- 「80%充電モード」に設定すると、バッテリ駆動時間は「フル充電モード」よりも短くなります。

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「バッテリーの設定」の順にクリックします。
2. 「変更」をクリックします。
3. 「フル充電モード（100%充電）」または「80%充電モード」を選択し、「OK」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。

POINT

- 「80%充電モード」を選択した場合、「充電完了時にメッセージを表示する」にチェックを付けると、充電完了時に充電完了のメッセージが表示されます。

2.9.6　バッテリの状態を確認する

バッテリの情報の確認や消耗状態の測定は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

■ バッテリの情報を確認する

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「バッテリーの情報」の順にクリックします。

■ バッテリの消耗状態を測定する

重要

- バッテリの充電と放電を行うため、測定に10時間以上かかる場合があります。

1. パソコン本体にACアダプタを接続します。
2. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「バッテリーの情報」の順にクリックします。
3. 「バッテリー#1」タブ（内蔵バッテリパック）または「バッテリー#2」タブ（増設用内蔵バッテリユニット）をクリックします。
4. 「バッテリー#1の消耗状態を測定」または「バッテリー#2の消耗状態を測定」をクリックし、表示された注意事項を確認します。
5. 「OK」をクリックし測定を開始します。

2.10 CD/DVDドライブ

対 象　CD/DVDドライブ搭載機種

ここでは、CD/DVDドライブとCDやDVDなどのディスクの取り扱いについて説明しています。
ディスクの取り扱いについては、お使いのディスクのマニュアルをご覧ください。
また、CD/DVDドライブの仕様については、「9.4 CD/DVDドライブ」（→P.205）をご覧ください。

2.10.1 注意事項

- ディスクアクセスランプ（→P.21）が点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVDドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因となりますので絶対に使わないでください。

2.10.2　使用できるディスク

■ 注意事項

- 直径8cmまたは直径12cm、厚さ1.14mm～1.5mmの円形のディスクのみ使用できます。それ以外のディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- ゆがんだディスク、重心の偏ったディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- 不正コピー防止の仕様に準拠していないディスクは、使用できない場合があります。

■ 使用できるディスク

ディスク	読込	書込	書換
CD-ROM	○	×	×
音楽CD	○	×	×
ビデオCD	○	×	×
CD-R	○	○	×
CD-RW 注1	○	○	○
DVD-ROM	○	×	×
DVD-Video	○	×	×
DVD-R（4.7GB）	○	○	×
DVD-R DL（8.5GB） 注2	○	○	×
DVD-RW	○	○	○
DVD+R（4.7GB）	○	○	×
DVD+R DL（8.5GB）	○	○	×
DVD+RW（4.7GB）	○	○	○
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB） 注3	○	○	○

注1 ：Ultra Speed CD-RWディスクは使用できません。
注2 ：追記はできません。また追記されたディスクの読み込みは保証しません。
注3 ：・カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。
・2.6GBおよび5.2GBのディスクは使用できません。

■ 推奨ディスク

対 象　スーパーマルチドライブ搭載機種

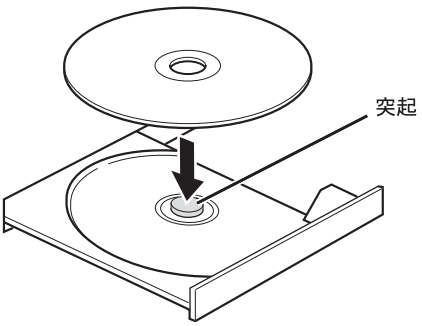
スーパーマルチドライブで書き込みや書き換えを行う場合は、次のディスクの使用をお勧めします。それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

ディスク種別	メーカー	型名
CD-R	太陽誘電（That's）	CDR80WTY、CDR80WPY
CD-RW	Verbatim（バーベイタム）	SW80EU5V1、SW80EM5V1、 SW80QU5V1、SW80QM5V1、SW80QP5V1
DVD-R	太陽誘電（That's）	DR-47WTY50BNT、DR-47WKY10SN、 DR-47WPY30AA
	Verbatim（バーベイタム）	DHR47J10V1
DVD-R DL	Verbatim（バーベイタム）	DHR85HP5V1
DVD-RW	Verbatim（バーベイタム）	DHW47RP1V1、DHW47Y10V1
DVD+R	太陽誘電（That's）	DR+47WTY10PN
DVD+R DL	Verbatim（バーベイタム）	DTR85HP5V1
DVD+RW	ソニー	5DPW47HPS
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47M（4.7GB、カートリッジ無）
		LM-HB47MA （4.7GB、カートリッジ有、取り出し可）
		LM-HB94M （9.4GB、カートリッジ有、取り出し可）
	日立マクセル	DRM47PWC.S1P5S A（4.7GB、カートリッジ無）

2.10.3　ディスクをセットする

1 CD/DVD取り出しボタン（→P.15）を押し、少し出てきたトレーの中央を持って静かに引き出します。

2 ディスクのレーベル面を上にしてトレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、「パチン」と音がするまではめ込みます。



3 「カチッ」と音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

POINT

- ディスクをセットしてから使用可能になるまで、少し時間がかかります。ディスクアクセスランプ（→P.21）が消えてからディスクの操作を行ってください。

2.10.4　ディスクを取り出す

ソフトウェアがディスクを使用していないときは、CD/DVD取り出しボタンを押してディスクを取り出します。

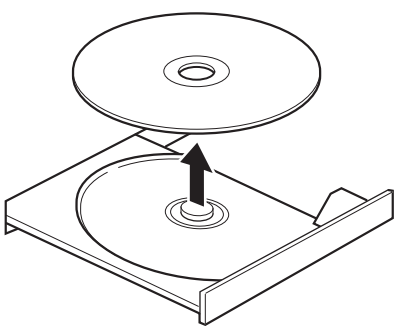
CD/DVD取り出しボタンを押してトレーを開く前に、次のことを確認してください。

- ディスクアクセスランプ（→P.21）が点灯していないこと。
  ディスクアクセスランプが消灯するまで待ってください。
- ソフトウェアがディスクを使用していないこと。
  ソフトウェアの機能を使ってトレーを開くか、ソフトウェアを終了してください。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ディスク上のファイルを開いていないこと。
  ファイルを閉じてください。
- 省電力モードでCD/DVDドライブを無効にしていないこと。
  通常モードに切り替えてください（→P.57）。
- タブレットモードにしていないこと。
  ノートパソコンモードにしてください（→P.46）。

上記の項目を確認してもトレーが開かない場合は、本パソコンを再起動してください。本パソコンを再起動してもトレーが開かない場合は、「■ トレーを強制的に開く」（→P.68）をご覧ください。

1 **CD/DVD取り出しボタン（→P.15）を押し、少し出てきたトレーの中央を持って静かに引き出します。**

2 **トレー中央の突起を押さえながらディスクのふちを持ち上げて、ディスクを外します。**



3 **「カチッ」と音がするまで、トレーを静かに押し込みます。**

■ トレーを強制的に開く

「2.10.4 ディスクを取り出す」（→P.68）の手順でトレーが開かない場合は、次の手順でトレーを開きます。

重要

- どうしてもトレーが開かない場合にのみ実行してください。

1 パソコン本体の電源を切ります。

2 強制取り出し穴（→P.15）に、太めのペーパークリップを伸ばしたものなどを突き当たるまで差し込みます。

3 トレーを静かに引き出します。

2.10.5　ディスクに書き込む

対 象　スーパーマルチドライブ搭載機種

記録可能ディスクに書き込むには「Roxio Creator」（→P.126）を使用します。詳しくは、次の手順で「Roxio Creator」のヘルプをご覧ください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Roxio Creator LJ」→「Roxio Creator LJ」の順にクリックします。

2 「ヘルプ」メニューをクリックし、必要な項目をクリックします。

POINT

- DVD-RAMはフォーマットすることにより、USBメモリのように直接Windowsエクスプローラーなどで書き込むことができます。DVD-RAMをフォーマットするには「■ DVD-RAMをフォーマットする」（→P.70）をご覧ください。

■ 注意事項

- 本パソコンで作成したディスクは、ディスクの種類や書き込み形式などにより他の機器では使用できない場合があります。お使いの機器で使用できるディスクの種類や書き込み形式などについては、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。また、ディスクの記録状態によっても使用できない場合があります。
- ディスクに書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD取り出しボタンを押したりしないでください。また、省電力状態や省電力モードにもしないでください。
- ディスクへの書き込みには高い処理能力が必要です。ディスクに書き込み中は、他のソフトウェアを使用しないことをお勧めします。
- ディスクへの書き込みには多くの電力を消費します。ディスクに書き込み中は、パソコン本体にACアダプタを取り付けることをお勧めします。
- 自動再生が有効に設定されていると、ディスクへの書き込みができない場合があります。その場合は次の手順で自動再生を無効に設定してください。
  1. コントロールパネルの「自動再生」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「自動再生」
  2. 「すべてのメディアとデバイスで自動再生を使う」のチェックを外し、「OK」をクリックします。
- 「Roxio Creator」は、パケットライトによる書き込みには対応していません。

- ポータブルスーパーマルチドライブユニットをお使いになる場合も、ポータブルスーパーマルチドライブユニットに添付されている「Roxio Creator」ではなく、本パソコンの「Roxio Creator」をお使いください。
- DVD+R DLにデータを書き込む場合、DVD-ROMとの互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」（約512MB）が書き込まれます。このため、書き込み可能な最大容量は約7.99GBとなります。

■ DVD-RAMをフォーマットする

DVD-RAMを初めてお使いになる場合や、すべてのデータを消去する場合は次の手順でDVD-RAMをフォーマットします。

POINT

- 両面タイプのDVD-RAMディスクは片面ごとにフォーマットします。

1. フォーマットするDVD-RAMをセットします（→P.67）。
2. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックし、「コンピューター」を表示します。
3. CD/DVDドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
4. 必要に応じて「ファイルシステム」などを設定します。
5. 「開始」をクリックし、以降は表示されるメッセージに従います。

2.10.6　DVD-Videoを再生する

DVD-Videoは「WinDVD」（→P.126）で再生します。詳しくは、次の手順で「WinDVD」のヘルプをご覧ください。

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「InterVideo WinDVD」→「InterVideo WinDVD for FUJITSU」の順にクリックします。
2. 右上の「？」アイコンをクリックします。

■ 注意事項

- すべてのDVD-Videoの再生を保証するものではありません。
- DVD-Videoの再生には高い処理能力が必要です。DVD-Videoの再生中は、他のソフトウェアを使用しないことをお勧めします。コマ落ちや音飛びが発生する場合があります。
- 著作権保護されたDVD-Videoは、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に対応していないデジタルディスプレイでは再生できません。
- 著作権保護されたDVD-Videoは、クローン表示（→P.40）に設定している場合は再生できません。
- CPRM対応のディスクは再生できません。

- 音声トラックがMPEGオーディオフォーマットのDVD-Videoの音声は、「WinDVD」では再生できません。Windows 7では「Windows Media Player」で再生してください。
- 「WinDVD」ではビデオCDは再生できません。「Windows Media Player」で再生してください。
- ディスクによっては、専用の再生ソフトウェアが添付されているものがあります。ディスクに添付されている再生ソフトウェアをインストールした場合、そのソフトウェアによる再生および「WinDVD」での再生は保証しません。
- リージョンコードについて
  - ・リージョンコードが、CD/DVDドライブのリージョンコードを含んでいるか、「ALL」のDVD-Videoのみ再生できます。DVD-Videoのリージョンコードは、ディスクまたはパッケージに記載されています。ご購入時のCD/DVDドライブのリージョンコードは「2」です。
  - ・前回再生したDVD-Videoとリージョンコードが異なるDVD-Videoを再生しようとすると、リージョンコードの変更を確認する画面が表示されます。この画面で「OK」をクリックすると、CD/DVDドライブのリージョンコードが変更されます。
  - ・CD/DVDドライブのリージョンコードはご購入後4回まで変更できます。それ以降は最後に設定したリージョンコードに固定され、リカバリを行っても元には戻りません。

2.11　モバイルマルチベイ

ここでは、モバイルマルチベイユニットを交換する方法について説明しています。

2.11.1　注意事項

- モバイルマルチベイには、必ずモバイルマルチベイユニットまたはモバイルマルチベイ用カバーを取り付けてお使いください。故障の原因となります。
- 本パソコンに対応しているモバイルマルチベイユニットをお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- モバイルマルチベイユニットの取り扱いについては、次の点に注意してください。
  - ・極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
  - ・直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
  - ・衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
  - ・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。
  - ・内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。もし、何か異物が入ったときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
  - ・汚れは、柔らかい布でから拭きするか、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
  - ・分解したり、解体したりしないでください。
  - ・磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用や保管は避けてください。

2.11.2　モバイルマルチベイユニットを交換する

重要

- 増設用内蔵バッテリユニットを取り外す場合
  - ・ACアダプタが接続されていない場合は、内蔵バッテリパックの残量が充分にあることを確認してください（→P.60）。内蔵バッテリパックの残量が充分でない場合は、ACアダプタを接続してください。
  - ・「ハードウェアの安全な取り外し」の操作は必要ありません。
- CD/DVDドライブユニットを取り外す場合
  - ・「省電力モード」（→P.57）でCD/DVDドライブを無効にしている場合は、「ハードウェアの安全な取り外し」の操作は必要ありません。
- モバイルマルチベイ用カバーを取り外す場合は、「ハードウェアの安全な取り外し」の操作は必要ありません。

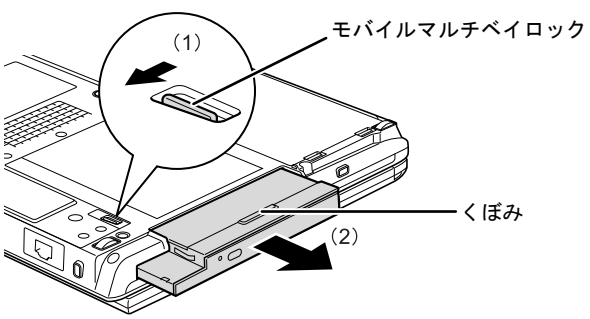
1 タブレットモードにしている場合は、ノートパソコンモードにします（→P.46）。

2 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン をクリックします。

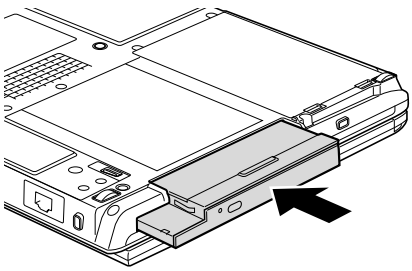
3 取り外すモバイルマルチベイユニットをクリックし、表示されるメッセージに従ってモバイルマルチベイユニットを停止します。

4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を静かに裏返します。
ご購入時の設定では省電力状態になります。

5 （1）モバイルマルチベイロックを矢印の向きにスライドさせながら、（2）くぼみに指をかけてモバイルマルチベイユニットをまっすぐに引き抜きます。



6 交換するモバイルマルチベイユニットのラベル面を下に、端子側を奥にして、モバイルマルチベイに「カチッ」と音がするまでまっすぐに押し込みます。



2.12 通信

ここでは本パソコンの通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.197）をご覧ください。

POINT

- 本パソコンには、通信環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Plugfree NETWORK」→「Plugfree NETWORKの使い方」の順にクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

2.12.1 有線LAN

LANケーブルを接続する方法については、「3.4.6 LANコネクタ」（→P.106）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ 注意事項

- 本パソコンに搭載されている LAN デバイスの節電機能を利用できます。この機能は、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度を下げることにより電力消費を抑えるものです。
  ご購入時の設定ではこの機能は有効に設定されていますが、次の条件にすべて一致する環境でお使いの場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れるときに通信エラーが発生することがあります。これにより問題がある場合は、「■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する」（→P.75）をご覧になり、この機能を無効に設定してください。
  ・LAN デバイスの設定で、「リンク速度とデュプレックス」が「オートネゴシエーション」に設定されているとき（ご購入時の設定）
  ・本パソコンを、オートネゴシエーションが可能なネットワーク機器と接続しているとき

■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する

LANデバイスの節電機能の設定を変更するには、次の操作を行います。

1. **管理者権限をもったユーザーアカウントでログオンします。**
2. **コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。**
   Windows 7 :「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
   Windows Vista :「システムとメンテナンス」→「デバイスマネージャ」
3. **「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。**

4 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) 82577LM Gigabit Network Connection

5 「詳細設定」タブをクリックします。

6 「プロパティ」で「システム無動作時の節電機能」をクリックし、「値」で「オン」（有効）または「オフ」（無効）を選択します。

7 「OK」をクリックします。

2.12.2　無線LAN

対 象　無線LAN搭載機種

無線LANを使うと、LANケーブルを使わずにネットワークに接続できます。
無線LANについては、『IEEE 802.11a/b/g/n準拠 内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

2.12.3　モデム

対 象　モデム搭載機種

モデムケーブルを接続する方法については、「3.4.7 モデムコネクタ」（→P.106）をご覧ください。
モデムについては、『内蔵モデムをお使いになる方へ』をご覧ください。

2.13 ExpressCardスロット

ここでは、ExpressCardスロットにExpressCardをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。
ExpressCardの取り扱いについては、お使いのExpressCardのマニュアルをご覧ください。また、ExpressCardスロットの仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.197）をご覧ください。

2.13.1 注意事項

- ExpressCardによっては、セットした後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは、お使いになるExpressCardのマニュアルをご覧ください。
- ExpressCardをセットしないExpressCardスロットには、必ずダミーカードをセットしてお使いください。故障の原因となります。
- ExpressCardによっては、ExpressCardスロットから飛び出した状態でセットされるものや、ケーブルを接続して使うものがあります。その部分にものを載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

2.13.2　ExpressCardをセットする

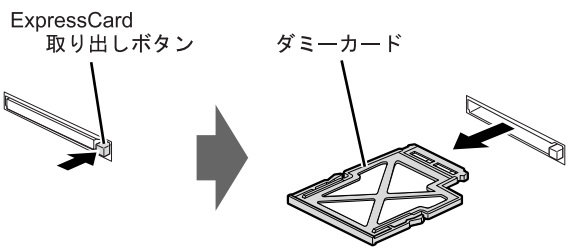
重要

- ExpressCardによっては、パソコン本体の電源を切ってからセットするものがあります。お使いになるExpressCardのマニュアルをご覧ください。

1 ExpressCard取り出しボタン（→P.16）を軽く1回押し、飛び出したExpressCard取り出しボタンを奥まで押し込み、ダミーカードを取り出します。

重要

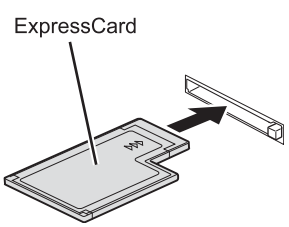
- ExpressCard取り出しボタンは必ず奥まで押し込んでください。飛び出したままお使いになると、ボタンの破損の原因となります。
- 取り外したダミーカードは大切に保管してください。



2 ExpressCardのラベル面を上に、端子側を奥にしてExpressCardスロット（→P.16）に奥まで差し込みます。

重要

- ExpressCard/34をお使いの場合は、ExpressCardの左端をExpressCardスロットの左端に合わせてまっすぐに差し込んでください。



2.13.3　ExpressCardを取り出す

重要

- ExpressCardによっては、パソコン本体の電源を切ってから取り出すものがあります。お使いのExpressCardのマニュアルをご覧ください。

1 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン をクリックします。

POINT

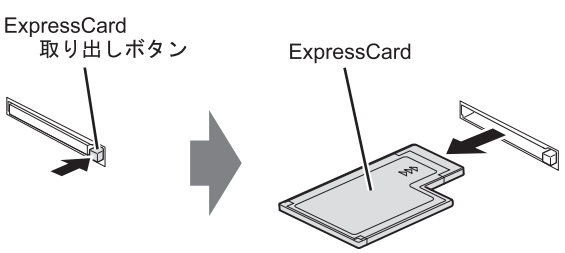
- ExpressCardによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンや手順2でお使いのExpressCardが表示されない場合があります。その場合は、ExpressCardのマニュアルをご覧ください。

2 取り外すExpressCardをクリックし、表示されるメッセージに従います。

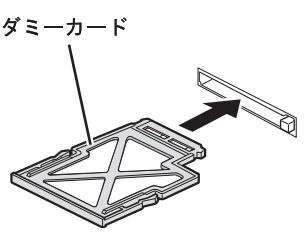
3 ExpressCard取り出しボタン（→P.16）を軽く1回押し、飛び出したExpressCard取り出しボタンを奥まで押し込み、ExpressCardを取り出します。

重要

- ExpressCard取り出しボタンは必ず奥まで押し込んでください。飛び出したままお使いになると、ボタンの破損の原因となります。



4 ダミーカードをExpressCardスロット（→P.16）に奥まで差し込みます。

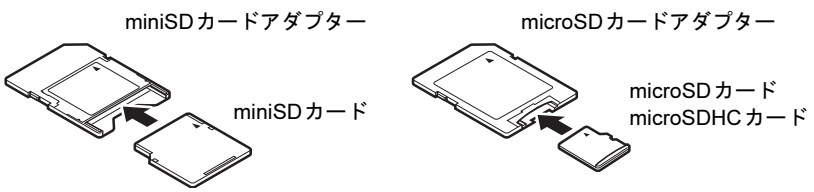


2.14 メモリーカードスロット

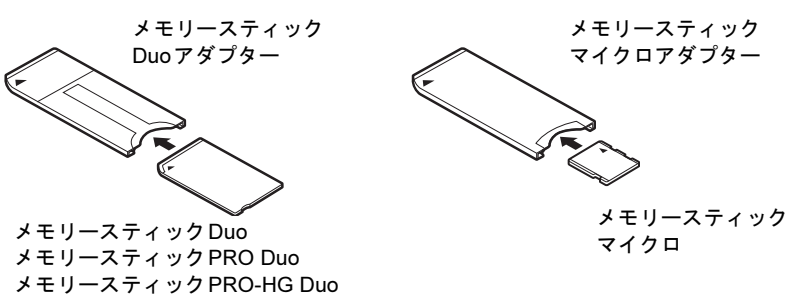
ここでは、SDメモリーカード／メモリースティックスロットに、SDメモリーカードやメモリースティックなどのメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。
メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、SDメモリーカード／メモリースティックスロットの仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.197）をご覧ください。

2.14.1 注意事項

- SDメモリーカードとメモリースティックは同時に使用できません。
- miniSDカード、microSDカード、microSDHCカードをお使いになるには、アダプターが必要です。そのまま挿入するとメモリーカードが取り出せなくなります。

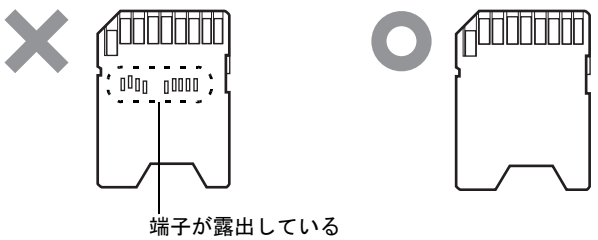


- メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo、メモリースティック PRO-HG Duo、メモリースティック マイクロをお使いになるには、アダプターが必要です。そのまま挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。



- アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしたり取り出したりしてください。アダプターだけをSDメモリーカード／メモリースティックスロットに残すと、故障の原因となります。

- 裏面の中央部に端子が露出しているタイプのminiSDカードアダプターは使用できません。故障の原因となります。



- メモリースティック Duoアダプターは、塗装部分がはがれた状態では使用しないでください。故障の原因となります。
  また、はがれた塗装部分にテープなどを貼って使用しないでください。アダプターが取り出せなくなる場合があります。

2.14.2　使用できるメモリーカード

すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカード		対応
SDメモリーカード[注1]	SDメモリーカード（2GB以下）	○
	SDメモリーカード（4GB以上）	×
	miniSDカード[注2]	○
	microSDカード[注2]	○
	SDHCカード	○
	microSDHCカード[注2]	○
	SDXCカード	○
	SDIOカード	×
メモリースティック[注3]	メモリースティック[注4]	○
	メモリースティック（メモリーセレクト機能付）[注4]	○
	メモリースティック Duo[注2注4]	○
	メモリースティック PRO[注4]	○
	メモリースティック PRO Duo[注2注4]	○
	メモリースティック PRO-HG Duo[注2注5]	○
	メモリースティック マイクロ[注2注4]	○

注1：・著作権保護機能には対応していません。
　　・マルチメディアカード（MMC）、セキュアマルチメディアカードには対応していません。
注2：アダプターが必要です。
注3：マジックゲート機能が必要なデータの記録・再生はできません。
注4：4ビットパラレルインターフェースを利用したデータ転送に対応しています。
注5：4ビットパラレルでの転送になります。

2.14.3　メモリーカードをセットする

1 メモリーカードのラベル面を上に、端子側を奥にして「カチッ」と音がするまでSDメモリーカード／メモリースティックスロット（→P.16）に差し込みます。

POINT

- 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、必要に応じて動作を選択するか、ウィンドウを閉じてください。

2.14.4　メモリーカードを取り出す

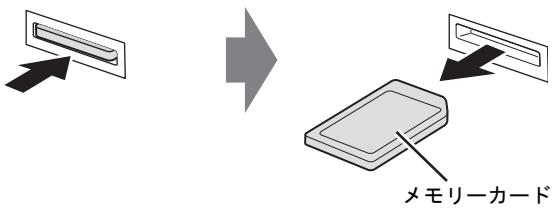
1 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン をクリックします。

2 取り外すメモリーカードをクリックし、表示されるメッセージに従います。

3 メモリーカードを一度押し、少し出てきたメモリーカードを引き抜きます。

重要

- メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり衝撃で破損したりするおそれがあります。また、SDメモリーカード／メモリースティックスロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因になります。



2.15 セキュリティボタン

本パソコンには、他人による不正使用を防止するためのセキュリティボタンが搭載されています。ここでは、セキュリティボタンの使い方について説明しています。タブレットボタンとしての使用方法については、「2.16 タブレットボタン」（→P.89）をご覧ください。

2.15.1 セキュリティボタンとは

セキュリティボタンとは、添付のソフトウェア「セキュリティボタン」でパソコン本体にパスワードを設定しておくことにより、本パソコンが起動するときや休止状態からレジュームするときに正しいパスワードを入力しないと、本パソコンを使用できなくする機能です。

■ パスワードの種類

セキュリティボタンで使用するパスワードには、次の2種類があります。

- 管理者用パスワード
  本パソコンの管理者が使用するパスワードです。管理者用パスワードを設定することにより、ユーザー用パスワードを設定できるようになります。セキュリティボタンを使用するためには必ず設定してください。

  重要

  - **管理者用パスワードを設定しただけでは、本パソコンをセキュリティボタンで保護することはできません。本パソコンをセキュリティボタンで保護するためには、必ずユーザー用パスワードも設定してください。**

- ユーザー用パスワード
  本パソコンの使用者が使用するパスワードです。ユーザー用パスワードを設定することにより、本パソコンがセキュリティボタンで保護されます。管理者用パスワードを設定した場合にのみ設定できます。

■「セキュリティボタン」の種類

添付のソフトウェア「セキュリティボタン」には、次の2種類があります。

- 「管理者用セキュリティボタン」（セキュリティボタン for Supervisor）
  管理者用パスワードとユーザー用パスワードの設定・変更・削除をするためのソフトウェアです。
- 「ユーザー用セキュリティボタン」
  ユーザー用パスワードの設定・変更・削除をするためのソフトウェアです。

2.15.2　インストールとアンインストール

■「セキュリティボタン」のインストール

ご購入時は「セキュリティボタン」はインストールされていません。
「5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール」（→P.128）をご覧になり、管理者用パスワードやユーザー用パスワードを設定する場合は「管理者用セキュリティボタン」を、ユーザー用パスワードを設定する場合は「ユーザー用セキュリティボタン」をインストールしてください。

■「セキュリティボタン」のアンインストール

「セキュリティボタン」をアンインストールしても、設定したパスワードはパソコン本体から消去されません。そのため、ユーザー用パスワードが設定されていれば、「セキュリティボタン」をアンインストールした後も、本パソコンはセキュリティボタンにより保護されます。
パスワードを変更・削除されたくない場合には、「セキュリティボタン」をアンインストールしてください。「セキュリティボタン」を再度インストールすることにより、再びパスワードを変更・削除できるようになります。
アンインストール方法については、「5.3 アンインストール」（→P.131）をご覧ください。

重要

- 「管理者用セキュリティボタン」は「ユーザー用セキュリティボタン」と異なり、現在のパスワードの入力可能な回数に制限がなく、パスワード破りのツールとして使用される可能性があります。そのため、「管理者用セキュリティボタン」は必要なときにだけインストールし、不要になったらすぐにアンインストールすることをお勧めします。
- 本パソコンをセキュリティボタンで保護する必要がなくなった場合は、すべてのパスワードを削除してから「セキュリティボタン」をアンインストールしてください。

2.15.3　パスワードを設定する

■ 使用できるパスワード

管理者用パスワードとユーザー用パスワードのどちらにも、数字ボタンの任意の組み合わせを1～5回続けたものを設定できます。
有効なパスワードの組み合わせには、次のようなものがあります。複数の数字ボタンを同時に押すことを、数字を「＋」でつないで表しています。

- 2＋3、1を押し、Enterボタンを押す
- 4を押し、Enterボタンを押す
- 1＋3、2＋3＋4、1、4、2を押し、Enterボタンを押す

■ 管理者用パスワードを設定する

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
2. 「参照」をクリックし、「管理者用セキュリティボタン」をインストールしたフォルダーにある「FJSECS.exe」をダブルクリックします。
   標準の設定では、「管理者用セキュリティボタン」は「C:¥Program Files¥Fujitsu¥Security Panel Application¥Supervisor」にインストールされています。
3. 「OK」をクリックします。
4. メッセージに従って管理者用パスワードを設定します。

重要

- 管理者用パスワードは、何かに書き留めて、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。管理者用パスワードを忘れると、管理者用パスワードによるセキュリティの解除ができなくなったり、管理者用パスワードやユーザー用パスワードの変更・削除ができなくなったりします。この場合は、パソコン本体の修理が必要になります。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず有償になります。

■ ユーザー用パスワードを設定する

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「セキュリティボタン」→「1.セキュリティボタン」の順にクリックします。
2. メッセージに従ってユーザー用パスワードを設定します。

重要

- ユーザー用パスワードを忘れると、ユーザー用パスワードによるセキュリティの解除ができなくなったり、ユーザー用パスワードの変更・削除ができなくなったりします。この場合は、「管理者用セキュリティボタン」を使ってユーザー用パスワードの変更・削除をしてください。

2.15.4　セキュリティを解除する

ユーザー用パスワードを設定すると、本パソコンが起動するときや休止状態からレジュームするときにパスワードの入力が要求されます。
次の手順でパスワードを入力して、セキュリティを解除します。

POINT

- スリープ状態からレジュームするときや、本パソコンを再起動したときにはパスワードの入力は要求されません。

1 **本パソコンの電源を入れます。**

セキュリティランプ（→P.21）が点灯します。

2 **数字ボタン（→P.22）で管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力し、Enterボタン（→P.22）を押します。**

重要

- 入力を行わないでいると、約1分後に本パソコンの電源が切れます。
- パスワードを3回間違えると、警告音が約1分間鳴り続けます。
  - ・警告音が鳴っている間に正しいパスワードを入力すると、警告音が止まりセキュリティが解除されます。
  - ・警告音が鳴っている間に正しいパスワードを入力しないと、約1分後に本パソコンの電源が切れます。

セキュリティが解除されます。

2.15.5　パスワードを変更する／削除する

■ 管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを変更する／削除する

1 「■ 管理者用パスワードを設定する」（→P.86）の手順に従い、「管理者用セキュリティボタン」を起動します。

2 「次へ」をクリックします。
「[セキュリティ管理者用機能選択]」画面が表示されます。

3 次の中から実行する機能を選択し、「次へ」をクリックします。
・管理者パスワードを変更する
・管理者パスワードおよびユーザーパスワードを削除する
・ユーザーパスワードを変更する
・ユーザーパスワードを削除する
パスワードの入力を要求する画面が表示されます。

4 要求された種類のパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

5 メッセージに従って選択した機能を実行します。

■ ユーザー用パスワードを変更する／削除する

1 「■ ユーザー用パスワードを設定する」（→P.86）の手順に従い、「ユーザー用セキュリティボタン」を起動します。

2 「次へ」をクリックします。
「[機能選択]」画面が表示されます。

3 次の中から実行する機能を選択し、「次へ」をクリックします。
・ユーザーパスワードを変更する
・ユーザーパスワードを削除する
パスワードの入力を要求する画面が表示されます。

4 現在のユーザー用パスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

重要

- パスワードを3回間違えると、これ以降「ユーザー用セキュリティボタン」を起動できなくなります。「ユーザー用セキュリティボタン」を起動できるようにするには、「■ 管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを変更する／削除する」（→P.88）に従い、ユーザー用パスワードを変更または削除してください。

5 メッセージに従って選択した機能を実行します。

2.16 タブレットボタン

タブレットボタンは本パソコンのさまざまな機能を呼び出すためのボタンです。ここでは、タブレットボタンの使い方について説明しています。
セキュリティボタンとしての使用方法については、「2.15 セキュリティボタン」（→P.84）をご覧ください。

2.16.1 タブレットボタンを使う

タブレットボタン（→P.22）を押すことにより次の動作を簡単に実行できます。動作はご購入時の設定です。タブレットボタンを押したときの動作を変更するには「2.16.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する」（→P.90）をご覧ください。

重要

- 「富士通タブレットコントロール」の「ボタンパネル」タブで、「タブレットボタンパネルを無効にする」にチェックを付けている場合、Ctrl＋Alt＋Deleteボタン以外のタブレットボタンは使用できません。

タブレットボタンの操作	動作
Aボタン（ ）を押す	【Pg Dn】キーを押したときの動作をします。 「2.16.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する」（→P.90）
Bボタン（ ）を押す	【Pg Up】キーを押したときの動作をします。 「2.16.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する」（→P.90）
Fnボタン（ ） →Aボタン（ ）の順に押す	「電卓」を起動します。 「2.16.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する」（→P.90）
Fnボタン（ ） →Bボタン（ ）の順に押す	「Windows Journal」を起動します。 「2.16.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する」（→P.90）
ローテーションボタン（ ）を押す	あらかじめ設定した順番で画面表示の向きを切り替えます。 「□ ローテーションボタンの設定を変更する」（→P.47）
Fnボタン（ ）を2回続けて押す	「Fujitsu Menu」を起動します[注]。 「2.16.2 タブレットボタンを押したときの動作を変更する」（→P.90）
Ctrl＋Alt＋Deleteボタン（ ）を2秒以上押す	【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押したときの動作をします。

注 ：「富士通タブレットコントロール」の「ボタンパネル」タブで、「Fnボタン二度押し機能を無効にする」にチェックを付けている場合は動作しません。

2.16.2　タブレットボタンを押したときの動作を変更する

タブレットボタンを押したときの動作は次の手順で変更します。

1 **コントロールパネルの「Tablet PC設定」を開きます。**
「ハードウェアとサウンド」→「Tablet PC設定」

2 **「ボタン」タブをクリックします。**

3 **「タブレットボタン」の一覧で、変更したいタブレットボタンの名称をクリックし、「変更」をクリックします。**
表示されているタブレットボタンの名称と、タブレットボタンの操作の対応は次のとおりです。

表示されている タブレットボタンの名称	タブレットボタンの操作
Fn+Fnボタン	Fnボタン（ ）を2回続けて押す
Bボタン	Fnボタン（ ）→Bボタン（ ）の順に押す
Aボタン	Fnボタン（ ）→Aボタン（ ）の順に押す
2ボタン	Bボタン（ ）を押す
1ボタン	Aボタン（ ）を押す

4 **動作を設定し「OK」をクリックします。**

POINT

- 「プレスアンドホールド」に別の動作を設定することもできます。

5 **「OK」をクリックします。**

2.16.3 「Fujitsu Menu」の設定を変更する

「Fujitsu Menu」はディスプレイの明るさの設定や、音量の設定などの各種設定を、簡単に行えるメニューソフトです。
「Fujitsu Menu」にソフトウェアを追加したり、「Fujitsu Menu」の動作を変更したりするには、次の操作を行います。

1 Fnボタン（→P.22）を2回続けて押して「Fujitsu Menu」を起動します。

2 「編集」をクリックします。

●「Fujitsu Menu」に表示されるソフトウェアを変更する場合
「項目の追加と削除」タブで、ソフトウェアの追加や削除をします。

●「Fujitsu Menu」の表示を変更する場合
「ボタン設定」タブで、メニュー項目の色や大きさを設定します。

●「Fujitsu Menu」の動作を変更する場合
「項目の追加と削除」タブで、「Fujitsu Menu」の動作を設定します。

3 「OK」をクリックします。

2.17 HDDプロテクション

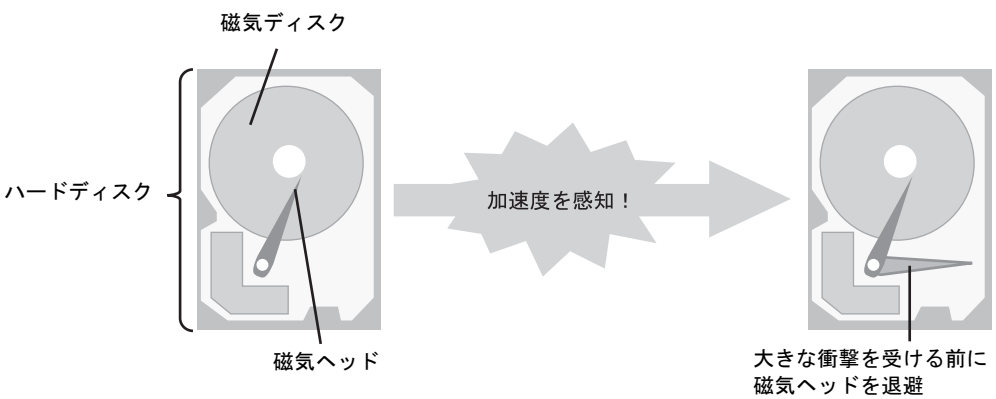
本パソコンにはHDDプロテクションが搭載されています。HDDプロテクションとは、パソコン本体の落下時などにハードディスクとハードディスク上のデータを保護する機能です。
ここではHDDプロテクションと、その設定を変更するための「Shock Sensor Utility」について説明しています。

2.17.1 HDDプロテクションの動作

ハードディスクの中では、磁気ヘッドが磁気ディスク上のデータを読み書きしています。落下などによりパソコン本体に強い衝撃が加わると、ハードディスクがダメージを受け、大切なデータを一瞬で失う危険性があります。
HDDプロテクションは、パソコン本体が落下しようとするときなどパソコン本体に加わる加速度を感知して、パソコン本体が強い衝撃を受ける前にハードディスクの磁気ヘッドを退避することにより、ハードディスクとハードディスク上のデータを保護します。

重要

- すべての状況に対して、ハードディスクやハードディスク上のデータの保護を保証するものではありません。



HDDプロテクションが動作すると、画面右下の通知領域にある「Shock Sensor Utility」のアイコンが から に変わり、「ハードディスクの磁気ヘッドを一時的に退避しました。」というメッセージが表示されます。

2.17.2　HDDプロテクションの感度を選択する

HDDプロテクションの感度を選択するには次の操作を行います。

重要

- HDDプロテクションの感度を上げると安全性は高くなりますが、HDDプロテクションが動作している間はハードディスクに対するアクセスができなくなるため、軽微な振動により本パソコンの動作が一時的に止まることがあります。お使いの状況に合わせて感度を選択してください。

1 画面右下の通知領域にある「Shock Sensor Utility」アイコンを右クリックし、感度を選択します。

感度	説明
高感度モード	感度を上げて安全性を高めたい場合に選択します。
通常モード	机の上など比較的安定した場所で本パソコンを使用する場合などに選択します。
モバイルモード	比較的振動が発生しやすい場所で本パソコンを使用する場合などに選択します。
低感度モード	タブレットモードなどパソコン本体を傾けて使用する場合などに選択します。
ユーザー設定	自由に設定した感度を選択します。

POINT

- 「Windowsモビリティセンター」（→P.11）から変更することもできます。

2.17.3　HDDプロテクションの設定を変更する

HDDプロテクションの設定を変更するには「Shock Sensor Utility」を使用します。

1 画面右下の通知領域にある「Shock Sensor Utility」アイコンを右クリックし、「設定」をクリックします。

2 赤いボタンをクリックします。

3 設定を変更し、「OK」をクリックします。

POINT

- 「Shock Sensor Utility」の詳しい使い方は、「ヘルプ」をクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に 95
3.2 メモリ 96
3.3 ポートリプリケータ 100
3.4 コネクタの接続／取り外し 102

3.1　周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1　注意事項

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、パソコン本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 メモリ

ここでは、本パソコンにメモリを取り付ける方法について説明しています。
必ず、「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.95）をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取り外してください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となります。
- プラスドライバー（1番）を用意してください。

3.2.2 取り付けられるメモリ

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。

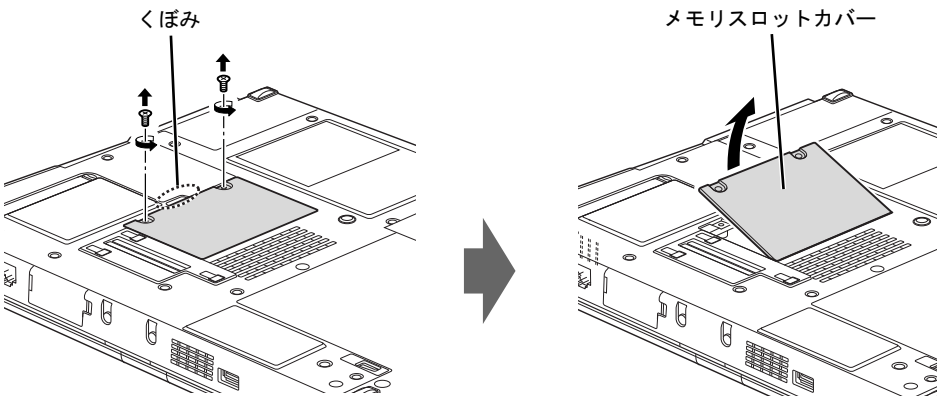
メモリスロット1	メモリスロット2	総容量
1GB	—	1GB
1GB	1GB	2GB
2GB	—	2GB
2GB	1GB	3GB
2GB	2GB	4GB[注]

注 ：OSが使用可能な領域は約3GBになります。

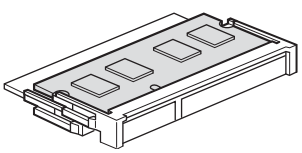
3.2.3　メモリを取り付ける

1 「2.9.4 バッテリを交換する」（→P.61）をご覧になり、バッテリを取り外します。

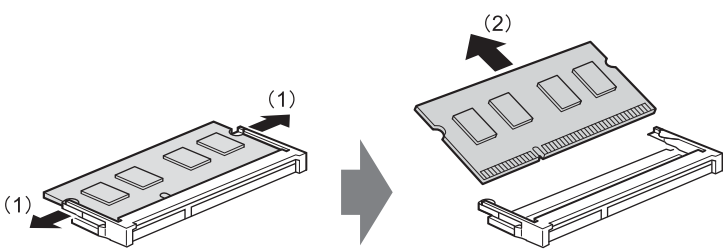
2 メモリスロットカバーを取り外します。
メモリスロットカバーを固定しているネジ（2ヶ所）を外し、メモリスロットカバーを取り外します。



3 メモリが取り付けられている場合は取り外します。



●メモリスロットにメモリが取り付けられている場合
（1）メモリスロットの両側のフックを外側に開いてメモリの固定を解除し、（2）メモリのふちを持って斜め上にまっすぐ引き抜きます。



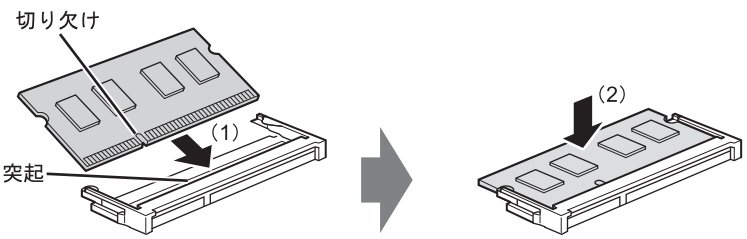
重要

- メモリスロット1のメモリを取り外すときは、メモリスロット2のメモリを取り外してから、メモリスロット1のメモリを取り外してください。

●メモリスロットにメモリが取り付けられていない場合
手順4に進みます。

4 メモリを取り付けます。

(1) メモリの欠けている部分とメモリスロットの突起を合わせ、斜め上から奥まで差し込み、(2) メモリスロット両側のフックが閉じてメモリを固定するまで、下に倒します。フックがメモリを固定していることを確認してください。



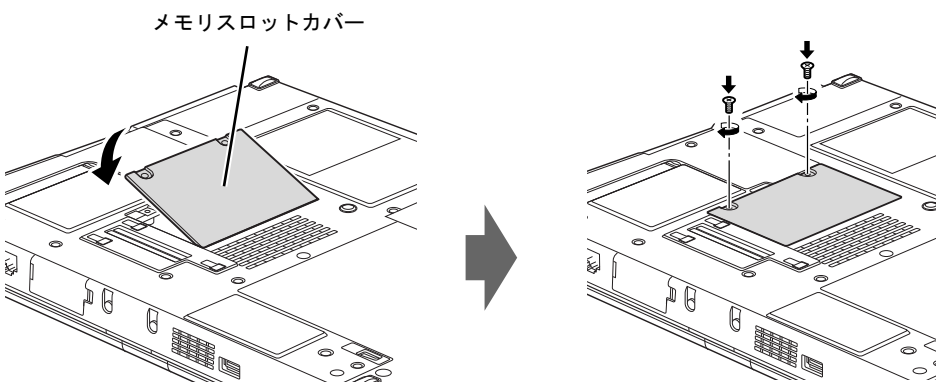
（イラストは機種や状況により異なります）

重要

- メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

5 メモリスロットカバーを取り付けます。

手順2で外したメモリスロットカバーを取り付けます。メモリスロットカバーのツメをパソコン本体のツメ穴に合わせてください。



6 「2.9.4 バッテリを交換する」（→P.61）をご覧になり、バッテリを取り付けます。

7 BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。

「6.2 BIOSセットアップの操作のしかた」（→P.134）をご覧になり、情報メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

重要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。それでも本パソコンが起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.2.4　メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付ける手順をご覧ください。

重要

- 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

3.3 ポートリプリケータ

対 象 ポートリプリケータ（別売）使用時

パソコン本体にポートリプリケータを取り付けると、ポートリプリケータに搭載されているコネクタを使用できるようになります。
ここでは、ポートリプリケータの取り付け、取り外し方法について説明しています。必ず、「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.95）をお読みになってから作業をしてください。

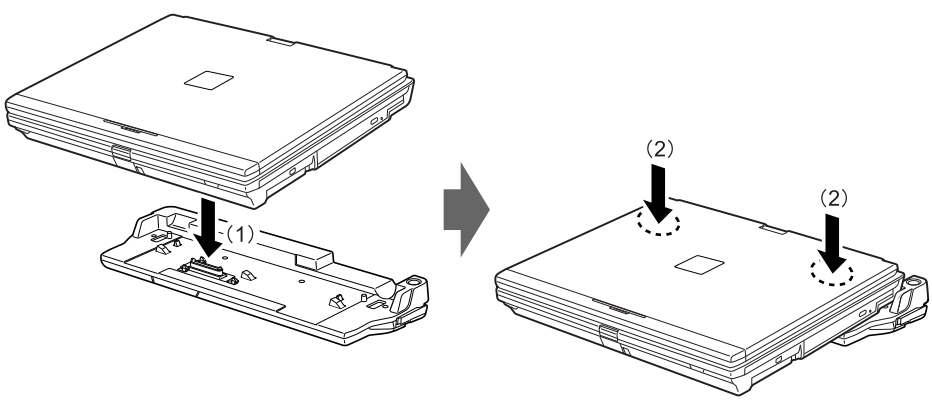
3.3.1 注意事項

- ポートリプリケータを取り付けた状態では、本パソコンを持ち運ばないでください。パソコン本体およびポートリプリケータのコネクタの破損の原因となります。
- ポートリプリケータを取り付けた状態では、パソコン本体のDC-INコネクタ（→P.16）、LANコネクタ（→P.17）、およびパソコン本体背面右側のUSBコネクタ（→P.17）は使用できません。
- ポートリプリケータをお使いになる場合は、必ずポートリプリケータのDC-INコネクタ（→P.23）に、パソコン本体に添付のACアダプタを接続してください。

3.3.2 ポートリプリケータを取り付ける

1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します。（→P.102）

2 （1）本体接続コネクタ（→P.23）の位置を合わせてパソコン本体を水平に下ろし、（2）矢印の部分を軽く押さえて、ポートリプリケータにしっかりと取り付けます。



重要

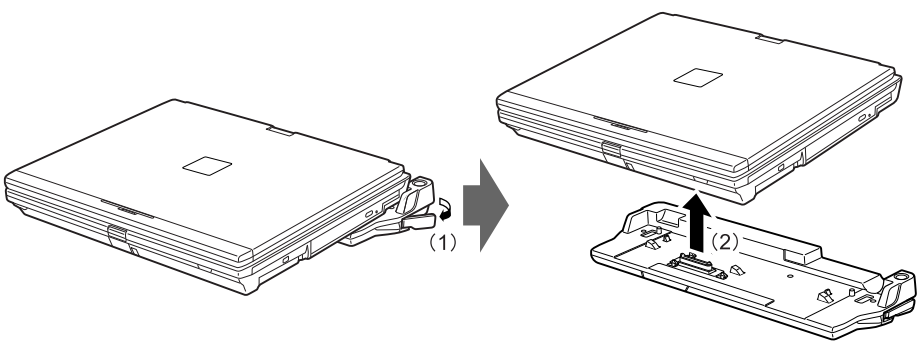
- パソコン本体上面を強く押さえると、液晶ディスプレイが割れるおそれがあります。ご注意ください。

3.3.3　ポートリプリケータを取り外す

1 ポートリプリケータのコネクタに接続されている周辺機器の電源を切ります。

2 パソコン本体をポートリプリケータから取り外します。

(1) ポートリプリケータの取り外しレバーを起こし、(2) パソコン本体を本体接続コネクタ側から持ち上げて、ポートリプリケータから取り外します。



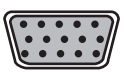
3.4 コネクタの接続／取り外し

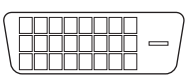
ここでは、パソコン本体やポートリプリケータのコネクタに、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.197）をご覧ください。
必ず、「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.95）をお読みになってから作業をしてください。

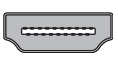
3.4.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前にご確認ください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずパソコン本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.4.2 ディスプレイコネクタ


アナログRGBミニD-SUB15ピン


DVI-D24ピン


HDMI Ver 1.2

外部ディスプレイを接続します。デジタルディスプレイを接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから接続してください。

■ 接続する

□ アナログディスプレイコネクタ

1 パソコン本体の電源を切ります。

2 アナログディスプレイコネクタ（→P.17）に、アナログディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込み、コネクタのネジを締めてください。

3 ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

□デジタルディスプレイコネクタ（DVI-D）

1. パソコン本体の電源を切ります。
2. デジタルディスプレイコネクタ（DVI-D）（→P.23）に、デジタルディスプレイのケーブルを接続します。
   コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込み、コネクタのネジを締めてください。
3. ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

□デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）

1. パソコン本体の電源を切ります。
2. デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）（→P.23）に、デジタルディスプレイのケーブルを接続します。
   コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
3. デジタルディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

■ 取り外す

重要

- マルチディスプレイ機能（→P.40）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□アナログディスプレイコネクタ

1. パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
2. コネクタのネジを緩め、コネクタをまっすぐに引き抜きます。

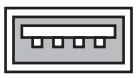
□デジタルディスプレイコネクタ（DVI）

1. パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
2. コネクタのネジを緩め、コネクタをまっすぐに引き抜きます。

□デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）

1. パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
2. コネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.4.3　USBコネクタ



USB機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

1 USBコネクタ（→P.16）（→P.17）（→P.23）に、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

重要

- USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。

1. 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。
2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。

2 コネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.4.4　IEEE1394コネクタ

IEEE1394機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

1 IEEE1394コネクタ（→P.16）に、IEEE1394対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

重要

- IEEE1394対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのIEEE1394対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。

1. 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン をクリックします。
2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。

2 コネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.4.5　音声入出力端子

マイク、スピーカーなどのサウンド機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- マイク・ラインイン兼用端子にサウンド機器を接続したり取り外したりするときは、サウンド機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

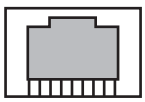
■ 接続する

1 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子（→P.16）またはマイク・ラインイン兼用端子（→P.16）に、サウンド機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 コネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.4.6　LANコネクタ



LANケーブルを接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

1. LANコネクタ（→P.17）（→P.23）にネットワーク機器のケーブルを接続します。
   コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

POINT

- パソコン本体の電源を入れたままLANケーブルを接続した場合、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

■ 取り外す

1. コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

3.4.7　モデムコネクタ

モジュラーケーブルを接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

1. モデムコネクタ（→P.17）にモジュラーケーブルを接続します。
   コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1. コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

4

第4章

セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。日ごろからセキュリティ向上を心がけてください。

4.1 コンピューターウイルス 108
4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする 109
4.3 不正使用からのセキュリティ 110
4.4 パソコンの盗難防止 113
4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意 114
4.6 データのバックアップ（Easy Backup） 117

4.1　コンピューターウイルス

4.1.1　コンピューターウイルス対策

■ ノートン アンチウイルス 2011

本パソコンには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「ノートン アンチウイルス 2011」が添付されています。

□ 注意事項

- 「ノートン アンチウイルス 2011」を起動していると、ご使用のソフトウェアによっては正常にインストールされなかったり、不具合が発生したりすることがあります。ご注意ください。

□ インストール方法

「5.2.2 「ノートン アンチウイルス 2011」のインストール」（→P.129）をご覧ください。

□ ウイルス定義ファイルの更新（LiveUpdate）

「ノートン アンチウイルス 2011」のウイルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。ウイルス定義ファイルは、自動的に更新する方法と、手動で更新する方法があります。詳しくは「ノートン アンチウイルス 2011」のヘルプをご覧ください。

POINT

- 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従って実行してください。
- 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。

4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする

Windowsやソフトウェアの脆弱性が悪用されると、コンピューターウイルスなどの悪意あるプログラムに侵入されたり、トラブルが引き起こされたりする危険性があります。
Windowsやソフトウェアの修正プログラムが発表されたときには、内容を確認のうえ適用してください。

4.2.1 Windows Update

マイクロソフト社が提供するシステムサポート機能です。Windowsを最新の状態に更新します。脆弱性を修正するセキュリティ機能更新、バグ修正などの対策プログラムが配布されます。
詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置）

弊社が提供するサポート機能です。お使いのコンピューターのドライバーや添付ソフトウェアの最新版が、弊社アップデートサイトに公開されているか調査し、適用することができます。
スタートメニューの「UpdateAdvisor（本体装置）」から起動できます。

4.3 不正使用からのセキュリティ

ここでは、不正使用からパソコンを守るため、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明しています。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、コンピューターの安全性も高まります。

重要

- コンピューターの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどのセキュリティを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードは数字だけでなく英字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

4.3.1 BIOSのパスワード

コンピューターの起動時のパスワードを設定できます。パスワードを知っている人だけがパソコンを起動できます。
また、コンピューターのハードディスク自体にパスワードを設定できます。
詳しくは、「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.144）をご覧ください。

4.3.2 セキュリティボタン

対 象 セキュリティボタン搭載機種

パソコン本体の起動時や休止状態からのレジューム時のパスワードを設定できます。
使い方については、「2章　取り扱い」（→P.24）の「セキュリティボタン」をご覧ください。

4.3.3 指紋センサー

対 象 指紋センサー搭載機種

コンピューターやWindowsの起動時、ソフトウェアのログオン時に指紋認証によるセキュリティを設定できます。
詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

4.3.4　FeliCaポート

対 象　FeliCaポート搭載機種

Windowsの起動時、ソフトウェアのログオン時に、非接触ICカード技術方式FeliCaに対応したICカードによるセキュリティを設定できます。ICカードにはIDやパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。
詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

4.3.5　スマートカード

対 象　スマートカードスロット搭載機種、スマートカードリーダー／ライター添付機種

Windowsの起動時、ソフトウェアのログオン時にスマートカード認証によるセキュリティを設定できます。スマートカードにはIDやパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。
詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

4.3.6　セキュリティチップ

対 象　セキュリティチップ搭載機種

セキュリティチップは、Windows ログオンのパスワードやファイルを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なIC チップです。暗号鍵などをハードディスクに残さないため、ハードディスクが盗まれても暗号を解析できません。
セキュリティチップに格納したデータにアクセスするには専用のインターフェースが必要です。
詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

4.3.7　Portshutter

USBポートやCD/DVD ドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。USB機器ごとに接続ポートの有効・無効を設定できます。
詳しくは、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

4.3.8　暗号化機能付HDD、暗号化機能付フラッシュメモリディスク

対 象　暗号化機能付HDD搭載機種、暗号化機能付フラッシュメモリディスク搭載機種

「暗号化機能付HDD」および「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、OSやプログラムを含むハードディスクまたはフラッシュメモリディスク上の全データについて、書き込み時には自動的に暗号化し、読み出し時には自動的に復号化します。そのため、暗号化を意識せずにセキュリティを確保できます。
BIOSセットアップでハードディスクパスワードを設定することにより、ハードディスクへのアクセスはパスワードで管理され、認証された使用者のみが復号化されたデータを入手できます。
また、本パソコンからハードディスクまたはフラッシュメモリディスクを抜き取り、他のパソコンに接続してデータを読み取ろうとした場合にも、パスワードの入力が必要になるため不正な使用を防ぐことができます。

重要

- ハードディスクパスワードを設定していない場合はハードディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。必ずハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.144）をご覧ください。

4.3.9　CLEARSURE

対 象　CLEARSURE対応モデル

「CLEARSURE」を使うと、コンピューターの盗難、紛失時に、PHS通信回線を使った遠隔操作でコンピューターのロックや、ハードディスクのデータ消去を行い、情報漏えいのリスクを軽減することができます。
また遠隔操作ができない状態でも、設定した回数を超えてパスワードを間違えると、コンピューターのロックやデータ消去を行うことができます。
詳しくは、『CLEARSUREをお使いになる方へ』をご覧ください。

4.3.10　エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

対 象　エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能対応のCPUが搭載されている機種

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファー・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。
詳しくは、「9.2 CPU」（→P.201）をご覧ください。

4.4 パソコンの盗難防止

パソコン本体を持ち出しできないようにすることで、盗難や紛失によりデータを盗まれるなどの危険から保護します。

4.4.1 パソコン本体の施錠方法

パソコン本体、ポートリプリケータの盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。
盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「1章　各部名称」（→P.12）をご覧ください。

POINT

- 弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、パソコンを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

重要

- CLEARSUREに対応したパソコンを譲渡する場合、必ずBIOSセットアップで「リモートロック・消去機能」を「オフ」に設定してください。

4.5.1 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する注意

パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。
ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に
① データを「ごみ箱」に捨てる
②「削除」操作を行う
③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
④ ソフトで初期化（フォーマット）する
⑤ リカバリディスクを使い、ご購入時の状態に戻す
などの作業を行うと思います。
まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。
つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。
パソコンユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス(共に有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

4.5.2　ハードディスクデータ消去

本パソコンには、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。
「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- パソコン本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとハードディスクのリカバリ領域も消去されます。必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
- 「トラブル解決ナビ& ドライバーズディスク」を起動してから、72時間経過すると、本パソコンが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビ& ドライバーズディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。ノートパソコンで「ハードディスクデータ消去」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中に「トラブル解決ナビ& ドライバーズディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- フラッシュメモリディスク搭載機種の場合は、「ハードディスクデータ消去」を一度実行しただけでは、完全にデータを消去することができません。必ず2回以上実行してください。
- CD/DVD ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、ポータブルCD/DVD ドライブを接続してください。
  ポータブルCD/DVD ドライブをお使いになる場合は、富士通製品情報ページ内の「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

■ データ消去方法

「トラブル解決ナビ& ドライバーズディスク」を用意してください。

1 「トラブル解決ナビ& ドライバーズディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
起動メニューまたはBoot Menuが表示されます。

POINT

- BIOSセットアップで「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を使用する設定にした場合、パスワードを入力後 （指紋を登録した場合は指紋認証後）、認証画面が消えた後、すぐに【F12】キーを押してください。
- 起動メニューまたはBoot Menuが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。「FUJITSU」ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューまたはBoot Menuが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。

4 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、CD/DVD ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

5 「ユーティリティ」タブをクリックし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。

6 画面の指示に従って「ハードディスクデータ消去」を実行します。
データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

7 「トラブル解決ナビ& ドライバーズディスク」を取り出します。

8 電源ボタンを4秒以上押して（電源スイッチの場合は4秒以上スライドさせて）、電源を切ります。

4.6 データのバックアップ（Easy Backup）

本パソコンには、簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェア「Easy Backup」が添付されています。必要に応じてお使いください。
「Easy Backup」のインストール方法については、「5.2 インストール」（→P.128）をご覧ください。

5

第5章

ソフトウェア

本パソコンにプレインストール（添付）されているソフトウェアの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

5.1 ソフトウェアの紹介 119
5.2 インストール 128
5.3 アンインストール 131

5.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本パソコンにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。
ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」などに格納されています。
また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。
各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表でご確認ください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
  ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- インストール方法
  「5.2 インストール」（→P.128）をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
  インターネット上のマニュアル（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/）の機能別のマニュアルをご覧ください。

5.1.1　一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

- OSについて
  お使いのパソコンに該当するOSの欄をご覧ください。
  ・Win7：Windows 7 Professional、Windows 7 Home Premium
  ・Vista：Windows Vista Business

- 提供形態について
  ▼：ご購入時にインストール済み
  ◇：Cドライブに格納（ご購入時にはインストールされていません）
  ○：「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」に格納
  ☆：各ソフトウェアのディスクに格納
  －：搭載されていないか、対象となる機種がありません

  「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」や各ソフトウェアのディスクは、本パソコンのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

5.1.2　セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.119）をご覧ください。

名称	概要	Win7	Vista
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、自動的に表示できない主旨のメッセージ画面が表示されます。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から90日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇	◇
Portshutter	USBポートやCD/DVDドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。	○	○
SMARTACCESS/Basic	対 象 **セキュリティチップ、スマートカードスロット、スマートカードリーダー／ライター、指紋センサー、FeliCaポート搭載機種** セキュリティチップ、スマートカード、指紋センサー、FeliCa対応非接触ICカードを使用するためのソフトウェアです。	○	○
セキュリティボタン	対 象 **セキュリティボタン搭載機種** セキュリティボタンのパスワードを設定します。 詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.24）の「セキュリティボタン」をご覧ください。	○	○
ノートン アンチウイルス 2011	コンピューターウイルスを検出・駆除します。 詳しくは、「4.1.1 コンピューターウイルス対策」（→P.108）をご覧ください。 ユーザー登録をすると「シマンテックテクニカルサポートセンター」をご利用になれます。 詳しくは、「8.3.1 お問い合わせ先」（→P.194）をご覧ください。	◇	◇
ハードディスクデータ消去	ハードディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「4.5.2 ハードディスクデータ消去」（→P.115）をご覧ください。	○	○

5.1.3　サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.119）をご覧ください。

名称	概要	Win7	Vista
PC乗換ガイド	今までお使いになっていたパソコンから、現在お使いのパソコンへ必要なデータを移行することができます。 ・「PC乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	○	○
UpdateAdvisor（本体装置）	お使いのパソコンのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。また、「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」を利用してお使いのパソコンの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	▼	▼
サポートナビ	本パソコンを快適にお使いいただくためのナビゲーションツールを目的別に分類したランチャーです。 デスクトップの「サポートナビ」アイコンから起動できます。ワンタッチボタン搭載機種はワンタッチ「サポートナビ」ボタン、Supportボタン搭載機種はSupportボタンを押して起動することもできます。	▼	▼

5.1.4　ユーティリティ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.119）をご覧ください。

名称	概要	Win7	Vista
3G Watcher	対 象 HIGH-SPEED対応無線WANモデル 無線WANを接続するために必要となる設定を行うソフトウェアです。 また、SMS（ショートメッセージサービス）を利用することができます。	▼	－
Adobe Reader	PDFファイルを表示、閲覧、印刷できます。	▼	▼
CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU	あらゆるデータソースを元に、対話形式でレポートを簡単にデザインできます。作成したレポートをWebアプリケーションに埋め込むことができます。レポート上で並べ替えやフィルタリングも可能です。 ・インストール後30日間ご試用いただけます。 ・無償サポート期間と無償アップデート期間は30日間（試用期間）です。	○	○
Easy Backup	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。	○	○
Fujitsu Display Manager	パソコンの画面表示設定の組み合わせを「プリセット」として保存し、必要に応じて保存した設定を復元することができます。	▼	▼
Googleツールバー	Internet Explorerのツールバーにある検索キーワード入力欄から、検索サービスサイト「Google」にアクセスして検索できます。 検索キーワードを入力するときに関連語句のヒントが表示されたり、検索履歴を簡単に見られたりするなどの便利な機能も含まれます。	▼	▼
IndicatorUtility	音声ボリューム、内蔵ポインティングデバイスの状態変更を行った場合や、キーボードで画面の明るさを操作した場合に、デスクトップ上にインジケーターを表示します。	▼	▼
Plugfree NETWORK	無線LANや有線LAN、およびダイヤルアップネットワークに接続するための設定を統合的に管理するソフトウェアです。 「Plugfree NETWORK」が接続したネットワークを判定し、会社、通勤中、自宅など、パソコンを使う場所が変わっても、自動で最適な設定に切り替えます。 「ネットワーク診断」でネットワークの状態を確認し、トラブル解決のサポートをします。	▼	▼

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.119）をご覧ください。

名称	概要	Win7	Vista
Quality Gaaiho PDF Suite	PDFファイルの作成や編集を行う「Gaaiho Doc」とMicrosoft® Office製品や、印刷機能のあるソフトウェアからの出力データをPDFファイルにする「Gaaiho PDF」からなるPDF作成、編集、変換ツールです。 試用開始時にはインターネットへの接続とユーザー登録が必要です。 無償サポート期間と無償アップデート期間は30日間です。	◇	◇
Shock Sensor Utility	対 象 Sシリーズ、Pシリーズ、Tシリーズ （フラッシュメモリディスク搭載の場合を除く） パソコンを持ち上げたり落としたりしたときの加速度に反応して動作し、ハードディスクを固定し破損する可能性を減らします。詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.24）の「HDDプロテクション」をご覧ください。	▼	▼
Systemwalker Desktop Patrol Lite	パソコンの使用状況（電力量、電力料金、CO_2排出量）の概算を計算したり、省電力設定やセキュリティ設定を確認したりすることができます。例えばスリープに移行するまでの時間設定が非常に長いなど、あらかじめ決められた設定と異なった場合には、そのことを利用者に通知し、設定を変更することもできます。 省電力設定については、「国際エネルギースタープログラム」のエネルギースター適合基準を基に、モニターの電源を切る時間、およびスリープに移行する時間を設定します。	○	○
お手入れナビ	対 象 Eシリーズ、A550シリーズ、A540シリーズ、 Sシリーズ、Tシリーズ パソコンの使用時間や温度を基準に、パソコンのお手入れ時期がきたことをお知らせします。 メッセージが表示されたときは、指示に従ってお手入れをしてください。お手入れ方法については、「7章　お手入れ」（→P.157）の「空冷用通風路」をご覧ください。	▼	▼
省電力 ユーティリティ	Windowsの稼働中に省電力モードを利用できます。省電力モードの設定方法については「2.8.7 省電力モード」（→P.57）をご覧ください。	▼	▼
静音 ユーティリティ	対 象 Pシリーズ CPUのパフォーマンスを調節して発熱を抑え、冷却用ファンの動作頻度を下げることができます。詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.24）の「静音モード」をご覧ください。	▼	▼

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.119）をご覧ください。

名称	概要	Win7	Vista
電源オフUSB充電ユーティリティ	対 象 Sシリーズ 省電力状態（スリープ、休止状態）、電源オフの状態で、USB充電に対応したUSB対応周辺機器に充電を行うためのユーティリティソフトです。	▼	▼
ドコモ コネクションマネージャ	対 象 HIGH-SPEED対応無線WANモデル FOMA® HIGH-SPEEDへ接続するためのソフトウェアです。	◇	−
バッテリーユーティリティ	バッテリの充電モードを変更してバッテリの寿命を延ばしたり、バッテリの情報を表示したり、消耗状態を測定したりすることができます。詳しくは、「2.9 バッテリ」（→P.58）をご覧ください。	▼	▼
富士通拡張機能ユーティリティ	本パソコンのハードウェア拡張機能をサポートします。	▼	▼
富士通タブレットコントロール	対 象 Tシリーズ タブレットモードにしたときの本パソコンの動作を制御します。パソコンの状態を検知し、画面の向きや解像度、タブレットボタンなどの制御を行います。	▼	▼
富士通タブレットボタンユーティリティ	対 象 Tシリーズ タブレットコントロール機能を有効にし、ノートパソコンモードとタブレットモードの切り替えに合わせて、自動的に画面表示状態を変更するなどができます。	▼	▼
富士通モニタユーティリティ	対 象 Eシリーズ、Aシリーズ、Sシリーズ、Pシリーズ 「富士通モニタユーティリティ」に対応した外部ディスプレイを接続し、プライマリモニターに設定した場合に使用できます。ソフトウェアごとに画質モードを登録し、そのソフトウェアを起動すると自動的に登録された画質モードに切り替えたり、ディスプレイのボタンを使わずに画質や表示サイズなどを設定したりすることができます。 「富士通モニタユーティリティ」に対応した外部ディスプレイについては、ディスプレイに添付のマニュアルまたは富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にあるディスプレイの製品情報をご覧ください。	○	○

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.119）をご覧ください。

名称	概要	Win7	Vista
ゆったり設定2	パソコンをより使いやすくするために、マウスポインターの動く速度、文字やアイコンの大きさなどの設定を簡単に変更できます。	○	○
らくらくズーム	パソコンの画面上の文字が小さくて見にくいときに、画面の一部分を拡大して見やすく表示します。拡大中も、通常どおりパソコンを操作できます。	－	○
ワンタッチボタン設定	対 象 **セキュリティボタン搭載機種** セキュリティボタンをワンタッチボタンとして使えるようになります。詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.24）の「ワンタッチボタン」をご覧ください。	▼	▼
	対 象 **Supportボタン搭載機種** Supportボタンを押すと「サポートナビ」を起動できるようになります。	▼	▼

5.1.5　CD/DVD関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.119）をご覧ください。

名称	概要	Win7	Vista
Roxio Creator	対 象 スーパーマルチドライブ（ユニット）搭載機種 パソコンのデータをCDやDVDに保存できます。 使用方法については、「2.10.5 ディスクに書き込む」（→P.69）およびソフトウェアのヘルプをご覧ください。	▼	▼
WinDVD	対 象 DVD-ROM ドライブ（ユニット）搭載機種、 スーパーマルチドライブ（ユニット）搭載機種 映画や音楽などのDVDを再生できます。 使用方法については、「2.10.6 DVD-Videoを再生する」（→P.70）をご覧ください。	☆	☆

5.1.6　メールソフト

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.119）をご覧ください。

名称	概要	Win7	Vista
Windows Live メール	Eメール、カレンダー、アドレス帳、フィード、およびニュースグループをすべて1ヶ所で管理するためのソフトウェアです。	▼	－

5.1.7　Office製品

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。
ご購入時はインストールされていますが、リカバリを実行した場合にはインストールされません。添付のディスクからインストールしてください。
Office 2010をお使いになる場合は、プロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。詳しくは、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.119）をご覧ください。

名称	含まれるソフトウェア	概要	Win7	Vista
Microsoft® Office Professional 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	▼	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算		
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理		
	Microsoft® PowerPoint® 2010	プレゼンテーション		
	Microsoft® OneNote® 2010	デジタルノート		
	Microsoft® Access® 2010	データベース		
	Microsoft® Publisher 2010	ビジネスパブリッシング		
Microsoft® Office Home and Business 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	▼	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算		
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理		
	Microsoft® PowerPoint® 2010	プレゼンテーション		
	Microsoft® OneNote® 2010	デジタルノート		
Microsoft® Office Personal 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ	▼	▼
	Microsoft® Excel® 2010	表計算		
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理		
Microsoft® Office Professional 2007	Microsoft® Office Word 2007	ワープロ	▼	▼
	Microsoft® Office Excel® 2007	表計算		
	Microsoft® Office Outlook® 2007	情報管理		
	Microsoft® Office PowerPoint® 2007	プレゼンテーション		
	Microsoft® Office Access® 2007	データベース		
	Microsoft® Office Publisher 2007	ビジネスパブリッシング		
Microsoft® Office Personal 2007 with PowerPoint	Microsoft® Office Word 2007	ワープロ	▼	▼
	Microsoft® Office Excel® 2007	表計算		
	Microsoft® Office Outlook®2007	情報管理		
	Microsoft® Office PowerPoint® 2007	プレゼンテーション		
Microsoft® Office Personal 2007	Microsoft® Office Word 2007	ワープロ	▼	▼
	Microsoft® Office Excel® 2007	表計算		
	Microsoft® Office Outlook® 2007	情報管理		

5.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。
データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアルやソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

重要

- 誤ったドライバーをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- 管理者権限をもったユーザーとしてWindowsにログオンしてからインストールしてください。

5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール

次のディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索ツール」を使ってインストールできます。

・トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク（「SMARTACCESS/Basic」を除く）
・「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」ディスク

重要

- これらのディスクは、本パソコンのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ドライバーやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。必要に応じてインストールしてください。なお、本パソコンに搭載されているすべてのドライバーやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

POINT

- 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
  1. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックします。
  2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「ソフトウェア」から、インストールするソフトウェアを選択します。
「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

5 表示されたフォルダー内の「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧になり、インストールしてください。
次のソフトウェアはインストール方法が異なります。

●Adobe Reader
「AdbeRdr933_ja_JP.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

POINT

- インストール中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

●Portshutter
「Manual」フォルダーにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

●Roxio Creator
「Setup.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

●WinDVD
表示されたフォルダー内の「DVDreadme.txt」をご覧ください。

●セキュリティボタン
管理者用の場合は、「Supervisor」フォルダーにある「ReadmeS.txt」をご覧ください。
ユーザー用の場合は、「User」フォルダーにある「ReadmeU.txt」をご覧ください。

●CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU
表示されたフォルダー内の「Crystal Reports 2008 for Fujitsu インストールガイド.pdf」をご覧ください。インストールに必要な試用版のライセンスキーは、同じフォルダーにある「Crystal Reports 2008 30-Day Evaluation.txt」をご覧ください。

5.2.2 「ノートン アンチウイルス 2011」のインストール

Cドライブに格納されています。

1 次のファイルを実行し、表示されるメッセージに従ってインストールします。
C:¥Fujitsu¥Bundle¥NAV¥Fujitsu_Ltd_NAV_18.0_OEM90_21034435.exe

2 インストールが完了したら本パソコンを再起動します。

5.2.3 「i-フィルター」のインストール

Cドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥I-Filter¥readme.txt

5.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール

「SMARTACCESS/Basic」は「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。

5.2.5 「Quality Gaaiho PDF Suite」のインストール

Cドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥GaaihoPDF¥GaaihoWorksReadme.txt

インストール後は、次のファイルをご覧になりお使いください。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥GaaihoPDF¥Gaaiho Worksデモ版ご利用開始方法.pdf

5.2.6 Office製品のインストール

次のソフトウェアのインストール方法については、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- Office Professional 2010
- Office Home and Business 2010
- Office Personal 2010
- Office Professional 2007（SP2）
- Office Personal 2007 with PowerPoint 2007（SP2）
- Office Personal 2007（SP2）

インストール後は「Microsoft Update」を利用するなどして、ソフトウェアを最新の状態に更新してください。

5.3 アンインストール

5.3.1　注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと
  アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
  「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
  このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

5.3.2　アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
  ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
  「コントロールパネル」ウィンドウ→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重要

- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
  ・指紋センサー
  ・FeliCa ポート
  ・スマートカードスロット
  ・セキュリティチップ
- 「セキュリティボタン」をアンインストールしても、設定したパスワードは消去されません。パソコン本体を「セキュリティボタン」のパスワードで保護する必要がなくなったときは、必ず設定したパスワードを削除してから「セキュリティボタン」をアンインストールしてください。詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.24）の「セキュリティボタン」をご覧ください。
- Windows 7で「WinDVD」をアンインストールする場合、インストール時に使ったディスクをセットしてからアンインストールを行ってください。

6

第6章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

6.1 BIOSセットアップ 133
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた 134
6.3 メニュー詳細 137
6.4 設定事例集 144
6.5 ME BIOS Extension 151

6.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやハードディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。
本パソコンご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

・特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワードを設定するとき
・起動デバイスを変更するとき
・セキュリティチップの設定を変更するとき
・SMARTACCESSのBIOS連携を使用するとき
・Wakeup on LANの設定を変更するとき
・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重要

- BIOSセットアップは正確に設定してください。
  設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください。
- 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

6.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

6.2.1 BIOSセットアップを起動する

1 本パソコンの電源を入れる、または再起動します。

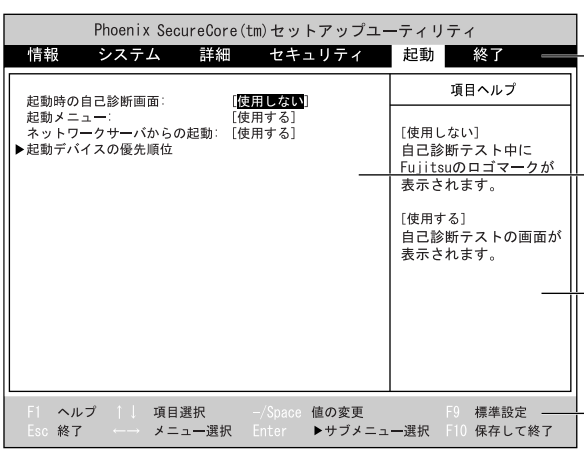
2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F2】キーを押します。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して【Enter】キーを押してください。詳しくは、「■ パスワードを使用する」（→P.145）をご覧ください。
BIOSセットアップ画面が表示されます。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。
- FUJITSUロゴが表示されない場合は、再起動後、BIOSセットアップ画面が表示されるまで【F2】キーを何度か押してください。
- 手順2で【F2】キーを押さずに【Enter】キーを押すと、ポップアップメニューが表示されます。ポップアップメニューからBIOSセットアップを起動することもできます。

6.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「キー一覧」をご覧ください。



（機種により表示が異なる場合があります）

1 メニューバー
メニュー名が表示されます。

2 設定フィールド
選択しているメニューの設定項目と、現在の設定値が表示されます。

3 項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

4 キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

6.2.3　BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2～3回押してください。

2 「変更を保存して終了する」または「変更を保存して電源を切る」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windowsが起動、またはパソコンの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2～3回押してください。

2 「変更を保存せずに終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。手順3を行う必要はありません。

3 「いいえ」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windows が起動します。

重要

- 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

6.2.4 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本パソコンを起動します。「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」から本パソコンを起動する場合などに使用します。

1 本パソコンの電源を入れる、または再起動します。

2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F12】キーを押します。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して【Enter】キーを押してください。詳しくは、「■ パスワードを使用する」（→P.145）をご覧ください。
起動メニューが表示されます。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。
- FUJITSUロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。
- 手順2で【F12】キーを押さずに【Enter】キーを押すと、ポップアップメニューが表示されます。ポップアップメニューから起動メニューを表示することもできます。
- BIOSセットアップの「起動」メニュー→「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。

3 起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスから本パソコンが起動します。

POINT

- CD/DVDドライブから起動する場合、CD/DVDドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
CD/DVDドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、CD/DVDドライブから正常に起動できない場合があります。
- 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

6.3 メニュー詳細

ここでは、BIOSセットアップのメニューについて説明しています。
BIOSセットアップのメニューは次のとおりです。

メニュー	説明
情報 （→P.138）	BIOSやパソコン本体についての情報が表示されます。
システム （→P.138）	日時や言語、ドライブの機能などを設定します。
詳細 （→P.139）	CPUや内蔵デバイス、周辺機器などを設定します。
セキュリティ （→P.141）	パスワード等のセキュリティ機能を設定します。
起動 （→P.143）	本パソコンの起動時の動作について設定します。
終了 （→P.143）	設定値の保存や読み込み、BIOSセットアップの終了などを行います。

重要

- BIOSセットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

POINT

- 一部の項目は、該当機能を搭載した機種でのみ表示されます。
  また一部の項目は、他の項目の設定によって表示されなかったり設定変更不可（グレー表示）になったりします。
  詳しくは各項目の備考欄をご覧ください。
- 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている場合、ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動すると、設定値がグレー表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

6.3.1 情報メニュー

BIOSやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

設定項目	備考
型名	
カスタムメイド番号	
製造番号	
BIOS版数	
CPUタイプ	
全メモリ容量	1MB=1024^2バイト換算
メモリスロット1	1MB=1024^2バイト換算
メモリスロット2	1MB=1024^2バイト換算
MACアドレス	
UUID	
パネルID	

6.3.2 システムメニュー

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
システム時刻 □00：00：00～23：59：59	【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】＋【Tab】キー……左の項目に移動
システム日付 □1981/01/01～2099/12/31	【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】＋【Tab】キー……左の項目に移動
ドライブ0	「標準設定値を読み込む」実行後は再起動が必要
ドライブ0 □使用しない ■使用する	
タイプ	
モデル	
容量	1GB=1000^3バイト換算
ドライブ1	「標準設定値を読み込む」実行後は再起動が必要
ドライブ1 □使用しない ■使用する	
タイプ	
モデル	
言語（Language） ■日本語（JP） □English（US）	CMOSエラー発生時は「English（US）」に設定される

6.3.3 詳細メニュー

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
キーボード／マウス設定	
起動時のNumlock設定 □オン ■オフ □オン（Fnキー）	
ディスプレイ設定	OS起動後はOSの設定に従う
ディスプレイ □液晶ディスプレイ □外部アナログ □外部デジタル（DVI） ■自動	「外部デジタル（DVI）」はポートリプリケータ接続時のみ使用可能
その他の内蔵デバイス設定	
シリアルATAコントローラー □使用しない ■使用する	
AHCI設定 □使用しない ■使用する	「シリアルATAコントローラー」が「使用する」時のみ設定変更可能
内蔵LANデバイス □使用しない ■使用する	搭載機種のみ表示
無線LANデバイス □使用しない ■使用する	搭載機種のみ表示
IEEE1394コントローラー □使用しない ■使用する	搭載機種のみ表示
照度センサー □使用しない ■使用する	搭載機種のみ表示
CPU設定	
マルチコア □使用しない ■使用する	
HTテクノロジー □使用しない ■使用する	対応CPU搭載機種のみ表示
SpeedStep(R)テクノロジー □使用しない ■使用する	対応CPU搭載機種のみ表示
Virtualization Technology ■使用しない □使用する	対応CPU搭載機種のみ表示
Intel(R) VT-d ■使用しない □使用する	・対応CPU搭載機種のみ表示 ・「Virtualization Technology」が「使用する」時のみ設定変更可能
Intel(R) TXT ■使用しない □使用する	・対応CPU搭載機種のみ表示 ・「Virtualization Technology」および「VT-d」が「使用する」、TPM（セキュリティチップ）の状態が「有効かつ使用可」の場合のみ設定変更可能

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
USB設定	
レガシー USBサポート □使用しない ■使用する	「使用しない」時はFDDユニット（USB）からの起動不可
SCSIサブクラスサポート □使用しない ■使用する	「レガシーUSBサポート」が「使用する」時のみ設定変更可能 注1
各種設定	
電源ボタン ■使用しない □電源オフ	ACPI対応OSでは無効
LANによるウェイクアップ ■使用しない □使用する	「使用する」設定時は、消費電力が増加するためACアダプタ使用推奨
バッテリ運用時 □使用しない ■使用する	「LANによるウェイクアップ」が「使用する」時のみ設定変更可能
強制LANブート ■使用しない □使用する	「LANによるウェイクアップ」が「使用する」時のみ設定変更可能
LANによるレジューム □AC接続時のみ ■常に有効	
自動Save To Disk □オフ ■オン	
音量設定 □オフ □小 ■中 □大	
ハードウェア省電力機能 ■使用しない □使用する	
Intel(R) Management Engine設定	
Intel(R) ME設定メニュー □表示しない ■表示する	
Intel(R) AMT CIRAリクエスト発行 ＞Enter	・再起動後に確認メッセージ表示 ・管理サーバーが設定されていない場合は使用禁止
Intel(R) ME設定のクリア ＞Enter	再起動後に確認メッセージ表示
イベントログ設定	
イベントログ領域の状態	
イベントログ内容の状態	
イベントログの表示 ＞Enter	
イベントログ □保存しない ■保存する	
システム起動 ■保存しない □保存する	「イベントログ」が「保存する」時のみ表示
イベントログの消去 ■消去しない □消去する	
イベントログのマーク ＞Enter	現在までのイベントログを既読に設定し、以降表示されないようにする

注1： 接続されているデバイスによっては、「使用する」に設定すると本パソコンが起動しなくなる場合があります。その場合は、デバイスを取り外して再起動してください。

6.3.4 セキュリティメニュー

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
管理者用パスワード	設定状況を表示
ユーザー用パスワード	設定状況を表示
管理者用パスワード設定 ＞Enter	「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.144）
ユーザー用パスワード設定 ＞Enter	「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.144）
ユーザー用パスワード文字数 □0～32	
起動時のパスワード ■使用しない □最初のみ □毎回	
自動ウェイクアップ時 ■使用しない □使用する	・LAN／タイマー等による自動ウェイクアップ時のパスワード要求有無を設定。 ・「起動時のパスワード」が「最初のみ」または「毎回」時に設定可能
取外し可能なディスクからの起動 ■常に可能 □管理者のみ	
BIOSフラッシュメモリへの書き込み □禁止 ■可能	
ハードディスクセキュリティ	・CLEARSURE対応モデル以外の場合 ・電源投入直後にBIOSセットアップを起動した場合のみ設定可能。再起動後は設定不可。
ドライブ0	設定状況を表示
マスターパスワード設定 ＞Enter	「管理者用パスワード」、およびハードディスクの「ユーザーパスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.144）
ユーザーパスワード設定 ＞Enter	「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.144）
ドライブ1	設定状況を表示
マスターパスワード設定 ＞Enter	「管理者用パスワード」、およびハードディスクの「ユーザーパスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.144）
ユーザーパスワード設定 ＞Enter	「管理者用パスワード」設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.144）
起動時のパスワード入力 □使用しない ■使用する	設定に関わらず再起動時は要求なし

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
所有者情報	
所有者情報	
所有者情報設定 ＞Enter	
文字色 ■グレー　他	全16色から選択可
背景色 ■黒　他	全16色から選択可
TPM（セキュリティチップ）設定	・セキュリティチップ選択時のみ設定可能 ・「標準設定値を読み込む」を実行しても変更されない
セキュリティチップ □使用しない ■使用する	設定変更は再起動後に有効
現在のTPM状態	
TPM状態の変更 ■変更しない □有効かつ使用可 □無効かつ使用不可	設定変更は再起動後に有効
セキュリティチップのクリア ＞Enter	・クリアは再起動後に実行 ・「現在のTPM状態」が「無効かつ使用不可」の場合には選択不可

6.3.5 起動メニュー

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
起動時の自己診断画面 ■使用しない □使用する	「使用しない」設定時は「FUJITSU」ロゴを表示
起動メニュー □使用しない ■使用する	【F12】キーによる起動メニュー呼び出しの設定
ネットワークサーバーからの起動 □使用しない ■使用する	
起動デバイスの優先順位	
起動デバイスリスト □Floppy Disk Drive □Drive0 HDD □Drive1 HDD □CD/DVD Drive □NETWORK 除外された起動デバイス □USB MEMORY □USB HDD □AMT	「起動デバイスリスト」の登録順に起動イメージを検索 「6.4.2 起動デバイスを変更する」（→P.147）

6.3.6 終了メニュー

項目を選んで【Enter】キーを押すと、確認画面が表示されます。

設定項目	備考
変更を保存して終了する	
変更を保存せずに終了する	注1
標準設定値を読み込む	次の項目は対象外 - 言語設定 - BIOSパスワード - ハードディスクパスワード - 所有者情報 - TPM（セキュリティチップ）設定
変更前の値を読み込む	
変更を保存する	
変更を保存して電源を切る	

注1： 確認画面で「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。「いいえ」を選択してください。

6.4 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況にあわせてご覧ください。

・BIOSのパスワード機能を使う（→P.144）
・起動デバイスを変更する（→P.147）
・セキュリティチップの設定を変更する（→P.147）
・パスワードの代わりに指紋認証を使う（→P.149）
・Wakeup on LANを有効にする（→P.149）
・イベントログを確認する（→P.149）
・ご購入時の設定に戻す（→P.150）

6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードを設定／変更／削除する

重要

- ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本パソコンを再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- 「管理者用パスワード」またはハードディスクパスワードを変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- 「ユーザー用パスワード」やハードディスクパスワードを設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。
- 「暗号化機能付HDD」は、全データを自動的に暗号化、復号化していますが、ハードディスクパスワードを設定していない場合はハードディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本パソコンの電源が入っている場合は、シャットダウンします。
2. BIOSセットアップを起動します（→P.134）。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

●管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合

- 「管理者用パスワード設定」
- 「ユーザー用パスワード設定」

●ハードディスクパスワードを設定する場合

- 「ハードディスクセキュリティ」→「ドライブn」の「マスターパスワード設定」
- 「ハードディスクセキュリティ」→「ドライブn」の「ユーザーパスワード設定」

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4 新しいパスワード（1～32桁）を入力します。
パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移ります。

POINT

- BIOSセットアップを「ユーザー用パスワード」で起動した場合、「ユーザー用パスワード」を削除できるのは「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。
- パスワードには、アルファベットと数字を使用できます。また、大文字と小文字は区別されます。
- 入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。
「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- 再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」ウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

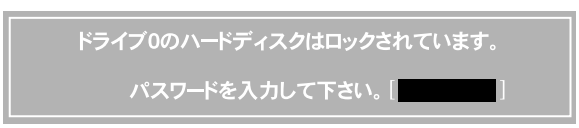
POINT

- 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」と表示されて警告音が鳴り、キーボードやマウスが一切反応しなくなります。この場合は、電源スイッチを4秒以上スライドさせて本パソコンの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード
  - ・BIOSセットアップを起動するとき
  - ・本パソコンを起動するとき
  - ・休止状態からレジューム（復帰）するとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

- ハードディスクパスワード
  ・本パソコンを起動するとき
  次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。



POINT

- ハードディスク用マスターパスワードでは、本パソコンを起動することはできません。

■ パスワードを忘れてしまったら

重要

- ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもハードディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□ 対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
  管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。
- ハードディスク用ユーザーパスワードを忘れてしまった
  ハードディスク用マスターパスワードが設定されている場合のみ、マスターパスワードを削除するとユーザーパスワードも削除されます。
  マスターパスワードを設定していなかった場合は、修理が必要です。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

□ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスク用マスターパスワードを忘れてしまった

6.4.2　起動デバイスを変更する

本パソコンの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。
「起動デバイスリスト」の登録順にOSを検索します。
「除外された起動デバイス」に登録されたデバイスは検索の対象外となります。

1. 「起動」メニューを選択します。
2. 「起動デバイスの優先順位」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 【↑】【↓】キーで優先順位を変更したいデバイスを選択します。
4. 【Space】キー、【＋】【－】キー、および【x】キーを使用して、優先順位を変更します。
   ・【Space】キー、【＋】キー……選択したデバイスを1つ上に移動します。
   ・【－】キー……選択したデバイスを1つ下に移動します。
   ・【x】キー……「起動デバイスリスト」と「除外された起動デバイス」の間を移動します。
5. 「起動デバイスリスト」が希望する順番になるまで、手順3～4を繰り返します。

6.4.3　セキュリティチップの設定を変更する

■ セキュリティチップの状態を変更する

1. セキュリティメニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
2. 「TPM状態の変更」を選択し、【Enter】キーを押します。
   TPM状態によって「有効かつ使用可」「無効かつ使用不可」のいずれかが表示されます。
3. 「有効かつ使用可」もしくは「無効かつ使用不可」を選択し、【Enter】キーを押します。
4. 「変更を保存して終了する」を選択してBIOSセットアップを終了します。
   再起動後、セキュリティチップの状態が変更されます。

■ セキュリティチップをクリアする

1. セキュリティメニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
2. 「セキュリティチップのクリア」を選択し、【Enter】キーを押します。
   確認画面が表示されます。

POINT

- セキュリティチップの状態が「無効かつ使用不可」の場合、「セキュリティチップのクリア」はグレー表示され選択できません。この場合は、セキュリティチップの状態を「有効かつ使用可」に変更してから改めて操作してください。

3. 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
4. 「変更を保存して終了する」を選択してBIOSセットアップを終了します。
   再起動後、セキュリティチップの状態が変更されます。

■ ソフトウェアからの変更を反映する

Windows上のソフトウェアからセキュリティチップの状態を変更する場合、本パソコンの再起動時に確認画面が表示され、「はい」を選択することで初めて状態が変更されます。ソフトウェアによって再起動を要求するメッセージが表示されたら、次の手順に従って操作してください。

重要

- BIOSの管理者用パスワードが設定されていない場合、セキュリティチップの状態は変更できません。セキュリティチップを使用するソフトウェアを使用する場合は、管理者用パスワードを設定しておいてください。

1. 本パソコンを再起動します。
   起動時の自己診断が実行された後、BIOSのパスワード入力画面が表示されます。

POINT

- 「起動時のパスワード」が「使用しない」または「初回のみ」に設定されている場合でも、パスワード入力画面が表示されます。

2. 管理者用パスワードを入力します。
   TPM設定変更の確認画面が表示されます。
3. 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
   セキュリティチップの状態が変更されます。

6.4.4　パスワードの代わりに指紋認証を使う

対 象　指紋センサー搭載機種

指紋センサー搭載機種（CLEARSURE対応モデルを除く）の場合、パスワードを入力する代わりに、指紋センサーを使用して本パソコンの起動時の認証を行うことができます。次の手順で設定を変更してください。

1. 管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定します。
   「BIOSのパスワード機能を使う」（→P.144）
2. 「起動時のパスワード」を「使用する」に設定します。
3. SMARTACCESSで指紋の登録と設定を行います。
   詳しくは『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

POINT

- ハードディスクパスワードの代わりに指紋認証を使用することはできません。

6.4.5　Wakeup on LANを有効にする

本パソコンの電源が切れているときにマジックパケットを受信した場合に、電源を入れるように設定します。LANによる省電力状態からのレジューム（復帰）については、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.55）をご覧ください。

1. 「詳細」メニューを選択します。
2. 「各種設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 「LANによるウェイクアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
4. 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。
5. 「変更を保存して終了する」を選択してBIOSセットアップを終了します。
   再起動後、設定が有効となります。

6.4.6　イベントログを確認する

1. 「詳細」メニューを選択します。
2. 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。
   記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「メッセージが表示された」（→P.172）をご覧ください。

6.4.7　ご購入時の設定に戻す

1 「終了」メニューを選択します。

2 「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。

- **「標準設定値を読み込む」で変更されない項目**
  - ・日時の設定
  - ・言語設定
  - ・BIOSパスワード
  - ・ハードディスクパスワード
  - ・所有者情報
  - ・TPM（セキュリティチップ）の状態

4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.3 BIOSセットアップを終了する」（→P.135）

6.5 ME BIOS Extension

お使いのパソコンにインテル® Core™ i7 プロセッサーまたはインテル® Core™ i5 プロセッサーが搭載されている場合は、インテル® AMT機能などを提供するME（Management Engine）BIOS Extensionが搭載されています。ここでは、ME BIOS Extensionの設定を行うMEセットアップについて説明します。

MEセットアップは、AMT機能などに対応した管理ソフトウェアを使用する場合にのみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定を変更してください。AMT機能などをお使いにならない場合は、初期パスワードのみ変更してください。本パソコンご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。

重要

- 「FUJITSU」ロゴが表示された後、画面上に「Press <CTRL-ALT-F1> to enter Remote Assistance」と表示されることがあります。通常は、本機能をお使いになれませんので操作しないでください。
  なお、Remote Assistanceをご利用になる場合は、管理者の指示に従ってください。
- 修理などによりメインボードを交換された場合は、パスワードを含むMEセットアップの設定値が出荷時の状態に戻る場合があります。その場合は、MEセットアップを設定し直してください。

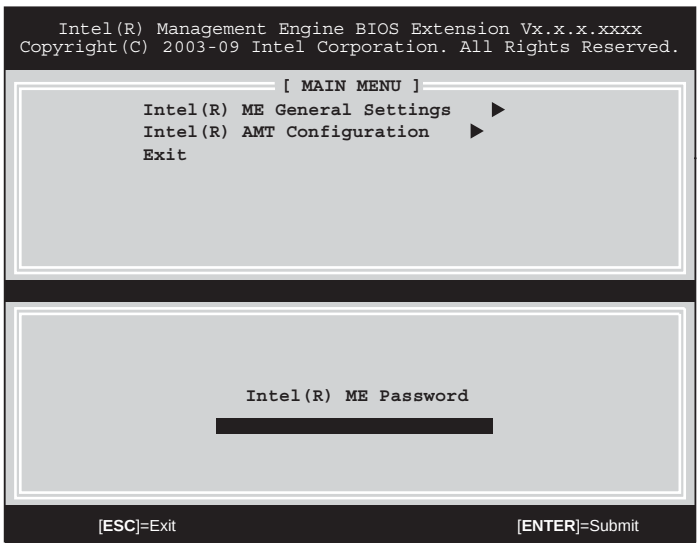
6.5.1 初期パスワードを変更する

重要

- パスワードは、必ず変更してください。ご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。
- 変更したパスワードを忘れるとMEセットアップの設定が変更できなくなります。その場合、BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「Intel(R) Management Engine設定」→「Intel(R) ME 設定のクリア」でご購入時の状態に戻してから、パスワードを設定し直してください。

1 本パソコンの電源を入れる、または再起動します。

2 「FUJITSU」ロゴが表示された後、画面上に「Press <Ctrl-P> to enter Intel(R) ME Setup」と表示されたら、【Ctrl】キーを押しながら【P】キーを押します。
MEセットアップ画面が表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

POINT

- BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「Intel(R) Management Engine設定」→「Intel(R) ME設定メニュー」が「表示しない」に設定されている場合、「Press <Ctrl-P> to Enter Intel(R) ME Setup」が表示されずにOSが起動し、MEセットアップを起動できません。この場合は、BIOSセットアップの設定を変更してください。

3 「admin」と入力し、【Enter】キーを押します。
出荷時のパスワードは「admin」に設定されています。

POINT

- 「Invalid Password - Try Again」と表示された場合、入力したパスワードが間違っています。【Enter】キーを押してメッセージを消去し、キーボードのCapsLockインジケーターを確認して、再度パスワードを入力してください。
- パスワードを3回間違えると「Max password attempts exceeded, system will reboot」と表示され、【Enter】キーを押すと本パソコンが再起動します。手順2からやり直してください。

4 「Intel(R) ME New Password」と表示されたら、新しいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

パスワードは、次の条件をすべて満たすもので設定してください。

・8文字以上32文字以下
・1文字以上の数字を含む
・1文字以上の特殊文字（例：@、$、&）を含む
・1文字以上の小文字のアルファベットを含む
・1文字以上の大文字のアルファベットを含む

POINT

- MEセットアップでは、次のような特殊文字をキーボードの刻印どおりに入力することはできません。
  ・次の文字を入力する場合は、対応するキーを単独で押してください。

入力する文字	＝	[	]	'	＼
対応するキー	^	@	[	:	]

  ・次の文字を入力する場合は、【Shift】キーを押しながら対応するキーを押してください。

入力する文字	@	^	&	*	(	)	_	+	{	}	:	"	|
対応するキー	2	6	7	8	9	0	-	^	@	[	;	:	]

- 「:」「,」「"」は使用できません。また、「_」および「 」（スペース）は使用できますが特殊文字の条件を満たしません。

5 「Verify password」と表示されたら、手順4で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

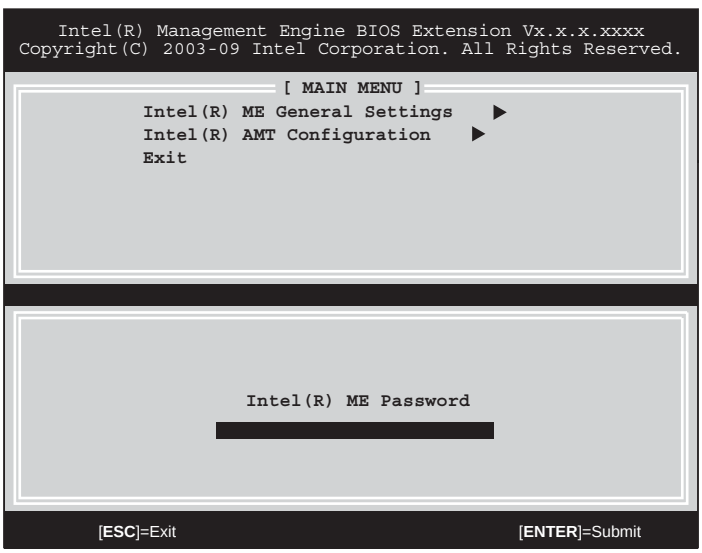
POINT

- 「Error - Intel(R) ME password change rejected」と表示された場合、新しいパスワードが手順4の条件を満たしていません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、文字数と使用している文字を確認して、手順4からやり直してください。
- 「Password Mismatch - Abort Change」と表示された場合、手順4と手順5で入力したパスワードが一致していません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、手順4からやり直してください。

6.5.2 MEセットアップを起動する

1 本パソコンの電源を入れる、または再起動します。

2 「FUJITSU」ロゴが表示された後、画面上に「Press <Ctrl-P> to enter Intel(R) ME Setup」と表示されたら、【Ctrl】キーを押しながら【P】キーを押します。
MEセットアップ画面が表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

3 パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

重要

- MEセットアップを初めて起動したときは、パスワードの変更画面が表示されます。ご購入時のパスワードを変更しないと、MEセットアップは利用できません。

4 画面上部のメニューからME BIOS Extensionの設定を行います。

6.5.3 MEセットアップを終了する

1 「MAIN MENU」を表示します。
「MAIN MENU」が表示されるまで【Esc】キーを押してください。

2 【↑】／【↓】キーで「Exit」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「Are you sure you want to exit? (Y/N)」と表示されたら、【Y】キーを押します。
MEセットアップが終了し、OSが起動します。

6.5.4 メニュー詳細

ここでは、MEセットアップの主なメニュー項目について説明します。
ここに記載されていない項目については、管理ソフトウェアのマニュアルに指示がある場合のみ設定してください。

■「Intel(R) ME General Settings」メニュー

設定項目	備考
Intel(R) ME State Control ■ENABLED	「ENABLED」のまま変更しないでください。
Change ME Password	MEセットアップのパスワードを変更します。 「6.5.1 初期パスワードを変更する」（→P.151）の手順4以降をご覧になり、パスワードを変更してください。
Network Setup	Intel® MEのネットワーク設定を変更します。お客様の環境に合わせて設定してください。
Activate Network Access注1	ネットワークアクセスを有効にし、Intel® MEのネットワークインターフェースを使用可能にします。
Unconfigure Network Access	
Full Unprovision	ネットワークアクセスを無効にし、すべてのネットワーク設定をご購入時の状態に戻します。
Partial Unprovision	・ネットワーク設定を残したまま、ネットワークアクセスを無効にします。 ・ネットワークアクセスが有効になっている場合のみ表示されます。
Power Control	
Intel(R) ME ON in Host Sleep States注2 ■Mobile: ON in S0 □Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5(AC only)	省電力状態（スリープ、スタンバイ、休止状態）や電源オフ状態におけるME機能の有効／無効を設定します。 ・Mobile: ON in S0……本パソコンが動作状態のときにのみME機能が有効になります。 ・Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5(AC only)……本パソコンが省電力状態および電源オフの状態でも、pingなどを受信した場合にはME機能が有効になります。
Idle Timeout注3	「Intel(R) ME ON in Host Sleep States」が「Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5(AC only)」に設定されている場合に、本パソコンが省電力状態または電源オフに移行してからIntel® ME機能がオフ状態になるまでの時間を、分単位で設定します。

注1 ：・「Activate Network Access」を実行しない場合「Network Setup」で設定した内容は有効になりません。
・「Activate Network Access」を実行した後は本メニューは表示されなくなります。
注2 ：「Activate Network Access」を実行すると、本設定は「Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5(AC only)」に自動的に変更されます。必要に応じて再設定を行ってください。
注3 ：本設定を変更すると一部の管理ソフトウェアで正常に動作しなくなる場合があります。管理ソフトウェアにて動作が確認できている場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。

■「Intel(R) AMT Configuration」メニュー

インテル® Core™ i7 プロセッサーまたはインテル® Core™ i5 プロセッサーが搭載されている場合に表示されます。

AMT機能を使用しない場合は、設定を変更しないでください。動作の保証ができなくなります。

本パソコンにて動作確認済の管理ソフトウェア（別売の「Systemwalker」など）を搭載している場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。

7

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

7.1 日常のお手入れ 158
7.2 定期的なお手入れ 159

7.1　日常のお手入れ

パソコン本体や周辺機器を長時間ご使用になると、汚れが付いたり、ほこりがたまったりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

7.1.1　パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重要

- ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

7.1.2　液晶ディスプレイ

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重要

- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコン本体が倒れるおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
  - ・アルカリ性成分を含んだもの
  - ・界面活性剤を含んだもの
  - ・アルコール成分を含んだもの
  - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - ・研磨剤を含むもの

7.2 定期的なお手入れ

長期間パソコンを使用していると、通風孔やパソコン内部にほこりがたまります。ほこりがたまった状態で使用し続けると、故障の原因となりますので、定期的にお手入れをしてください。
また、本パソコンにインストールされているソフトウェア「お手入れナビ」で、お手入れの時期をお知らせするメッセージを表示することができます。

7.2.1 注意事項

- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、必ず次の事項を行うようにしてください。
  ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
  ・周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。
- 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- 洗剤を使用しないでください。故障の原因となります。
- 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。
- パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。
  パソコン本体内部は静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。

7.2.2　空冷用通風路

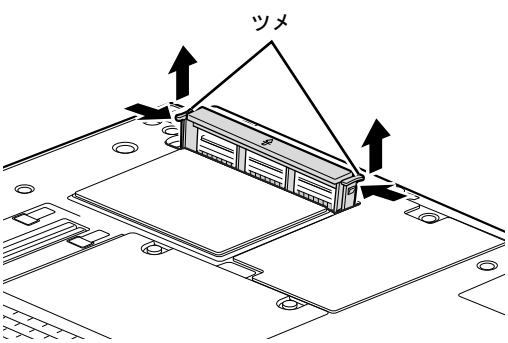
本パソコンは、性能を維持するために放熱用のファンを内蔵しています。放熱用ファンは、パソコン本体の外側と内側の間に空気の流れを作ってパソコン本体内部を冷却しているため、ご利用の環境によってはパソコン本体内部に周囲のほこりを取り込んでしまうことがあります。このほこりが徐々に蓄積していくと、パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。

重要

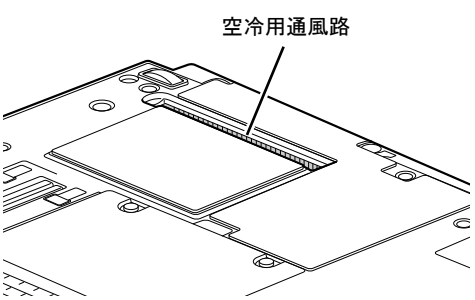
- 感電のおそれがありますので、清掃前には必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- ほこりを取り除くときは、プラスチック製のようじや歯間ブラシなどをお使いください。金属などの硬いものや、木製の折れやすいものなどを使うと故障の原因になります。

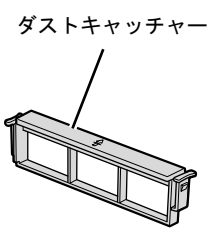
■ お手入れのしかた

1. パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。
2. 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
3. ツメ（2ヶ所）を矢印の方向に押しながらまっすぐに持ち上げ、ダストキャッチャーを取り外します。



4. ダストキャッチャーと空冷用通風路のほこりを取り除きます。

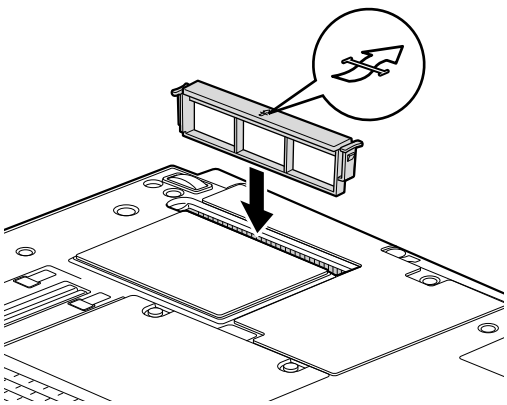




重要

- 金属部分を傷付けないように注意してください。

5 ダストキャッチャーの矢印を本体外側に向けて差し込み、「カチッ」と音がするまでしっかりはめ込みます。



重要

- ダストキャッチャーを取り外したまま使用しないでください。取り外したまま使用すると、故障の原因となります。

7.2.3　お手入れナビ

■ お手入れナビとは

空冷用通風路のお手入れ時期や、ほこりが詰まっていることを自動的にお知らせするソフトウェアです。
パソコン本体内部の温度や、本パソコンの総利用時間をチェックし、お手入れの時期をお知らせします。

■ 表示されるメッセージ

「お手入れナビ」の表示するメッセージには、次のものがあります。

メッセージ	原因と対処
パソコンの空冷用通風路のお手入れ時期が来ました。	定期的なお手入れの時期が来ると表示されます。 ご購入時は、定期的な通知は無効になっています。
	「7.2.2 空冷用通風路」（→P.160）をご覧になり、空冷用通風路のほこりを取ってください。
パソコン内部の空気の流れがさえぎられ、高温になっています。	ファンが高速で回転しているのに、パソコン本体内部の温度が低くならない場合に表示されます。
	「7.2.2 空冷用通風路」（→P.160）をご覧になり、空冷用通風路のほこりを取ってください。
パソコンの空冷用ファンが正しく動作していません。	パソコン本体内部の温度が高いのに、ファンが回転していない場合に表示されます。
	空冷用ファンの故障が考えられますので、シャットダウン後、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

■ 設定を変更する

本ソフトウェアの設定を変更することにより、空冷用通風路のお手入れの通知時期を変更したり、メッセージを表示させないようにすることができます。
通知時期を変更する方法については、「お手入れナビ」のヘルプをご覧ください。

POINT

- 「お手入れナビ」のヘルプは、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「お手入れナビ」→「ヘルプ」の順にクリックすると表示されます。

8

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

8.1 トラブル発生時の基本操作 164
8.2 よくあるトラブルと解決方法 169
8.3 それでも解決できないときは 194

8.1　トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

8.1.1　状況を確認する

トラブルが発生したときは、落ち着いて、直前に行った操作や現在のパソコンの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずパソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか?またゆるんだりしていませんか?
- 電源コンセント自体に問題はありませんか?
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか?
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか?
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上にものを載せていませんか?
  キーが押され、パソコンが正常に動作しないことがあります。

このほか、「8.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.172）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

8.1.2　以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

8.1.3　セーフモードで起動する

セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windowsが正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。
起動方法は次のとおりです。

1. 本パソコンの電源を入れます。
2. 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
   「詳細ブートオプション」または「Windows拡張オプションメニュー」が表示されます。
   【F8】キーは一度押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

   重要

   - インテル® AMT対応機種の場合、FUJITSUロゴが表示された後に「Press <Ctrl-P> to enter Intel(R) ME Setup」と表示されることがあります。表示が消えた後に【F8】キーを押してください。

3. 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
4. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
   パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
   Windowsがセーフモードで起動し、「Windowsヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。

   POINT

   - セーフモードでも起動できない場合
     Windowsを「前回正常起動時の構成」に戻してください。
     手順3で「前回正常起動時の構成（詳細）」または「前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）」を選択してください。

8.1.4　トラブルシューティングで調べる

「8.2 よくあるトラブルと解決方法」（→P.169）は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

8.1.5　Windowsのヘルプで調べる

Windowsの機能については、Windowsのヘルプをご覧ください。

8.1.6　インターネットで調べる

弊社の富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）では、本パソコンに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。また、注意事項や補足情報を公開しています。解決方法がないかご覧ください。

8.1.7　診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。
まずBIOSの起動メニューにある「診断プログラム」で診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。
診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお知らせください。
診断時間は通常5～10分程度ですが、診断する内容やパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

重要

- BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
  診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「6.4.7 ご購入時の設定に戻す」（→P.150）をご覧ください。
- 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
  USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
起動メニューまたはBoot Menuが表示されます。

POINT

- BIOSセットアップで「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を使用する設定にした場合、パスワードを入力後 （指紋を登録した場合は指紋認証後）、認証画面が消えた後、すぐに【Enter】キーを押してください。
- 起動メニューまたはBoot Menuが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。「FUJITSU」ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューまたはBoot Menuが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。

3 【↓】キーを押して、「診断プログラム」または「Diagnostic Program」を選択し、【Enter】キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか?」と表示されます。

4 【Y】キーを押します。
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にパソコンが再起動する場合があります。

5 次の操作を行います。

● トラブルが検出されなかった場合

続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。【Enter】キーを押してください。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順6に進んでください。

● トラブルが検出された場合

手順6以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、キーボードの【Y】キーを押してパソコンの電源をお切りください。

6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックして閉じます。

7 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

POINT

- 「[ハードウェア名]に［媒体］をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」など、『リカバリガイド』に従って作成したディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。
  診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

8 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

9 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

10 「終了」をクリックします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」をクリックします。

「システム回復オプション」ウィンドウが表示されます。

POINT

- 「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示された場合は「終了」をクリックし、終了を確認する画面で「OK」をクリックします。
  パソコンが再起動します。

12 「システム回復オプション」ウィンドウで「キャンセル」をクリックします。

パソコンを再起動するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

パソコンが再起動して、診断プログラムが終了します。

8.1.8　サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「8.3 それでも解決できないときは」（→P.194）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

8.2 よくあるトラブルと解決方法

8.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

●「電源が入らない」（→P.172）
●「ビープ音が鳴った」（→P.172）
●「メッセージが表示された」（→P.172）
●「画面に何も表示されない」（→P.173）
●「Windowsが起動しない」（→P.174）
●「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」（→P.174）

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

●「Windowsにログオンできない」（→P.175）
●「ソフトウェアが動かなくなってしまった」（→P.175）
●「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」（→P.175）
●「「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある」（→P.176）

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

●「BIOSのパスワードを忘れてしまった」（→P.177）

□ セキュリティボタン（セキュリティボタン搭載機種）

●「パスワードを忘れてしまった」（→P.177）

□ LAN

●「ネットワークに接続できない」（→P.177）
●「通信速度が遅い」（→P.178）

□ モデム（モデム搭載機種）

●「通信ができない」（→P.178）

□ ハードディスク

●「ハードディスクからカリカリ音がする」（→P.178）

□ デバイス

●「機器が使用できない」（→P.179）

□ CD/DVD

●「ディスクからデータの読み出しができない」（→P.179）

●「ディスクが取り出せない」（→P.180）
●「WinDVDが起動しない」（→P.180）
●「DVDが再生されない、DVDの再生が円滑に行われない」（→P.180）

□PCカード（PCカードスロット搭載機種）

●「PCカードが使えない」（→P.181）

□Expressカード（ExpressCardスロット搭載機種）

●「ExpressCardが使えない」（→P.181）

□スマートカード（スマートカードスロット搭載機種。スマートカードリーダー／ライター搭載機種）

●「スマートカードが使えない」（→P.181）

□バッテリ

●「状態表示LEDのバッテリ残量ランプが赤色に短い間隔で点滅している」（→P.182）
●「バッテリが充電されない」（→P.182）

□ディスプレイ

●「画面に何も表示されない」（→P.182）
●「表示が乱れる」（→P.183）

□サウンド

●「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」（→P.183）
●「マイクからうまく録音ができない」（→P.184）

□ポインティングデバイス

●「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」（→P.184）
●「タッチパネルのポインター位置がずれる」（→P.184）

□USB

●「USBデバイスが使えない」（→P.185）
●「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」（→P.185）
●「電源オフUSB充電機能が使えない」（→P.186）

□IEEE1394

●「IEEE1394デバイスが使えない」（→P.186）
●「IEEE1394デバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」（→P.187）

□プリンター

●「プリンターを使用できない」（→P.187）

□パソコン本体のお手入れ

- 「「パソコン内部の空気の流れがさえぎられ、高温になっています。」「パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された」（→P.187）
- 「「パソコンの空冷用ファンが正しく動作していません。」というメッセージが表示された」（→P.187）

□その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」（→P.188）

8.2.2　起動・終了時のトラブル

電源が入らない

- **ACアダプタは接続されていますか？**
  次のような場合には、ACアダプタを接続してください。
  ・ご購入後最初にお使いになる場合
  ・バッテリ運用時にバッテリが充電されていない場合
  「2.9.3 バッテリの残量を確認する」（→P.60）
  ・長期間未使用状態の場合
- **ACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。**
  ACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外して2～3分放置後、再び取り付けると問題が解決することがあります。
- **電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？**

ビープ音が鳴った

- **電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。**
  ビープ音によるエラー通知は、「ピーッ」「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。
  ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。
  ・メモリのテストエラー
  　メモリが正しく取り付けられていないか、本パソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。
  　メモリが正しく取り付けられているか確認してください。
  メモリテストエラーの場合、画面には何も表示されません。

  上記のことを確認してもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元に確認してください。

メッセージが表示された

- **電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」（→P.188）で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。**
  一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」（→P.192）をご覧ください。

● **周辺機器の取り付けを確認してください。**
拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかどうかも確認してください。このとき、拡張カードやユーティリティソフトのマニュアルがある場合は、それらもあわせてご覧ください。

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

画面に何も表示されない

● **状態表示LED搭載機種で、電源ランプが点灯していますか？**
・点灯している場合
【Fn】＋【F6】キーまたは【Fn】＋【F7】キーを押して明るさを調節してください。
・点滅または消灯している場合
電源ボタンを押して（電源スイッチの場合はスライドさせて）動作状態にしてください。それでも、画面が表示されない場合は「電源が入らない」（→P.172）をご覧ください。

● **セキュリティボタン搭載機種で、セキュリティランプが点灯していますか？**
・点灯している場合
パスワードが設定されています。パスワードを入力してください。
詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.24）の「セキュリティボタン」をご覧ください。

● **外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。**
・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか?
必ずパソコン本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
パソコン本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
・外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。
「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.40）をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。
・解像度やリフレッシュレートは、外部ディスプレイにあった設定になっていますか?
そのまま15秒くらい待っても液晶ディスプレイが表示されない場合は、本パソコンを強制終了してください。その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。
「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.40）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、外部ディスプレイの表示に切り替えてください。

Windowsが起動しない

- **Windows 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。**
  Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- **Windows起動時にセーフモードになり「キーボードの選択」画面が表示された場合は、そのままセーフモードで起動してください。**
  Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本パソコンを再起動してください。
- **次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？**
  ・指紋センサー
  ・FeliCaポート
  ・スマートカードスロット
  ・スマートカードリーダー／ライター
  ・セキュリティチップ
  認証デバイスを使用してWindowsにログオンしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。
  認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
  Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にお問い合わせください。

Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- **次の手順でWindowsを終了させてください。**
  1.【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押し、「シャットダウン」をクリックします。
  この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して（電源スイッチの場合は4秒以上スライドさせて）電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れてください。

重要

- 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。

8.2.3　Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。

Windowsにログオンできない

- セキュリティチップを使用し、「SMARTACCESS/Basic」による機器監査機能を使用している場合、ハードウェアの構成を変更すると、Windowsにログオンできなくなります。この場合、ハードウェアの構成を登録したときの設定に戻すか、機器構成を登録し直す必要があります。
  機器監査機能については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- セキュリティチップを使用してWindowsにログオンしている場合、BIOSセットアップの設定を次のようにすると、Windowsにログオンできなくなります。この場合、BIOSセットアップの設定を「使用する」に設定し直してください。
  ・「セキュリティ」メニュー→「TPM（セキュリティチップ）設定」または「セキュリティチップ設定」→「セキュリティチップ」を「使用しない」に設定する。
- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにログオンできないときは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「Windowsタスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

POINT

- ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ソフトウェアを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。

頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
  ・ウイルス対策ソフトウェアでハードディスクをスキャンする
  定期的にハードディスクをスキャンすることをお勧めします。
  ・Cドライブの空き容量が充分か確認する
  Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。
  Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
  ・ごみ箱を空にする

・不要なファイルやソフトウェアを削除する
・ディスクのクリーンアップを行う

・ハードディスクのエラーチェックを行う

それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。

「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある

- **「IndicatorUtility」で使用される「FUJ02B1デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。**

  「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02B1 DeviceDriver」が表示されているかどうかを確認してください。
  表示されていない場合は、「FUJ02B1デバイスドライバー」をインストールしてください。
  インストール方法は、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」をセットし、「ドライバーズディスク検索ツール」（→P.128）の「ソフトウェア」から「IndicatorUtility」を選択します。
  ・Windows 7の場合
  表示されたフォルダー内の「Win7-32」フォルダー→「FUJ02B1.txt」をご覧ください。
  ・Windows Vistaの場合
  表示されたフォルダー内の「WinVista-32」フォルダー→「FUJ02B1.txt」をご覧ください。

- **「富士通拡張機能ユーティリティ」で使用される「FUJ02E3デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 DeviceDriver」が表示されているかどうかを確認してください。**

  表示されていない場合は、「FUJ02E3デバイスドライバー」をインストールしてください。
  インストール方法は次のとおりです。
  「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」をセットし、「ドライバーズディスク検索ツール」（→P.128）の「ソフトウェア」から「富士通拡張機能ユーティリティ」を選択します。
  ・Windows 7の場合
  表示されたフォルダー内の「Win7-32」フォルダーまたは「Win7-64」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
  ・Windows Vistaの場合
  表示されたフォルダー内の「WinVista-32」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。

8.2.4　ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS

Q BIOSのパスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。
  ハードディスクパスワードを忘れると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。
  いずれの場合も修理が必要となります。
  ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
  詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」（→P.146）をご覧ください。

■ セキュリティボタン（セキュリティボタン搭載機種）

Q パスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れると、管理者用パスワードによるセキュリティの解除ができなくなり、管理者用パスワードやユーザー用パスワードの変更、削除ができなくなります。
  この場合は修理が必要となります。
  ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
  パスワードの設定方法については、「2章　取り扱い」（→P.24）の「セキュリティボタン」をご覧ください。

■ LAN

Q ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
  ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか?
  ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルをお使いください。
- ワイヤレススイッチ搭載機種で、ワイヤレススイッチはONになっていますか？
- 省電力モードになっていませんか？
  省電力モードになると、消費電力を抑えるために、デバイスの動作を制限する場合があります。詳しくは、「2.8.7 省電力モード」（→P.57）をご覧ください。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

通信速度が遅い

- ネットワーク機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、本パソコンをご使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。
  ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
  例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
  ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本パソコンとネットワーク機器が接続されていることを確認後、パソコン本体を再起動してください。

■ モデム（モデム搭載機種）

通信ができない

- モジュラーケーブルは正しく接続されていますか？
- モジュラーケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
- 省電力モードになっていませんか？
  省電力モードになると、消費電力を抑えるために、デバイスの動作を制限する場合があります。詳しくは、「2.8.7 省電力モード」（→P.57）をご覧ください。

モデムについては、『内蔵モデムをお使いになる方へ』をご覧ください。

■ ハードディスク

ハードディスクからカリカリ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
  ・Windowsを終了した直後
  ・省電力状態（スリープ、休止状態）にした直後
  ・パソコンの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
  ・中断した状態から再度パソコンを操作した場合
  ・パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
  これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

■ デバイス

機器が使用できない

- **「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？**
  次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
  システム管理者に確認してください。
  ・USB
  ・CD/DVD
  ・フロッピーディスク
  ・シリアル
  ・パラレル
  ・PCカード
  ・ExpressCard
  ・SDメモリーカード
  ・メモリースティック
  ・IEEE1394
- **省電力モードになっていませんか？**
  省電力モードになると、消費電力を抑えるために、デバイスの動作を制限する場合があります。詳しくは、「2.8.7 省電力モード」（→P.57）をご覧ください。
- **Tシリーズをお使いの場合、タブレットモードになっていませんか？**
  タブレットモードでは、CD/DVDドライブは使用できない設定になっています。詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.24）の「タブレットモード」をご覧ください。

■ CD/DVD

ディスクからデータの読み出しができない

- **ディスクが正しくセットされていますか？**
  ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。詳しくは、「2.10.3 ディスクをセットする」（→P.67）をご覧ください。
- **ディスクが汚れていたり、水滴が付いたりしていませんか？**
  汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- **ディスクが傷付いていたり、極端に反っていたりしませんか？**
  ディスクを交換してください。
- **規格外のディスクを使用していませんか？**
  規格にあったディスクをお使いください。詳しくは、「2.10.2 使用できるディスク」（→P.65）をご覧ください。

ディスクが取り出せない

- **パソコン本体は動作状態になっていますか？**
  本パソコンのCD/DVDドライブは電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
- **省電力モードになっていませんか？**
  省電力モードになると、消費電力を抑えるために、デバイスの動作を制限する場合があります。詳しくは、「2.8.7 省電力モード」（→P.57）をご覧ください。
- **Tシリーズをお使いの場合、タブレットモードになっていませんか？**
  タブレットモードでは、CD/DVDドライブは使用できない設定になっています。詳しくは、「2章　取り扱い」（→P.24）の「タブレットモード」をご覧ください。

なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「2.10.4 ディスクを取り出す」（→P.68）をご覧ください。

WinDVDが起動しない

- **市販されているウイルス対策ソフトウェアを起動していませんか？**
  市販されているウイルス対策ソフトウェアと「WinDVD」を同時に起動することはできません。ウイルス対策ソフトウェアを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「ノートン アンチウイルス 2011」は問題ありません。
- **自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェア（市販）をインストールしていませんか？**
  自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェアをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
  ウイルス対策ソフトウェアをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「ノートン アンチウイルス 2011」は問題ありません。

DVDが再生されない、DVDの再生が円滑に行われない

- **「WinDVD」を使用して、DVD-Videoを再生していますか？**
  「WinDVD」以外のソフトウェアで再生した場合、円滑に再生できないことがあります。
- **HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に対応したデジタルディスプレイを使用していますか？**
  デジタルディスプレイをお使いの場合、接続しているディスプレイがHDCPに対応していないと、著作権保護のされた映像を再生できません。HDCPに対応したデジタルディスプレイをお使いください。またはアナログディスプレイをお使いください。
- **「WinDVD」での再生時は、著作権保護のされた映像はパソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示することはできません。**
  DVD-Videoの再生方法や「WinDVD」の注意事項については、「2.10.6 DVD-Videoを再生する」（→P.70）をご覧ください。

■ PCカード（PCカードスロット搭載機種）

PCカードが使えない

- PCカードスロットに正しくセットされていますか？
- PCカードのドライバーはインストールされていますか？
  Windowsにあらかじめ登録されていないPCカードの場合は、PCカードに添付されているドライバー（各OSに対応したもの）をインストールする必要があります。PCカードに添付されているマニュアルをご覧ください。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.179）
- 省電力モードになっていませんか？
  省電力モードになると、消費電力を抑えるために、デバイスの動作を制限する場合があります。詳しくは、「2.8.7 省電力モード」（→P.57）をご覧ください。

■ ExpressCard（ExpressCardスロット搭載機種）

ExpressCardが使えない

- ExpressCardスロットに正しくセットされていますか？
- ExpressCardのドライバーはインストールされていますか？
  Windowsにあらかじめ登録されていないExpressCardの場合は、ExpressCardに添付されているドライバー（各OSに対応したもの）をインストールする必要があります。
  ExpressCardに添付されているマニュアルをご覧ください。
- 「Portshutter」で「USB」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.179）

■ スマートカード（スマートカードスロット搭載機種、スマートカードリーダー／ライター添付機種）

スマートカードが使えない

- スマートカードが正しくセットされていますか？
- 「Portshutter」で、次のポート設定は、有効になっていますか？（→P.179）
  ・スマートカードスロットの場合：PCカード
  ・スマートカードリーダー／ライターの場合：USB

■ バッテリ

状態表示LEDのバッテリ残量ランプが赤色に短い間隔で点滅している

- **バッテリは正しく取り付けられていますか？**
  バッテリが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。バッテリパックの交換については、「2.9.4 バッテリを交換する」（→P.61）をご覧ください。

バッテリが充電されない

- **ACアダプタは接続されていますか？**
  ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- **バッテリが熱くなっていませんか？**
  状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅（T900では青色点滅、T730では緑点滅）します。
  周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
- **パソコン本体が冷えていませんか？**
  状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅（T900では青色点滅、T730では緑点滅）します。
  バッテリの温度が5℃以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
- **バッテリの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）ではありませんか？**
  バッテリの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）の場合は、バッテリを保護するため、充電が始まりません。
  バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

■ ディスプレイ

画面に何も表示されない

- **「8.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.172）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。**
- **省電力状態になっていませんか？**
  本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間マウスやキーボードからの入力がないと省電力状態に移行します。
  詳しくは「2.8 省電力機能」（→P.52）をご覧ください。

- セキュリティボタン搭載機種で、ワンタッチ「プレゼン」ボタンを押しても、画面が切り替わらず、何も表示されなくなった場合は、もう一度ワンタッチ「プレゼン」ボタンを押してください。

Q 表示が乱れる

- 解像度、色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
  「2.4.4 解像度を変更する」（→P.38）をご覧になり、正しく設定してください。
  外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
  1. ソフトウェアを最小化します。
  2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
  - Windows起動時および画面の切り替え時
  - DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？
  強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください。
- ドライバーが正しくインストールされていますか？
  「5.2 インストール」（→P.128）をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。
  Windowsが起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください（→P.165）。

■ サウンド

Q スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
  ・スピーカーの出力はONになっていますか?
  【Fn】＋【F3】キーを押して、スピーカーの出力を確認してください。
  ・ヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- ミュートや音量などを確認してください。
  詳しくは、「2.7 サウンド」（→P.49）をご覧ください。
- 省電力モードになっていませんか？
  省電力モードになると、消費電力を抑えるために、ミュートに設定されている場合があります。詳しくは、「2.8.7 省電力モード」（→P.57）をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- 音声入出力端子の機能が正しく設定されていますか？
  「2.7 サウンド」（→P.49）をご覧になり、音声入出力端子の機能を正しく切り替えてください。

- **サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？**
  必要に応じて、「5.2 インストール」（→P.128）をご覧になり、再インストールしてください。

Q マイクからうまく録音ができない

- **音量は調節されていますか？**
  音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「2.7 サウンド」（→P.49）をご覧ください。
- **音声入出力端子の機能が正しく設定されていますか？**
  「2.7 サウンド」（→P.49）をご覧になり、音声入出力端子の機能を正しく切り替えてください。

■ ポインティングデバイス

Q マウスポインターが動かない、正しく動作しない

- **マウスは正しく接続されていますか？**
- **フラットポイントが無効に設定されていませんか？**
  ご購入時はマウスを接続するとフラットポイントが無効になるように設定されています。
  フラットポイントの有効と無効を切り替えるには、【Fn】＋【F4】キーを押してください。
  【Fn】＋【F4】キーを押すたびに切り替わります。
  また、マウスとフラットポイントを同時に使用したい場合は、「2.1.5 マウスとフラットポイントを同時に使用する」（→P.30）をご覧になり、設定を変更してください。
- **オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？（USBマウス（光学式）およびUSB小型マウス（レーザー式）の場合）**
  オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。
- **次のようなものの上で操作していませんか？（USBマウス（光学式）およびUSB小型マウス（レーザー式）の場合）**
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

Q タッチパネルのポインター位置がずれる

対 象　タッチパネル搭載機種

- **タッチパネルを調整してください。調整方法については「2章　取り扱い」（→P.24）の「キャリブレーション」をご覧ください。**

■ USB

USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
  USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
  USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。パソコンを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.179）

USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
  必要なドライバーをインストールしてください。
- 外部から電源が供給されないUSBデバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
  次の手順でUSBコネクタの電力使用状況を確認してください。
  1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャー」
  2. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」をダブルクリックし、「USB Root Hub」または「USBルートハブ」をダブルクリックします。
     「USB Root Hubのプロパティ」ウィンドウまたは「USBルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
  3. 「電力」タブをクリックし、USBバスの電力使用状況がデバイスマネージャーで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.179）

電源オフUSB充電機能が使えない

対 象　電源オフUSB充電機能対応USBコネクタ搭載機種

- **「電源オフUSB充電ユーティリティ」で「「電源オフUSB充電」を使用しない」を選択していませんか？**
  「電源オフUSB充電ユーティリティ」で電源オフUSB充電機能の設定をします。設定方法については、「2章　取り扱い」（→P.24）の「電源オフUSB充電機能」をご覧ください。
- **ACアダプタを接続していますか？**
  「電源オフUSB充電ユーティリティ」で「「電源オフUSB充電」を使用する（ACアダプター運用時のみ）」を選択していて、ACアダプタを接続していない場合は電源オフUSB充電機能が使えません。
  ACアダプタを接続するか、「電源オフUSB充電ユーティリティ」で「「電源オフUSB充電」を使用する（ACアダプターもしくはバッテリー運用時）」を選択してください。
- **バッテリ残量が12%以下になっていませんか？**
  バッテリ残量ランプでバッテリの残量を確認し、バッテリ残量が12%以下の場合は、ACアダプタを接続してください。
  バッテリ残量の確認方法については、「2.9.3 バッテリの残量を確認する」（→P.60）をご覧くださ
- **電源ボタンを4秒以上押し続けて、コンピューターの電源を切りましたか？**
  電源ボタンを4秒以上押して電源を切った場合、電源オフUSB充電は動作しません。いったんコンピューターを起動してください。
- **周辺機器によっては、電源オフUSB充電を使用できない場合があります。USBデバイスのご購入元にご連絡ください。**

■ IEEE1394（IEEE1394（DV）端子搭載機種）

IEEE1394デバイスが使えない

- **長すぎるケーブルを使用していませんか？**
  長さ4.7メートル以内のケーブルをお使いください。
- **「デバイスマネージャー」にIEEE1394デバイスが表示されていますか？**
  IEEE1394デバイス接続後、IEEE1394デバイスがデバイスマネージャーに一度表示され、すぐに表示されなくなることがあります。
  この場合、IEEE1394デバイス側の電源の管理機能がコンピューターに誤って認識されている可能性があります。IEEE1394デバイス側の電源設定を変更してください。
- **「デバイスマネージャー」のIEEE1394デバイスに「！」が表示されていませんか？**
  デバイスドライバーに問題があるか、インストールされていない可能性があります。必要なドライバーをインストールしてください。

- IEEE1394デバイスに不具合はありませんか？
  IEEE1394デバイスに不具合がある場合、Windowsが動かなくなります。
  パソコンを再起動して、IEEE1394デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、IEEE1394デバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.179）

IEEE1394デバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
  必要なドライバーをインストールしてください。

■ プリンター

プリンターを使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.179）

プリンターの使用方法については、プリンターのマニュアルをご覧ください。

■ パソコン本体のお手入れ（お手入れナビ搭載機種）

「パソコン内部の空気の流れがさえぎられ、高温になっています。」「パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された

- ファンが高速に回転しているのに、パソコン本体内部の温度が低くならない場合に表示されます。
  「今すぐシャットダウン」をクリックして電源を切った後、パソコンをお手入れしてください。お手入れ方法については、「7章　お手入れ」（→P.157）をご覧ください。

「パソコンの空冷用ファンが正しく動作していません。」というメッセージが表示された

- パソコン本体内部の温度が高くなっているにもかかわらず、ファンの回転数が低下している場合に表示されます。
  「今すぐシャットダウン」をクリックして電源を切った後、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

■ その他

「ジー」「キーン」という音がする

- **静かな場所では、「ジー」「キーン」というパソコン本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。**
  故障ではありませんので、そのままお使いください。
  BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「各種設定」に「低電力モード」が表示されている機種の場合、「低電力モード」を「使用しない」に変更すると、音の聞こえ方が変わる場合があります。

8.2.5　エラーメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
記号	
＜F1＞キーを押すと継続、＜F2＞キーを押すとBIOSセットアップを起動します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。
I	
Invalid system disk Replace the disk, and then press any key	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
N	
Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NTLDR is missing Press any key to restart	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NVRAMデータが正しくありません。	NVRAMデータのテストでエラーが発見されたことを示しています。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
O	
Operating system not found	OSが見つからなかったことを示しています。 BIOSセットアップの「起動」メニューの設定が正しいかどうか、指定したドライブにOSが正しくインストールされているかどうかを確認してください。
P	
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」→「ネットワークサーバーからの起動」を「使用しない」に設定してください。

メッセージ	解説
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」→「ネットワークサーバーからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」→「ネットワークサーバーからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」→「ネットワークサーバーからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」→「ネットワークサーバーからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」→「ネットワークサーバーからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。
R	
Remove disks or other media. Press any key to restart	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
か	
拡張メモリエラー。アドレス行：nn	メモリのテスト中に、アドレスnnでエラーが発見されたことを示しています。 メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品であるかどうかを確認してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
キーボードエラーです。	キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
キーボード接続エラーです。	キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。 テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかどうかを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
このスマートカードは使用できません。	読み取りに必要な情報がないときに表示されます。この場合、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧になり、正常なカードをお使いになるか、ログオン情報を登録してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
このスマートカードはロックされています。	スマートカードがすでにロックされているときや、読み取りに必要な情報がロックされているとき、アクセス権がないときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。
このスマートカードはロックされました。	スマートカードがロックされたときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

メッセージ	解説
さ	
サーマルセンサーエラー。システムの電源が切れます。	温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムCMOSのチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。	CMOS RAMのテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。 【F2】キーを押してBIOSセットアップを起動し、標準設定値を読み込んだ後、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAMに設定内容が保存されていないことが考えられます。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムタイマーのエラーです。	システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムは使用できません。	スマートカードに登録されているBIOSロック用パスワードが、BIOSセットアップで設定した管理者用パスワードおよびユーザー用パスワードのどちらとも一致しない場合に表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。
スマートカードが挿入されていません。	スマートカードがセットされていないときに表示されます。
スマートカードに接続できませんでした。	スマートカードスロットやスマートカードに異常がある場合に表示されます。この場合、スマートカードが正常にセットされているか、カードに損傷がないか確認してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
セキュリティチップが見つかりません。	セキュリティチップが見つからなかったことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
セキュリティボタン異常	電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。	前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。 起動途中に電源を切ってしまった、またはBIOSセットアップで誤った値を設定して起動できなかった、または3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOSセットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
前回の起動中にサーマルセンサーエラーが発生しました。	前回の起動時にサーマルセンサーエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
前回の起動中にファンエラーが発生しました。	前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
た	
ディスクのエラーです。: ハードディスクn	ハードディスクドライブの設定にエラーがあることを示しています。 BIOSセットアップを起動し、「システム」メニューの「ドライブn」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
な	
入力されたPINは間違っています。あとnn回PINを間違えるとスマートカードがロックされます。	PINの入力を間違えたときに、PINを入力できる残り回数を表示します。
入力されたPINは間違っています。再度PINを間違えるとスマートカードがロックされます。	PINを入力できる残り回数が1回のときに表示されます。

メッセージ	解説
は	
日付と時刻の設定を確認してください。	日付と時刻の設定値が正しくありません。 設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
ファンエラー。システムの電源が切れます。	冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ら	
リアルタイムクロックのエラーです。	リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。
BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「イベントログ設定」→「イベントログの表示」から確認できます。
BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
A	
ACアダプタ無しで起動されました	ACアダプタ無しで起動されました。
C	
CPUファンエラーが発生した	CPUファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
P	
POSTエラー：BIOSセットアップ不正による起動エラー	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：CMOSチェックサム不正	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した（ヘッダー情報）	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：PCIデバイスで割り込み番号競合	PCIデバイスの割り込み番号が重複しています。 割り込み番号の設定を確認してください。
POSTエラー：nnnnnnnn nnnnnnnn	nには数字が表示されます。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：キーボードエラー	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーが押されたままになっていないか、またはキーボードが正しく接続されているか、確認してください。
POSTエラー：日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。 「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
あ	
イベントログがクリアされた	イベントログがクリアされました。
か	
強制終了が実行されました	強制終了が実行されました。
さ	
サーマルセンサーエラーが発生した	サーマルセンサーエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムが起動された	イベントログ設定の「システム起動」を「保存する」に設定した場合に、起動ごとに記録されます。
システム設定が変更された	システム設定が変更されました。
システムファンエラーが発生した	システムファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ	解説
診断プログラムが異常を検出（詳細コード＝nnnnnnnn）	診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。
は	
パスワード入力不正	誤ったパスワードが3回入力されました。
ファンエラーが発生した	ファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ま	
メモリ容量が前回起動時から変更された	メモリ容量が前回起動時から変更されました。

8.3 それでも解決できないときは

8.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。
電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

- ノートン アンチウイルス 2011
  株式会社シマンテック
  シマンテック・テクニカル・サポートセンター
  ・本センターは技術的なお問い合わせ用の窓口です。
  ・ご利用期間は更新期間（90日間）となります。
  （更新サービス延長のお申し込みをいただくと、引き続き本サポートをご利用いただけます。）
  詳しくは、製品別サポートページ（http://symss.jp）を参照のうえ、お問い合わせください。
  更新サービス延長のお申し込みは、サポートセンターとは異なるお問い合わせ先になります。
  シマンテック・ストア
  URL：http://www.symantecstore.jp/users.asp
- i-フィルター
  デジタルアーツ株式会社
  デジタルアーツ株式会社 サポートセンター
  電話：月～金／03-3580-5678、土・日・祝祭日／0570-00-1334
  受付時間：10:00～18:00（年末年始、指定休業日を除く）
  URL：http://www.daj.jp/faq/
  お問い合わせフォーム：http://www.daj.jp/ask/
  90日間の試用期間中、サポートいたします。
- Adobe Reader
  ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

- Windows Live メール

  マイクロソフト株式会社「Windows Live Solution Center へようこそ」の Windows Live メールのヘルプページ（http://www.windowslivehelp.com/ページで「Mail」をクリック）からお問い合わせください。

  ・Mail ポータルの 解決策、フォーラム、および語句検索から疑問点の解決方法を検索します。

  ・疑問点の解決方法を検索し、解決しないときは各ページの「質問する」リンクからお問い合わせください。

- Quality Gaaiho PDF Suite

  クオリティソフト株式会社

  e-mail：sales@quality.co.jp

  電話番号：0120-359-217

  サポート時間：9:00-17:00

- CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU

  富士通株式会社

  BI OnDemand　サポートデスク

  ERP 事業本部　BI ソリューション部

  ユーザーサポートサイト

  URL：http://www.biondemand.jp/support/customer/pcbundle.html

9

第9章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

9.1 本体仕様 197
9.2 CPU 201
9.3 ディスプレイ 202
9.4 CD/DVD ドライブ 205

9.1 本体仕様

9.1.1 T900/B

製品名称			LIFEBOOK T900/B
CPU[注1]	名称		インテル® Core™ i5-560Mプロセッサー
	動作周波数		2.66GHz（最大3.20GHz）
	コア数／スレッド数		2／4
	キャッシュメモリ		2次：256KB×2 3次：3MB
チップセット			モバイル インテル® QM57 Expressチップセット
システムバス			2.5GT/s DMI[注2]
メインメモリ			標準1GB（1GB×1）[注3]（PC3-8500 DDR3 SDRAM DIMM）ECCなし最大4GB[注4]
メモリスロット			×2（空きメモリスロット×1）[注5]
表示機能	グラフィックアクセラレータ		Intel® HD Graphics（CPUに内蔵）
	ビデオメモリ	Windows 7	最大249MB（メインメモリと共用）[注6]
		Windows Vista	最大217MB（メインメモリと共用）[注7]
	液晶ディスプレイ[注8]		LEDバックライト付13.3型ワイドTFTカラー 1280×800ドット
	解像度／発色数[注9]		液晶ディスプレイ表示：1280×800ドット／1677万色 外部ディスプレイ表示：最大1920×1200ドット／最大1677万色
	DirectX		10
	OpenGL		2.1
ハードディスクドライブ[注10]			160GB（シリアルATA、5400rpm）[注11]
CD/DVDドライブ[注12]			スーパーマルチドライブ[注13]
オーディオ機能	オーディオコントローラー		チップセット内蔵＋High Definition Audioコーデック
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数、最大192kHz、24ビット（再生時）[注14]、 サンプリング周波数、最大96kHz、16ビット（録音時）[注14]、 同時録音再生機能
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート
	スピーカー		ステレオスピーカー内蔵
	マイク		デュアル（デジタル）マイク内蔵
キーボード			日本語キーボード （キーピッチ約19mm、キーストローク約3mm、86キー、JIS配列準拠）
ポインティングデバイス[注15]			タッチパネル（電磁誘導方式）、フラットポイント、スクロールセンサー
タブレットボタン			×5（プログラマブル×2）
通信機能	モデム		データ：最大56kbps（V.92準拠）[注16]／FAX：最大14.4kbps
	LAN		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠、Wakeup on LAN対応[注17]
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、 （5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi® 準拠）[注18]
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注19]

製品名称			LIFEBOOK T900/B
セキュリティ機能	セキュリティボタン[注20]		数字ボタン×4＋Enterボタン
	指紋センサー		スライド方式
	スマートカード		専用スロット[注21]
	セキュリティチップ		TCG Ver 1.2準拠[注22]
	盗難防止用ロック取り付け穴		あり
インターフェース	本体	ExpressCard	×1スロット（ExpressCard/34モジュール、ExpressCard/54モジュール対応）
		SDメモリーカード／メモリースティック[注23]	×1スロット
		スマートカード	×1スロット
		外部ディスプレイ（アナログ）	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
		USB[注24]	USB2.0準拠×3（左側面×1、背面×2）
		IEEE1394（DV）[注25]	4ピン×1（S400）
		モデム[注26]	RJ-11×1
		LAN	RJ-45×1
		オーディオ	マイク・ラインイン兼用[注27]：φ3.5mmステレオ・ミニジャック （入力：100mV以下、入力インピーダンス（AC）1kΩ以上（DC）2kΩ以上）、 ヘッドホン・ラインアウト兼用[注28]：φ3.5mmステレオ・ミニジャック （出力：1mW以上、負荷インピーダンス32Ω）
		ポートリプリケータ	×1（専用コネクタ）
		状態表示	LED
		モバイルマルチベイ	×1（専用コネクタ）
	ポートリプリケータ[注29]	外部ディスプレイ（アナログ）	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
		外部ディスプレイ（デジタル）	DVI-D24ピン×1
		外部ディスプレイ（HDMI）[注30]	HDMI Ver 1.2×1
		USB[注24]	USB2.0準拠×4
		LAN	RJ-45×1
		オーディオ	ヘッドホン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック
電源供給方式	ACアダプタ[注31]		入力AC100V～240V、出力DC19V（4.22A）
	バッテリ		内蔵バッテリパック（標準）：リチウムイオン 10.8V／5800mAh 増設用内蔵バッテリユニット（別売）：リチウムイオン 10.8V／3800mAh
バッテリ駆動時間（JEITA測定法1.0）[注32]		Windows 7	約5.6時間（標準）／約9.6時間（標準＋増設）
		Windows Vista	約5.1時間（標準）／約9.2時間（標準＋増設）
バッテリ充電時間[注33]			約4.5時間（標準）／約7.1時間（標準＋増設）
消費電力[注34]（最大時）		Windows 7	約15W（約87W）
		Windows Vista	約15W（約87W）
外形寸法（突起部含まず）			W319×D244×H37.0～39.0mm
質量			約2.08kg （内蔵バッテリパック（標準）搭載、モバイルマルチベイ用カバー搭載時）[注35]
電波障害対策			VCCIクラスB

製品名称	LIFEBOOK T900/B
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、 製品情報の仕様をご覧ください。
国際エネルギースタープログラム[注36]	対応[注37]
温湿度条件	温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
プレインストールOS[注38][注39]	Windows® 7 Professional正規版、 Windows Vista® Business with Service Pack 2正規版
サポートOS[注38]	Windows® 7 Enterprise正規版、 Windows® 7 Professional正規版、 Windows Vista® Business with Service Pack 2正規版 Windows® XP Tablet PC Edition 2005正規版[注40]

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 ：・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「9.2 CPU」（→P.201）をご覧ください。

注2 ：DMIはDirect Media Interfaceの略です。

注3 ：カスタムメイドの選択によっては、2GBまたは4GBの場合もあります。

注4 ：・メモリ容量を4GBにするには、メモリの搭載状況により、搭載済みのメモリをすべて取り外してから、メモリ（拡張RAMモジュール -2GB）を2枚取り付ける必要があります。
例）1GBメモリが1枚搭載されている場合や、1GBメモリが2枚搭載されている場合など
・4GB搭載時でも、OSの画面上の表示にかかわらず、OSが使用可能な領域は約3GBになります。
ただし、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
・合計で2GBを超えるメモリを搭載した場合は、完全メモリダンプを使用できません。

注5 ：カスタムメイドの選択によっては、空きメモリスロットがない場合もあります。

注6 ：Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、本パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ1GBの場合：最大249MB
・メインメモリ2GBの場合：最大761MB
・メインメモリ4GBの場合：最大1305MB

注7 ：Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、本パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ1GBの場合：最大217MB
・メインメモリ2GBの場合：最大729MB
・メインメモリ4GBの場合：最大1273MB

注8 ：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。また、スクリーンセーバーの設定については、Windowsのヘルプをご覧ください。
・表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。

注9 ：・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注10 ：容量は、$1GB=1000^3$バイト換算値です。

注11 ：カスタムメイドの選択によっては、250GB（シリアルATA、5400rpm）、320GB（シリアルATA、5400rpm）または暗号化機能付160GB（シリアルATA、5400rpm）の場合もあります。

注12 ：カスタムメイドの選択によって搭載されています。

注13 ：・CD/DVDドライブの仕様は、「9.4 CD/DVDドライブ」（→P.205）をご覧ください。
・カスタムメイドでCD/DVDドライブユニットを選択しなかった場合は、パソコン本体にモバイルマルチベイ用カバーが取り付けられています。

注14 ：使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注15 ：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式）またはUSB小型マウス（レーザー式）が添付されています。

注16 ：56000bpsはV.92の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。V.92の33600bpsを超える通信速度は受信時のみで、送信時は33600bpsが最高速度となります。また、日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。

注17 ：・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。
・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wakeup on LAN機能はご使用になれません。
・省電力状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.55）をご覧ください。
・電源オフ状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「6.4.5 Wakeup on LANを有効にする」（→P.149）をご覧ください。

注18 ：Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance® 」の相互接続性テストに合格していることを示しています。

注19 ：IEEE 802.11n準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。

注20 ：OSの動作中はタブレットボタンとして使用できます。

注21 ：BIOSパスワードをスマートカード認証に置き換えることはできません。

注22 ：ご購入時のセキュリティチップの状態は、無効になっています。

注23 ：・SDメモリーカードとメモリースティックの同時使用はできません。
・すべてのSDメモリーカード／メモリースティックの動作を保証するものではありません。
・著作権保護機能には対応していません。
・マルチメディアカード（MMC）、およびセキュアマルチメディアカードには対応していません。
・2GBを超えるSDカードには対応していません。2GBを超え32GBまでの場合はSDHCカードを、32GBを超え64GBまでの場合はSDXCカードをお使いください。
・miniSDカード、microSDカード／microSDHCカード、メモリースティック Duo／メモリースティック PRO Duo／メモリースティック PRO-HG Duo、メモリースティック マイクロをお使いの場合は、アダプターが必要になります。
・SDIOカードには対応していません。

注24 ・すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
・外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

注25 ：すべてのIEEE1394対応周辺機器の動作を保証するものではありません。

注26 ：本パソコンは、電気通信事業法による技術基準適合認定を取得しています。
回線認定番号：A05-0413001

注27 ：ご購入時は「マイク」に設定されています。OS上で設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することもできます。ラインイン端子として使用する場合には、次の仕様となります。
（入力：1V以下、入力インピーダンス10kΩ 以上）

注28 ：ご購入時は「ヘッドホン」に設定されています。OS上で設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することもできます。ラインアウト端子として使用する場合には、次の仕様となります。
（出力：1V以上、負荷インピーダンス10kΩ 以上）

注29 ：別売のオプション品です。

注30 ：・HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・市販のテレビとの連動機能はありません。

注31 ：矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用DC/AC電源など）に接続されると故障する場合があります。

注32 ：社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver1.0）」（http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html）。
なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の駆動時間は使用条件により異なります。

注33 ：・電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
・バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。

注34 ：・当社測定基準によります（メモリ1GB、HDD 160GB、スーパーマルチドライブ、無線LANなし、LCD輝度最小）。
・電源オフ時の消費電力は、約1W以下（満充電時）です。
電源オフ時の消費電力を0にするには、ACケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注35 ：カスタムメイドで選択した場合、別売オプションを取り付けた場合の質量の増減は、次のとおりです。

内蔵スーパーマルチドライブユニット	約180g
増設用内蔵バッテリユニット（別売）	約280g

注36 ：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

注37 ：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

ENERGY STAR

注38 ：日本語32ビット版。

注39 ：いずれかのOSがプレインストールされています。

注40 ：Windows® XP Service Pack 3。

9.2 CPU

本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

■ インテル(R) ターボ・ブースト・テクノロジー

インテル® ターボ・ブースト・テクノロジーは、マルチコアの使用状況に合わせて、CPUが処理能力を自動的に向上させる機能です。

POINT

- OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させるテクノロジーです。複数のソフトウェアを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

■ インテル(R) バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシン・ソフトウェア）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

■ 拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー（EIST）

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

POINT

- この機能により本パソコンの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。電源プランを切り替えるには、「■ 電源プランを切り替える」（→P.55）をご覧ください。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。
データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[ソフトウェア名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

9.3 ディスプレイ

9.3.1　シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

パソコン本体の液晶ディスプレイだけを使用している場合、シングル表示の場合、拡張デスクトップ表示の場合に、本パソコンが出力可能な解像度です。
外部ディスプレイの場合、お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。
お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数は、「16ビット」（約6万5千色）または「32ビット」（約1677万色）が選択できます。

■ 液晶ディスプレイ

解像度	対応
800×600	○
1024×768	○
1280×800	○

■ アナログディスプレイ／デジタルディスプレイ（DVI）

解像度	対応	水平走査周波数（kHz）	リフレッシュレート（Hz）
800 × 600	○	37.9	60
		48.1	72
		46.9	75
		53.7	85
1024 × 768	○	48.4	60
		56.5	70
		60.0	75
		68.7	85
1280 × 720注	○	45.0	60
1280 × 768注	○	47.8	60
1280 × 800注	○	49.7	60
1280 × 1024	○	64.0	60
		80.0	75
		91.1	85
1360 × 768注	○	47.7	60
1400 × 1050注	○	65.3	60
1440 × 900注	○	55.9	60
1600 × 900注	○	60.0	60
1600 × 1200	○	75.0	60
		93.8	75
		106.3	85
1680 × 1050注	○	64.7	60
1920 × 1080注	○	67.0	60
1920 × 1200注	○	74.0	60

注 ：お使いの外部ディスプレイの液晶パネルの解像度と一致している場合のみ表示できます。

■ デジタルディスプレイ（HDMI）

解像度	対応
1280 × 720注	○
1360 × 768注	○
1920 × 1080注	○

注 ：お使いの外部ディスプレイの液晶パネルの解像度と一致している場合のみ表示できます。

9.3.2　クローン表示の解像度

クローン表示の場合に本パソコンが出力可能な解像度です。
お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数は、「16ビット」（約6万5千色）または「32ビット」（約1677万色）が選択できます。

■ 液晶ディスプレイ＋アナログディスプレイ／デジタルディスプレイ（DVI）

解像度	対応	水平走査周波数（kHz）	リフレッシュレート（Hz）
800×600	○	37.9	60
		48.1	72
		46.9	75
		53.7	85
1024×768	○	48.4	60
		56.5	70
		60.0	75
		68.7	85
1280×720注	○	45.0	60
1280×768注	○	47.8	60
1280×800注	○	49.7	60

注 ：お使いの外部ディスプレイの液晶パネルの解像度と一致している場合のみ表示できます。

■ 液晶ディスプレイ＋デジタルディスプレイ（HDMI）

解像度	対応
1280×720	○

9.4 CD/DVDドライブ

対 象　CD/DVDドライブ搭載機種

各数値は仕様上の最大値です。使用するディスクや状況によって異なる場合があります。

ディスク	スーパーマルチドライブ注	
	読込速度	書込速度
CD-ROM	24x	—
CD-R	24x	24x
CD-RW	24x	10x
DVD-ROM	8x	—
DVD-R（4.7GB）	8x	8x
DVD-R DL（8.5GB）	6x	4x
DVD-RW	8x	6x
DVD+R（4.7GB）	8x	8x
DVD+R DL（8.5GB）	6x	4x
DVD+RW（4.7GB）	8x	8x
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB）	5x	5x

注 ：バッファーアンダーランエラー防止機能付

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- **ハードディスクのデータを消去していますか？**
  パソコン本体に内蔵されているハードディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。パソコンを廃棄するときは、ハードディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。
  ハードディスク内のデータ消去については、「4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.114）をご覧ください。
- **本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。**
  ・法人、企業のお客様へ
  本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html）をご覧ください。
  ・個人のお客様へ
  本製品を廃棄する場合は、お申し込みホームページ（http://azby.fmworld.net/recycle/）をご覧ください。

■ 使用済みバッテリについて

- **使用済みバッテリは、次のように取り扱いください。**
  ・リチウムイオン電池のバッテリパック、バッテリユニットは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
  ・使用済みバッテリは、ショート防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
  ・バッテリを火中に投じると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。
  バッテリの仕様については、「仕様一覧」－「本体仕様」またはバッテリのマニュアルをご覧ください。
- **使用済みバッテリを廃棄する場合は、次のように行ってください。**
  ・法人・企業のお客様へ
  弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html）をご覧ください。

・個人のお客様へ
使用済みバッテリは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクルBOXに入れてください。
詳しくは、一般社団法人JBRCのホームページ（http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html）をご覧ください。
弊社は一般社団法人JBRCに加盟し、リサイクルを実施しています。

このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

索引

記号

3G Watcher 122

A

Adobe Reader 122, 194

B

BIOS
　ーイベントログ 149, 192
　ーエラーメッセージ 188
　ーパスワード 144
BIOSセットアップ 133
　ー起動する 134
　ー終了する 135

C

CD/DVDドライブ
　ー書き込み 69
　ー再生 70
　ー仕様 205
　ー使用できるディスク 65
　ーセット 67
　ー取り出し 68
CLEARSURE 112
CPU 201
CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU 122, 195

D

DEP 201
DVD-Video 70

E

Easy Backup 117, 122
EIST 201
ExpressCard 77

F

FeliCaポート 111
Fnキー 19
Fujitsu Display Manager 43, 122
Fujitsu Menu 91

G

Googleツールバー 122

H

HDDプロテクション 92

I

IEEE1394コネクタ 104
IndicatorUtility 30, 37, 49, 122
i-フィルター 120, 130, 194

L

LAN 75
LANコネクタ 106

M

ME BIOS Extension 151
MEセットアップ
　ー起動する 154
　ー終了する 154
Microsoft Office 127, 130

P

PC乗換ガイド 121
Plugfree NETWORK 75, 122
Portshutter 111, 120

Q

Quality Gaaiho PDF Suite . . . 123, 130, 195

R

Roxio Creator 69, 126

S

SDメモリーカード 81
Shock Sensor Utility 92, 123
SMARTACCESS/Basic 120, 130
Systemwalker Desktop Patrol Lite 123

T

Tablet PC入力パネル 36

U

UpdateAdvisor. 109, 121
USBコネクタ 104

W

Wakeup on LAN 54, 55, 149
Windows Live メール 126, 195
Windows Update 109
WinDVD 70, 126

あ行

アンインストール. 131
暗号化機能付HDD 112
暗号化機能付フラッシュメモリ
　ディスク. 112
イベントログ. 149, 192
インストール
　－i-フィルター 130
　－Microsoft Office 130
　－Quality Gaaiho PDF Suite 130
　－SMARTACCESS/Basic 130
　－ノートン アンチウイルス 2011. . 129
インテル(R) ターボ・ブースト・
　テクノロジー. 201
インテル(R) バーチャライゼーション・
　テクノロジー. 201
インテル(R) ハイパースレッディング・
　テクノロジー. 201
エグゼキュート・ディスエーブル・
　ビット機能. 112, 201
エラーメッセージ. 172, 188
お手入れナビ. 123, 162
お問い合わせ先. 194
音声入出力端子. 105
　－切り替え. 51
音量調節
　－機器／項目. 50
　－全体. 49
　－ソフトウェア. 49
音量ミキサー. 49

か行

解像度. 38, 202, 204
拡大表示設定. 38
拡張デスクトップ表示. 40, 41
拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー
　（EIST）. 201
管理者用セキュリティボタン. 84
キーボード
　－お手入れ. 158
起動デバイス. 147
起動メニュー. 136
キャリブレーション. 34
吸気孔. 17, 18
休止状態. 52
空冷用通風路. 160
クローン表示. 40, 42
コンピューターウイルス. 108

さ行

サポートナビ. 121
指紋センサー. 110, 149
シャットダウン. 54
省電力状態. 52, 53
　－休止状態. 52
　－省電力モード. 57
　－スリープ状態. 52
省電力モード. 52, 57
省電力ユーティリティ. 57, 123
照度センサー. 13
シングル表示. 40, 42
診断プログラム. 166
スマートカード. 111
スリープ状態. 52
静音ユーティリティ. 123
セーフモード. 165
セキュリティチップ. 111, 147
セキュリティボタン. 84, 110, 120

た行

タッチパネル. 33
　－キャリブレーション. 34
タブレットボタン. 89
タブレットモード. 45

ディスプレイ 37
　－明るさの変更 37
　－お手入れ 158
　－解像度 202, 204
　－解像度の変更 38
　－拡大表示設定の変更 38
　－拡張デスクトップ表示 41
　－画面表示の向きの変更 47
　－クローン表示 42
　－シングル表示 42
　－タブレットモード 45, 46
　－マルチディスプレイ機能 40
ディスプレイコネクタ 102
データ実行防止（DEP）機能 201
テンキーモード 20
電源オフUSB充電ユーティリティ . . . 124
電源プラン 55
電源を切る 54
盗難防止用ロック 113
ドコモ コネクションマネージャ 124
ドライバーズディスク検索ツール 128

な行

ノートパソコンモード 45
ノートン アンチウイルス
　2011 . . . . . 108, 120, 129, 194

は行

ハードディスクデータ消去 115
ハードディスクパスワード 144
廃棄 114, 206
排気孔 16
パスワード
　－BIOS 144
　－ME BIOS Extension 151
　－セキュリティボタン 84
バックアップ 117
バッテリ 58
　－交換 61
　－残量 60
　－充電 59
　－充電モード 62
　－状態 63
バッテリーユーティリティ 62, 63, 124
バッテリ残量ランプ 60
バッテリ充電ランプ 59
ビープ音 172
富士通拡張機能ユーティリティ 124
富士通タブレット
　コントロール 48, 89, 124
富士通タブレットボタン
　ユーティリティ 124
富士通モニタユーティリティ 124
フラットポイント 25
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子 . . 105
ペン
　－ペン機能の設定 36
　－ペン先の交換 36
ポートリプリケータ 100

ま行

マイク・ラインイン兼用端子 105
マウス 31
　－お手入れ 158
マルチディスプレイ機能 40
　－拡張デスクトップ表示 40
　－クローン表示 40
　－シングル表示 40
無線LAN 76
メモリ 96
　－取り付け 97
　－取り外し 99
メモリーカード 80
モデム 76
モデムコネクタ 106

や行

ユーザー用セキュリティボタン 84
ゆったり設定2 125

ら行

らくらくズーム 125
リージョンコード 71
リサイクル 206
リリースボタン 14
レジューム 53
ローテーションボタン 47, 89

わ行

ワイヤレスアンテナ 13
ワイヤレススイッチ 14
ワンタッチボタン設定 125

LIFEBOOK
T900/B

製品ガイド
B6FJ-5321-01-00

発 行 日　2010年10月
発行責任　富士通株式会社

Printed in Japan

●このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。
●落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。